市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第68集

上総国分僧寺跡Ⅲ

2026

市 原 市 教 育 委 員 会

上総国分僧寺跡Ⅲ

（かずさこくぶんそうじあと）

2026

市 原 市 教 育 委 員 会

序　文

市原市は、千葉県のほぼ中央に位置し、養老川が形成した肥沃な平野から標高300m近い丘陵部まで変化に富んだ地勢を有します。この豊かな地に古くから暮らした人々の痕跡は、「王賜」銘鉄剣や上総国分僧尼寺跡に代表される埋蔵文化財となって当時の状況を私たちに伝えてくれます。

今回の発掘調査は、国指定史跡上総国分寺跡（上総国分僧寺）の保存を目的として、遺構の内容と保存範囲を確認するために実施し、奈良・平安時代の掘立柱建物跡を検出しました。上総国分僧寺の運営に関わる施設とみられます。全国の国分寺跡でも、運営施設が発見されている例は少なく、重要な発見となりました。

発掘調査は本書の刊行をもって終了しますが、この調査によって得られた成果は、記録として将来に伝えられると同時に、市原歴史博物館と連携して、市民の生涯学習や、学校教育に活用できるように、一層心を砕いてまいりたいと考えております。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多大な御尽力をいただきました千葉県教育庁教育振興部、地元関係者の方々の御努力に対し、厚くお礼申し上げます。

令和８年１月

市原市教育委員会

教育長　藤谷　誠

例言・凡例

1　本報告書は、市原市惣社二丁目7番地7・8に所在する上総国分寺僧寺跡の発掘調査報告書である。上層の上総国分僧寺跡第17次調査と、下層の中台遺跡第18次調査の成果を掲載する。

2　発掘調査は遺跡の保存を目的とした遺跡範囲及び内容確認のため、千葉県教育委員会の指導のもと、市原市埋蔵文化財調査センターが実施した。

3　発掘調査は、調査対象面積2,830.98㎡のうち、675㎡を対象として実施した確認調査である。

4　発掘調査・整理作業は以下のとおりに行った。

確認調査　令和5年4月27日～令和5年6月26日　担当　鈴木宏和

整理作業　令和7年4月 1日～令和7年9月30日　担当　浅野健太

5　本書の編集は浅野健太が行った。執筆は第4章第1節をパリノ・サーヴェイ株式会社（管理者：高野和弘　担当者・分析者：田中義文）、第2節をパリノ・サーヴェイ株式会社（管理者：高野和弘　担当者：田中義文　分析者：田中義文・東澤翔）、これ以外を浅野が担当した。

6　本書記載の奈良・平安時代以降の遺構帰属時期区分は『上総国分僧寺跡Ⅰ』（櫻井2009）に、これ以前の遺構時期区分は『市原市中台遺跡』（鶴岡2013）による。また本書の掲載の瓦の分類基準は『上総国分僧寺跡Ⅱ』（鶴岡ほか2016）による。

7　上総国分僧寺跡Ⅲの調査コードはセ608（確認調査）である。

8　図中の方位は座標北を、高さは海抜を示している。また座標値は世界測地系である。

9　本書内において、（　）を付した数値は残存値、？を付した数値は推定値を示す。

10　土器実測図は、完形・反転復元実測図は4分の1、断面実測図は3分の1の縮尺で掲載している。

11　写真図版中、図版13から図版17までのスケールは、実測図と同じ縮尺である。

12　平面図及び土層断面図の「K」は撹乱を示している。

13　図版3はAgisoft Metashape Professional（64bit）ver.2.2.2により作成した。

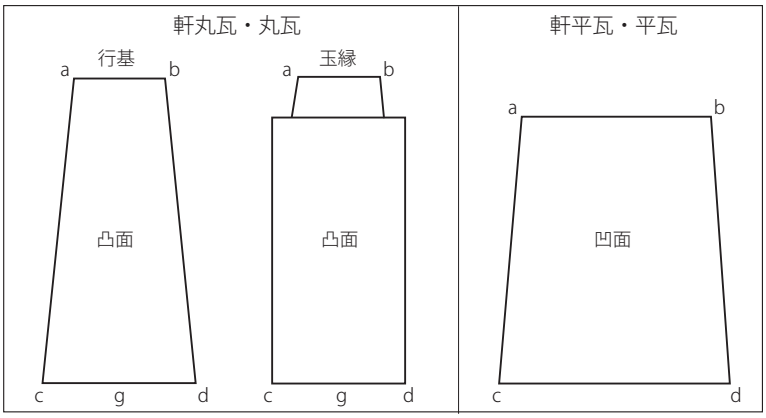
14　本書の執筆にあたり元国士舘大学教授　須田勉氏に多くのご教示を賜った。出土石製品の材質鑑定については、パリノ・サーヴェイ株式会社　坂元秀平氏にお願いした。記して謝意を表する次第である。

15　本書に掲載した出土遺物及び図面・写真等の記録類は、市原市埋蔵文化財調査センター（千葉県市原市能満1489番地）で収蔵・保管している。

16　挿図におけるスクリーントーン・遺物表示の用例は下記による。



瓦観察表残存部位の表記



eはその他の部位を示す

本 文 目 次

第1章　調査の経緯と概要

第 1 節　調査に至る経緯 …… 1

第 2 節　遺跡の立地と歴史的環境 …… 1

第 3 節　発掘調査の概要 …… 7

第2章　遺構と遺物

第 1 節　トレンチ …… 10

第 2 節　拡張区 …… 26

第 3 節　遺構外出土遺物 …… 40

第3章　考察

第 1 節　中台遺跡の遺構の変遷 …… 43

第 2 節　上総国分僧寺の遺構の変遷 …… 43

第 3 節　第17次調査の掘立柱建物の性格 …… 44

第4章　自然科学分析

第 1 節　上総国分僧寺跡ほかの年代測定 …… 60

第 2 節　上総国分僧寺跡ほかの出土炭化材同定 …… 65

挿 図 目 次

第 1 図　上総国分僧寺跡 位置図 …… 2
第 2 図　国分寺台地区と周辺の遺跡群 …… 3・4
第 3 図　上総国分僧寺跡と周辺遺跡全体図 …… 5・6
第 4 図　上総国分僧寺跡 遺構配置図 …… 8
第 5 図　全体図 …… 9
第 6 図　1・2・37トレンチ 平面図・断面図、2トレンチ 遺物実測図 …… 11
第 7 図　3・4・35トレンチ 平面図・断面図 …… 12
第 8 図　SI002・016、SD001、3トレンチ 遺物実測図 …… 13
第 9 図　35トレンチ 遺物実測図、5トレンチ 平面図 …… 15
第 10 図　6・7・8トレンチ 平面図・断面図、SK001、7トレンチ 遺物実測図 …… 17
第 11 図　10・11トレンチ 平面図・断面図、10・11トレンチ、SK004 遺物実測図 …… 19
第 12 図　12・16・17トレンチ 平面図・断面図、15トレンチ 平面図、SI010 遺物実測図 …… 20
第 13 図　20・21トレンチ 平面図・断面図、21トレンチ 遺物実測図 …… 22
第 14 図　25・26・27トレンチ 平面図・断面図 …… 23
第 15 図　29・30・31トレンチ 平面図・断面図、30トレンチ 遺物実測図、32トレンチ 平面図 …… 25
第 16 図　33・34トレンチ 平面図・断面図、36トレンチ 平面図、
33トレンチ・SI018・SD001・SK005 遺物実測図 …… 27
第 17 図　SI019・020 平面図 …… 28
第 18 図　SI021・022・023・024・025、SD002 平面図、SI021 断面図 …… 29
第 19 図　SI026 平面図 …… 31
第 20 図　SB001A 平面図・断面図 …… 32
第 21 図　SB001A 遺物実測図 …… 33
第 22 図　SB001B 平面図・断面図・遺物実測図 …… 34
第 23 図　SB002A 平面図・断面図 …… 35
第 24 図　SB002B 平面図・断面図 …… 36
第 25 図　SB003A 平面図・断面図 …… 37
第 26 図　SB003A 遺物実測図 …… 38
第 27 図　SB003B 平面図・断面図 …… 39
第 28 図　SB003B 遺物実測図 …… 40
第 29 図　SB004 平面図・断面図・遺物実測図 …… 41
第 30 図　拡張区・遺構外出土 遺物実測図 …… 42
第 31 図　中台遺跡の変遷 弥生後期 …… 47
第 32 図　中台遺跡の変遷 弥生終末期 …… 48
第 33 図　中台遺跡の変遷 古墳前期 …… 49
第 34 図　Ⅱ期 遺構配置図 …… 50
第 35 図　Ⅲ期 遺構配置図 …… 51
第 36 図　Ⅳ−2期 遺構配置図 …… 52
第 37 図　Ⅳ−3期 遺構配置図 …… 53
第 38 図　Ⅳ−4期 遺構配置図 …… 54
第 39 図　Ⅴ期 遺構配置図 …… 55
第 40 図　Ⅷ期 遺構配置図 …… 56
第 41 図　Ⅹ期 遺構配置図 …… 57
第 42 図　XVI期 遺構配置図 …… 58
第 43 図　萩ノ原遺跡8号住居出土墨書土器 …… 45
第 44 図　暦年較正結果 …… 62
第 45 図　暦年較正結果 …… 64

写 真 図 版 目 次

図版 1　国分寺台周辺空中写真
図版 2　遺跡周辺空中写真
図版 3　拡張区3次元データ（オルソ画像）
図版 4　SB001A・B ／ SB004
図版 5　SB001A柱穴 c2 出土状況／上総国分僧寺跡軒瓦
図版 6　遺構　表土掘削　調査前風景　1トレンチ　2トレンチ　3トレンチ　4トレンチ　5トレンチ　6トレンチ
図版 7　遺構　SK001　7トレンチ　8トレンチ　10トレンチ　11トレンチ　12トレンチ　13トレンチ　15トレンチ
図版 8　遺構　16トレンチ　17トレンチ　20トレンチ　21トレンチ　25トレンチ　26トレンチ　27トレンチ
　　29トレンチ
図版 9　遺構　30トレンチ　31トレンチ　32トレンチ　33トレンチ　34トレンチ　36トレンチ
　　SD001（36トレンチ）　SK005
図版 10　遺構　SI019　SI020　SI021　SI023　SI024　SI026　SD002　SB001A　SB002A・B
図版 11　遺構　SB002A・B　SB003A・B　掘削作業風景　拡張区遠景
図版 12　土器　SI002　SI016　SD001（35トレンチ）　3トレンチ　SK001　10トレンチ　33トレンチ
　　SD001（36トレンチ）　SK005　拡張区
図版 13　土器　2トレンチ　SI002　SI016　SD001（35トレンチ）　3トレンチ　35トレンチ　SK001　11トレンチ
　　SI010
図版 14　土器　21トレンチ　33トレンチ　SB001B　SB003A　SB004　拡張区　遺構外
　　瓦　SI016　3トレンチ　35トレンチ
図版 15　瓦　7トレンチ　SK004　21トレンチ　30トレンチ　SB001A　SB003A
図版 16　瓦　SB003B　SB004　拡張区　遺構外
　　石製品　SD001（36トレンチ）　遺構外
　　鉄製品　3トレンチ　SK001　7トレンチ
図版 17　鉄製品　21トレンチ　SI018　SB004　拡張区
　　墨書土器赤外線写真　33トレンチ　35トレンチ　SB003A　SB004
　　線刻土器部分写真　SD001（35トレンチ）
図版18　炭化材（1）
図版19　炭化材（2）
図版20　炭化材（3）

表 目 次

第 1 表　遺構一覧 …… v
第 2 表　掘立柱建物跡一覧 …… vi
第 3 表　遺構ピット一覧 …… vi
第 4 表　掘立柱建物跡　柱穴新旧番号対応表 …… vi
第 5 表　放射性炭素年代測定結果 …… 61
第 6 表　試料一覧 …… 62
第 7 表　放射性炭素年代測定結果 …… 63
第 8 表　樹種同定結果 …… 66
第 9 表　土器・土製品観察表 …… 68
第10表　軒丸瓦観察表 …… 70
第11表　軒平瓦観察表 …… 70
第12表　丸瓦観察表 …… 70
第13表　平瓦観察表 …… 70
第14表　塼観察表 …… 71
第15表　石製品観察表 …… 71
第16表　鉄製品観察表 …… 71
第17表　掲載外遺物集計表 …… 72
第18表　未掲載軒平瓦出土量一覧 …… 75
第19表　未掲載平瓦・丸瓦出土量一覧 …… 75

第1表　遺構一覧

遺構番号	旧遺構番号	遺構種	挿図番号	縮尺	主軸 cm	×	副軸 cm	上端面積 ㎡	下端面積 ㎡	深度 cm	主軸方向 E東・W西	柱穴	時期	区分	古い	新しい
SI001	2	竪穴建物跡	7	1：80	（268）	×	（100）	（2.68）	－	50	N－82.5°－W	－	古墳時代前期？	【中台】草刈式	SI002	
SI002	3	竪穴建物跡	7	1：80	（244）	×	（100）	（2.44）	－	－	N－80.5°－W	－	古墳時代前期	【中台】草刈３式		SI001
SI003	5	竪穴建物跡	9	1：80	（277）	×	（276）	（7.64?）	－	－	N－27.0°－W	－	不明	不明		
SI004	10	竪穴建物跡	10	1：80	（160）	×	（52）	（0.83?）	－	－	N－9.5°－E	－	不明	不明		
SI005	11	竪穴建物跡	10	1：80	（226）	×	（114）	（2.57?）	－	－	N－81.0°－W	－	弥生時代終末期～古墳時代前期	【中台】中台～草刈式		
SI006	12	竪穴建物跡	10	1：80	（88）	×	（34）	（0.29?）	－	12	N－21.5°－E	－	弥生時代終末期～古墳時代前期	【中台】中台～草刈式		
SI007	15	竪穴建物跡	10	1：80	（258）	×	（60）	（1.54?）	－	－	N－15.0°－E	－	不明	不明		
SI008	19	竪穴建物跡	11	1：80	（156）	×	（126）	（1.96?）	－	－	N－13.0°－E	－	弥生時代終末期	【中台】中台式		
SI009	20	竪穴建物跡	11	1：80	（92）	×	（18）	（0.16?）	－	－	N－85.5°－W	－	不明	不明		
SI010	157	竪穴建物跡	12	1：80	（192）	×	（120）	（2.30?）	－	－	N－39.5°－W	－	弥生時代終末期	【中台】中台式	SI011	
SI011	158	竪穴建物跡	12	1：80	（269）	×	（162）	（4.35?）	－	19	N－39.5°－W	－	弥生時代終末期	【中台】中台式		SI010
SI012	26	竪穴建物跡	13	1：80	（239）	×	（121）	（2.89?）	－	－	N－45.5°－E	－	弥生時代後期	【中台】山田橋式		SI013
SI013	160	竪穴建物跡	13	1：80	（286）	×	（264）	（7.55?）	－	－	－	－	不明	不明	SI012	
SI014	162	竪穴建物跡	14	1：80	（269）	×	（116）	（3.12?）	－	－	N－23.5°－E	－	弥生時代終末期～古墳時代前期	【中台】中台～草刈式		
SI015	168	竪穴建物跡	14	1：80	（299）	×	（118）	（3.52?）	－	－	N－19.5°－E	－	弥生時代終末期	【中台】中台式		
SI016	174	竪穴建物跡	7	1：80	（495）	×	494	（24.45）	－	－	N－83.0°－E	－	9世紀末～10世紀初頭	【僧寺】Ⅴ期	SD001	
SI017	175	竪穴建物跡	7	1：80	（200）	×	（144）	（2.88）	－	－	N－30.5°－E	－	古墳時代前期？	【中台】草刈式		
SI018	177	竪穴建物跡	16	1：80	（300）	×	（251）	（7.53）	－	－	N－60.0°－E	－	古墳時代前期	【中台】草刈式		SK005、SD001
SI019	24	竪穴建物跡	17	1：80	517	×	461	23.8	－	－	N－53.0°－W	－	弥生時代終末期	【中台】中台式		SB001A・B
SI020	25	竪穴建物跡	17	1：80	411	×	391	16.0	－	－	N－56.5°－E	－	弥生時代終末期	【中台】中台式		SB001A・B、SB004
SI021	182	竪穴建物跡	18	1：80	（542）	×	（511）	（27.7?）	－	－	N－55.0°－W	－	弥生時代終末期	【中台】中台式		SB003A・B、SD002
SI022	184	竪穴建物跡	18	1：80	（376）	×	（308）	（11.5?）	－	－	N－9.5°－E	－	古墳時代前期	【中台】草刈式		SB003A・B
SI023	186	竪穴建物跡	18	1：80	（250）	×	（96）	（2.4?）	－	－	N－46.0°－W	－	古墳時代前期	【中台】草刈式		SI024、SB003A・B、SD002
SI024	190	竪穴建物跡	18	1：80	（370）	×	（110）	（4.0?）	－	－	N－43.5°－W	－	不明	不明	SI023、SI025	SB003A・B、SD002
SI025	195	竪穴建物跡	18	1：80	（100）	×	（54）	（0.5?）	－	－	N－46.5°－W	－	不明	不明		SI024
SI026	219	竪穴建物跡	19	1：80	534	×	（395）	（21.0）	－	－	N－77.0°－W	－	弥生時代終末期	【中台】中台式		SB002A・B
SB001A	90・91・92・93・95・101・103・108・109	掘立柱建物跡	20	1：80	620	×	516	32.0	－	－	N－2.0°－W	（9）	8世紀末～9世紀初頭	【僧寺】Ⅳ－2期	SI019、SI020	SB001B、SB004
SB001B	97・102・105・110	掘立柱建物跡	22	1：80	623	×	529	32.9	－	－	N－3.5°－W	（4）	9世紀前葉	【僧寺】Ⅳ－3期	SI019、SI020、SB001A	SB004
SB002A	115・121・122・124・126・127	掘立柱建物跡	23	1：80	1016	×	491	49.9	－	－	N－3.0°－W	（9）	8世紀末～9世紀初頭	【僧寺】Ⅳ－2期	SI026	SB002B、SB004
SB002B	116・120・122・124・128	掘立柱建物跡	24	1：80	1029	×	494	50.8	－	－	N－3.5°－W	（9）	9世紀前葉	【僧寺】Ⅳ－3期	SI026、SB002A	SB004
SB003A	138・144・147・150	掘立柱建物跡	25	1：80	1328	×	586	77.8	－	－	N－3.5°－W	（10）	8世紀末～9世紀初頭	【僧寺】Ⅳ－2期	SI021、SI022、SI023、SI024	SB003B、SD002
SB003B	139・141・145・149	掘立柱建物跡	27	1：80	1332	×	553	73.7	－	－	N－3.0°－W	（12）	9世紀前葉	【僧寺】Ⅳ－3期	SI021、SI022、SI023、SI024、SB003A	SD002
SB004	99・104・113・118・123・129・132・135	掘立柱建物跡	29	1：80	944	×	552	52.1	－	－	N－5.7°－W	（8）	9世紀中葉	【僧寺】Ⅳ－4期	SI020、SB001A・B、SB002A・B	
SD001	176	溝	6・7・16	1：80	（3000）	×	104	－	－	－	N－87.5°－E	－	8世紀中葉～9世紀初頭	【僧寺】Ⅲ期	SI018	SI016
SD002	無	道路跡	18	1：80	（744）	×	191	－	－	－	N－57.0°－W	－	近世	【僧寺】XVI期	SI021、SI023、SI024、SB003A・B	
SK001	9	土坑	10	1：80	（136）	×	（111）	－	－	－	N－19.5°－E	－	10世紀後葉	【僧寺】Ⅷ期		
SK002	21	土坑	11	1：80	（50）	×	（46）	－	－	－	N－9.5°－W	－	不明	不明		
SK003	22	土坑	11	1：80	134	×	（124）	－	－	－	N－34.0°－W	－	不明	不明		
SK004	23	土坑	11	1：80	126	×	84	－	－	－	N－20.0°－E	－	不明	不明		
SK005	178	土坑	16	1：80	92	×	82	－	－	－	N－24.0°－W	－	11世紀後葉	【僧寺】X期	SI018	

第 2 表　掘立柱建物跡一覧

遺構番号	遺構種	挿図番号	棟方向	廂	規模 cm（尺）		柱間寸法 cm（尺）1 尺＝ 30cm で算出		廂（入側）等	建坪㎡	備考
					規格（身舎）	桁行×梁行（身舎）	桁行	梁行			
SB001A	掘立柱建物跡	20	東西	－	3 × 2	620 × 516 （20.7 × 17.2）	200+192+228 （6.7+6.4+7.6）	286+230 （9.5+7.7）	－	32.0	側柱建物
SB001B	掘立柱建物跡	22	東西	－	3 × 2	623 × 529 （20.8 × 17.6）	225+212+186 （7.5+7.1+6.2）	290+239 （9.6+8.0）	－	32.9	側柱建物
SB002A	掘立柱建物跡	23	南北	－	5 × 2	1016 × 491 （33.9 × 16.4）	224+226+200+237+129 （7.5+7.5+6.7+7.9+4.3）	254+237 （8.5+7.9）	－	49.9	側柱建物
SB002B	掘立柱建物跡	24	南北	－	5 × 2	1029 × 494 （34.3 × 16.5）	265+165+216+241+142 （8.8+5.5+7.2+8.0+4.8）	250+244 （8.3+8.2）	－	50.8	側柱建物
SB003A	掘立柱建物跡	25	南北	－	6 × 3	1328 × 586 （44.3 × 19.5）	329+240+236+191+?+?+156 （11.0+8.0+7.9+6.4+?+?+5.2）	216+?+? （7.2+?+?）	－	77.8	側柱建物
SB003B	掘立柱建物跡	27	南北	－	6 × 3	1332 × 553 （44.4 × 18.4）	279+212+230+232+165+214 （9.3+7.1+7.7+7.7+5.5+7.1）	160+?+? （5.3+?+?）	－	73.7	側柱建物
SB004	掘立柱建物跡	29	南北	－	3 × 2	944 × 552 （31.5 × 18.4）	252+350+342 （8.4+11.7+11.4）	254+298 （8.5+9.9）	－	52.1	側柱建物

第 3 表　遺構ピット一覧　単位：cm

遺構番号	遺構種	番号	長径 × 短径	深度	番号	長径 × 短径	深度	番号	長径 × 短径	深度	番号	長径 × 短径	深度	番号	長径 × 短径	深度	番号	長径 × 短径	深度	番号	長径 × 短径	深度
SB001A	掘立柱建物跡	a1	90 × 86	60?	a2	90 × 84	46?	a3	81 ×（70）	52?	a4	（110）×（33）	46?	b1	（100）×（38）	54?	b4	（121）×（20）	44?			
		c1	91 ×（30）	64?	c2	90 ×（27）	34?	c3	（74）×（50）	44?												
SB001B	掘立柱建物跡	a1	87 × 76	62?	b1	99 × 74	68?	c2	170 × 110	78?	c3	96 × 83	48?									
SB002A	掘立柱建物跡	a1	（87）×（70）	－	a2	67 ×（30）	56?	a3	88 × 74	58?	a4	136 ×（70）	62?	a5	81 × 73	49?	a6	（40）×（40）	50?			
		b1	87 × 74	－	b6	（68）×（60）	－	c6	（204）×（110）	－												
SB002B	掘立柱建物跡	a1	（87）×（70）	－	a2	80 × 77	52?	a3	78 × 69	48?	a4	136 ×（70）	62?	a5	81 × 73	49?	a6	69 ×（38）	48?			
		b1	87 × 74	－	b6	（68）×（60）	－	c6	（204）×（110）	－												
SB003A	掘立柱建物跡	a1	79 × 71	59?	a2	70 ×（29）	64?	a3	130 ×（60）	48?	a4	80 × 80	64?	a6	100 × 88	－	a7	100 × 75	－			
		b7	123 × 109	－	d3	160 × 123	－	d6	40 × 32	－	d7	（71）×（35）	－									
SB003B	掘立柱建物跡	a1	78 × 70	70?	a2	120 × 95	62?	a3	98 × 72	62?	a4	58 × 58	70?	a5	98 × 91	－	a6	92 × 84	－			
		a7	102 × 74	－	b7	123 × 109	－	d3	160 × 123	－	d4	86 × 64	－	d6	40 × 32	－	d7	（71）×（35）	－			
SB004	掘立柱建物跡	a1	104 ×（100）	66?	a2	80 × 76	52?	a3	160 × 146	72?	a4	100 × 100	74?	b4	128 × 122	45?	c2	100 × 94	66?			
		c3	100 × 90	55?	c4	94 × 80	58?															

第 4 表　掘立柱建物跡　柱穴新旧番号対応表

遺構番号	遺構種	ピット番号	旧ピット番号
SB001A	掘立柱建物跡	a1	95
		a2	93
		a3	92
		a4	91
		b1	101
		b4	90
		c1	103
		c2	108
		c3	109
SB001B	掘立柱建物跡	a1	97
		b1	102
		c2	105
		c3	110
SB002A	掘立柱建物跡	a1	40 トレンチ-SB002
		a2	115
		a3	121
		a4	122
		a5	124
		a6	127
		b1	40 トレンチ-SB001
		b6	208
		c6	209
SB002B	掘立柱建物跡	a1	40 トレンチ-SB002
		a2	116
		a3	120
		a4	122
		a5	124
		a6	128
		b1	40 トレンチ-SB001
		b6	208
		c6	209

遺構番号	遺構種	ピット番号	旧ピット番号
SB003A	掘立柱建物跡	a1	138
		a2	144
		a3	147
		a4	150
		a6	198
		a7	191
		b7	187
		d3	207
		d6	205
		d7	203
SB003B	掘立柱建物跡	a1	139
		a2	141
		a3	145
		a4	149
		a5	200
		a6	197－2
		a7	210
		b7	187
		d3	207
		d4	206
		d6	205
		d7	203
SB004	掘立柱建物跡	a1	113
		a2	118
		a3	123
		a4	129
		b4	132
		c2	99
		c3	104
		c4	135

第 1 章　調査の経緯と概要

第 1 節　調査に至る経緯

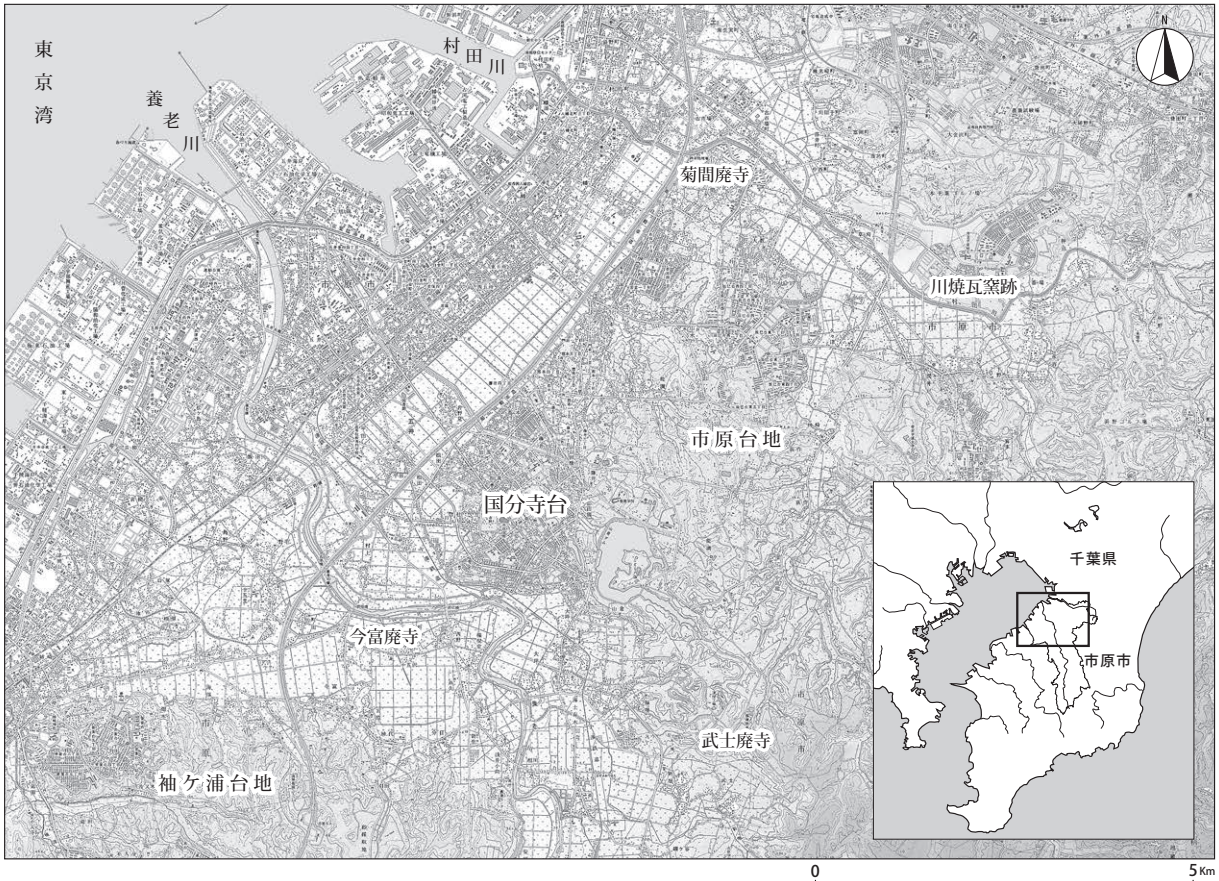
今回の発掘調査は千葉県市原市惣社二丁目７番地7、同８における保存目的の範囲内容確認調査として実施したものである。

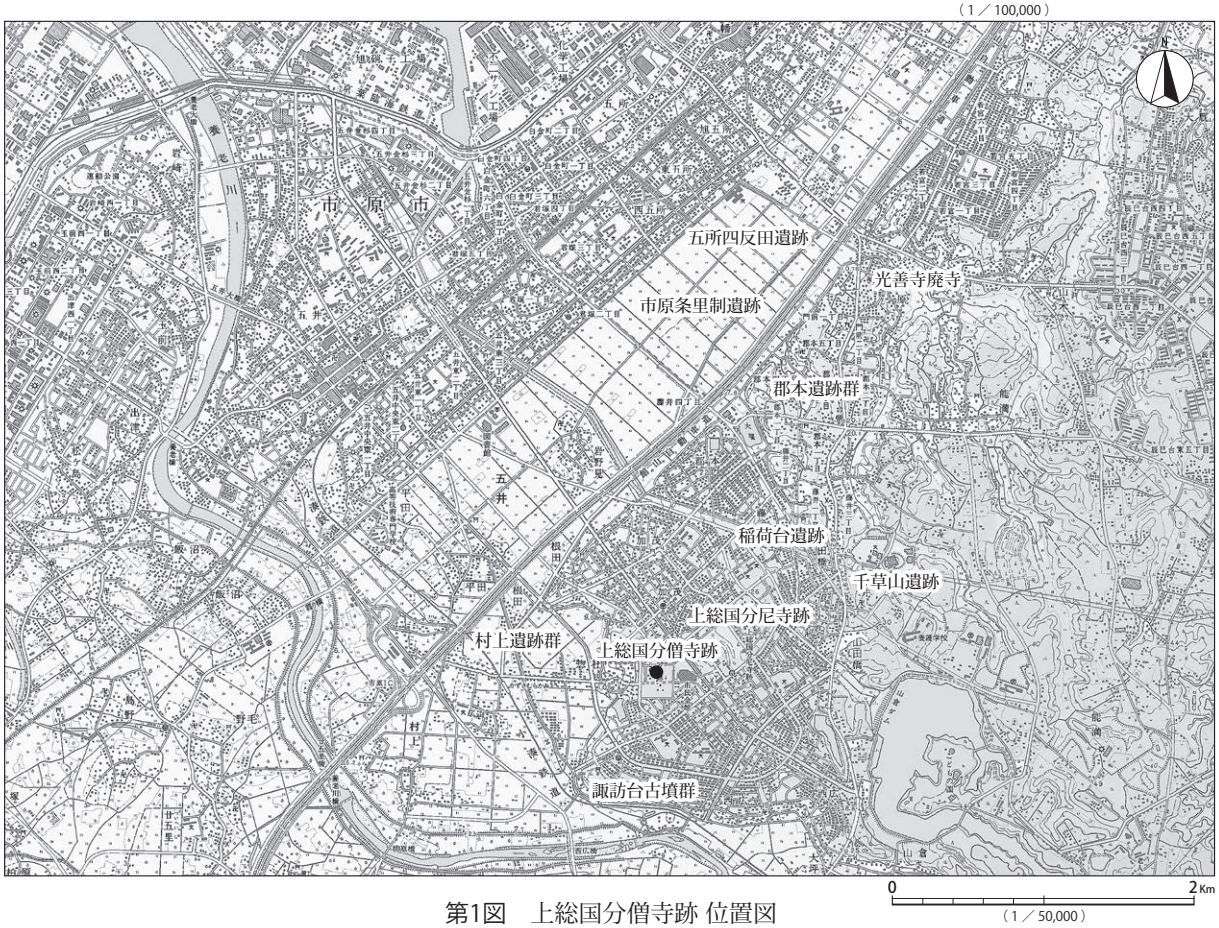
当該地は国指定史跡「上総国分寺跡」である、上総国分僧寺跡の寺院地北辺部に位置している。当該地の東側には国師院・講師院に推定される施設や、大衆院といった寺院運営施設が展開しており、当該地にも上総国分僧寺の運営に関わる重要な施設が広がっていることが予想された。そのため遺構の内容と保存範囲を確認するため、千葉県教育委員会及び市原市教育委員会との協議を行い、今回の確認調査を実施することとなった。

第 2 節　遺跡の立地と歴史的環境

上総国分僧寺跡は、「国分寺台」に所在する遺跡の一つであり、養老川の沖積平野と東京湾の海岸平野に面した標高25mから29mの台地上に立地する（第１図）。この地域には縄文時代から中世にかけて多数の複合遺跡が展開している。昭和23年（1948）には、千葉県が「市原台総合調査」の一環として早稲田大学に調査を委託し、上総国分僧寺主要伽藍と神門古墳を対象とする確認調査が実施された。その後、国分寺台土地区画整理事業による大規模開発が決まると、昭和48年（1973）には事業区域内における遺跡分布調査が実施され、上総国分僧寺跡と重複し、寺院創建以前に形成された遺構群については、「中台遺跡」として区別された。中台遺跡からは、縄文時代早期と弥生時代後期から古墳時代前期を中心とした遺構が多数検出されたが、特に弥生時代終末期には、近接する南中台遺跡（大村2009）・長平台遺跡（小橋2006）・天神台遺跡（小橋2023）などとともに、北陸系・畿内系・東海系・北関東系などの外来系土器が集中出土し、遠距離間交流の拠点地域となっていたことが明らかになっている。また、中台遺跡から検出された独立棟持柱建物を伴う方形区画施設は、東日本最古の纒向型前方後円墳として知られる神門古墳（墳丘墓）群の被葬者に深く関わる遺構として注目されている（鶴岡2013）。古墳時代前期以降、遺跡からは生活の痕跡が途切れ、上総国分寺創建期までの空白期間が続くが、人々の生活から隔絶した閑地であったために、この地が国分寺の造営地として選ばれたものと考えられる。上総国分僧寺跡の周辺には、寺院の造営・運営に深く関わった荒久遺跡（北見2011）と補修瓦を供給した南田瓦窯跡（鶴岡ほか2016）が所在するが、この関係は、上総国分尼寺跡の坊作遺跡（小出2002）と祇園原瓦窯跡に対応する。

旧市原郡域では、国分僧寺・尼寺の創建以前に上総国府の成立が推測され、国分寺台西側の低地である村上遺跡群と、北側の台地である郡本遺跡群（市原・門前・郡本・藤井地区）が候補地として挙げられているが、その所在は明らかになっていない。郡本遺跡群のうち郡本地区については、市原郡衙の厨家あるいは館が所在した可能性が高い（浅野2025a）。郡本遺跡群は、現在の国道297号線に沿うようにして古代道が縦断していたものと考えられ、道路に沿って重要遺跡が多く所在している。その代表例としては、多数の掘立柱建物や祭祀遺構、施釉陶器が検出され、国衙祭祀が行われた稲荷台遺跡（浅利ほか2003）、上総国分寺創建瓦と同笵瓦が出土した千草山遺跡（田中ほか1989）、市原郡の郡名寺院に比定する説がある光善寺廃寺（須田1998）、台地下の水田地帯に位置する市原条里制





第1図　上総国分僧寺跡 位置図



第2図　国分寺台地区と周辺の遺跡群



『市原市南中台遺跡・荒久遺跡A地点』2009　市原市教育委員会 に加筆

第3図　上総国分僧寺跡と周辺遺跡全体図

遺跡（大谷1998）、東海道と郡本遺跡群の道路を結び、祓えの祭祀が行われた五所四反田遺跡（浅野2023）が挙げられる。

第３節　発掘調査の概要

概要（第５図）

調査は対象地全体に対してトレンチを設定して行った。このうち9・13・14・18・19・22・23・28トレンチで掘立柱建物の柱穴が確認された。上総国分僧寺の運営施設は掘立柱建物を主体としており、これに関係する遺構であることが予想された。掘立柱建物の建物規模や構造を確認するため、これらのトレンチを拡張した。この拡張範囲は「拡張区」と呼称する。

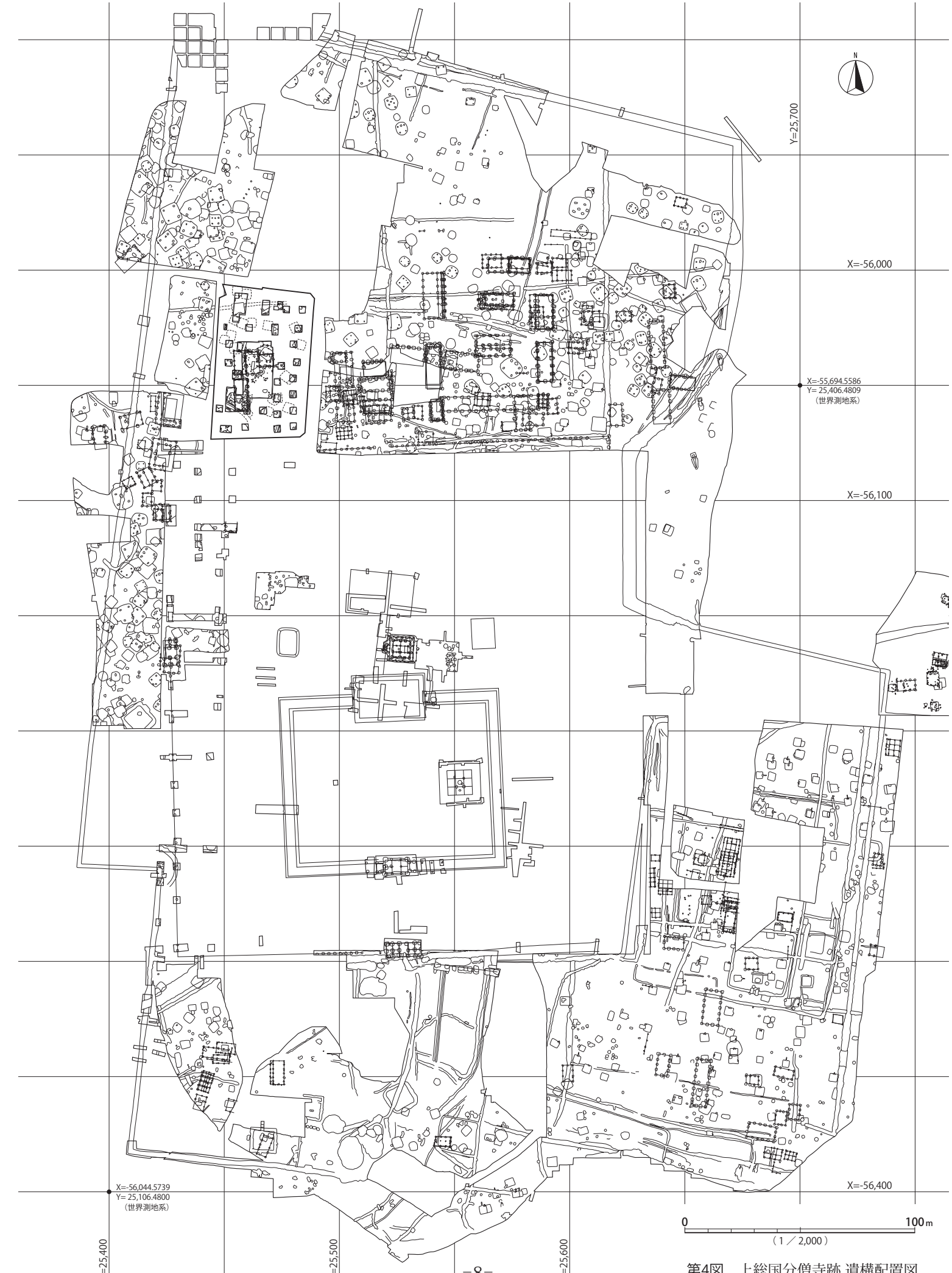
調査前の当地は市原市立惣社幼稚園が所在しており、遺構確認面には園舎造成時のものとみられる撹乱が多く入っていた。

測量基準点は世界測地系を使用し、方眼杭を打設した。表土は重機により除去し、遺構プランを確認した。図面作成については電子平板等で記録した。

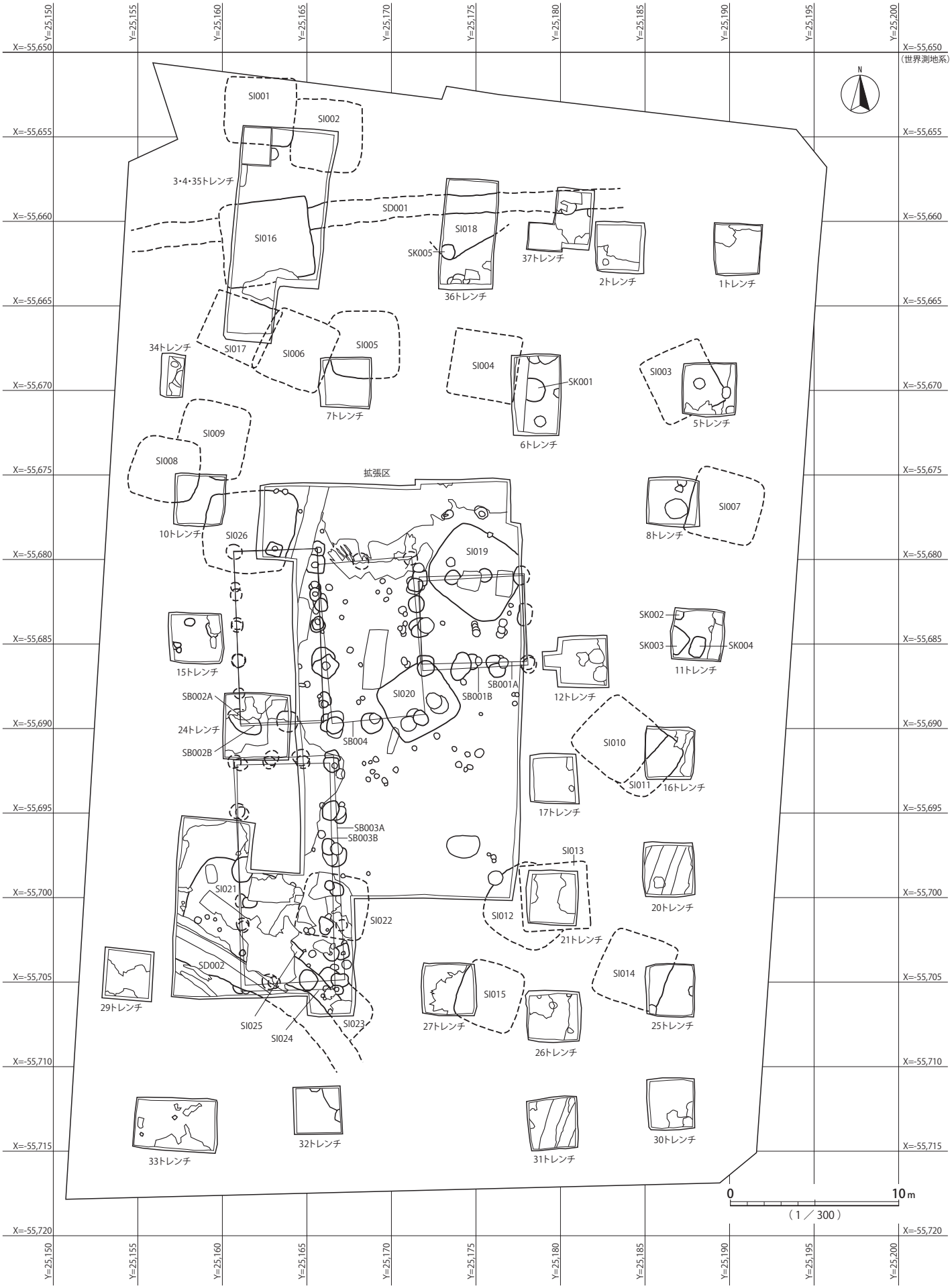
整理作業では新たに遺構番号を振りなおした。旧遺構番号は遺構一覧に記載している（第１表）。

検出された遺構は弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物跡18棟、奈良時代溝１条、平安時代竪穴建物跡１棟・掘立柱建物跡７棟・土坑２基、近世道路跡１条、時期不明の竪穴建物跡７棟・土坑３基で、弥生時代から古墳時代の遺構は下層の中台遺跡、奈良時代以降のものは上層の上総国分僧寺跡に帰属する。

園舎造成に伴い大きく撹乱を受けているため、基本層序の遺存は悪いが、I層が砂粒を含む褐色土で、現代撹乱表土とみられる。II層は焼土粒・ローム粒・炭化物を含む黒褐色土で、IIa層の混入物が多く、IIb層は少ない。このうちIIb層は平安時代の包含層である。



第4図　上総国分僧寺跡 遺構配置図


Y=25,150
Y=25,155
Y=25,160
Y=25,165
Y=25,170
Y=25,175
Y=25,180
Y=25,185
Y=25,190
Y=25,195
Y=25,200
X=-55,650
X=-55,655
X=-55,660
X=-55,665
X=-55,670
X=-55,675
X=-55,680
X=-55,685
X=-55,690
X=-55,695
X=-55,700
X=-55,705
X=-55,710
X=-55,715
X=-55,720
（世界測地系）
N
SI001
SI002
3･4･35トレンチ
SD001
SI016
SI018
SK005
36トレンチ
37トレンチ
2トレンチ
1トレンチ
34トレンチ
SI017
SI006
SI005
7トレンチ
SI004
SK001
6トレンチ
SI003
5トレンチ
SI009
SI008
10トレンチ
拡張区
SI026
SI019
SI007
8トレンチ
15トレンチ
SK002
SK003
SK004
11トレンチ
SB002A
SI020
SB001A
SB001B
12トレンチ
24トレンチ
SB004
SB002B
SI010
SI011
16トレンチ
17トレンチ
SB003A
SB003B
SI013
SI021
SI012
20トレンチ
SI022
21トレンチ
SD002
SI014
29トレンチ
SI015
27トレンチ
25トレンチ
SI025
SI024
SI023
26トレンチ
33トレンチ
32トレンチ
31トレンチ
30トレンチ
0
10m
（1／300）

第5図　全体図

第２章　遺構と遺物

第１節　トレンチ

１トレンチ（第６図）

調査区北東に設定した。トレンチのほぼ全面が撹乱を受けており、遺構は確認されなかった。

２トレンチ（第６図）

調査区北に設定した。トレンチのほぼ全面が撹乱を受けており、遺構は確認されなかった。

出土遺物は１が土師器小型椀で、遺構外からの出土である。

37トレンチ（第６図）

SD001（第６図）

調査区北側に位置する。35・36トレンチでも確認されており、調査区の東西方向に延びる溝である。北辺部を区画する2232号溝の延長部とみられる。37トレンチで検出した規模は、主軸2.04m以上×副軸0.99mで、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN−87.5°−Eとみられる。遺物は出土していない。

３・４・35トレンチ（第７・８・９図）

SI001（第７図）

調査区北西側に位置し、形態は方形とみられる。SI002を切る。規模は主軸2.68m以上×副軸1.00m以上で、確認面からの深さは0.50mである。覆土は黒褐色土を主体とする自然堆積である。主軸方位はN−82.5°−Wとみられる。遺物が出土していないが、古墳時代前期頃の遺構とみられる。

SI002（第７・８図）

調査区北西側に位置し、形態は方形とみられる。SI001に切られる。規模は主軸2.44m以上×副軸1.00m以上で、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN−80.5°−Wとみられる。確認面の覆土は黒褐色土である。

出土遺物は１～４が土師器で、１は草刈２～３式の鉢、２・３は中台式の甕、４は草刈３式の高杯である。

出土遺物から時期は、古墳時代前期後葉とみられる。

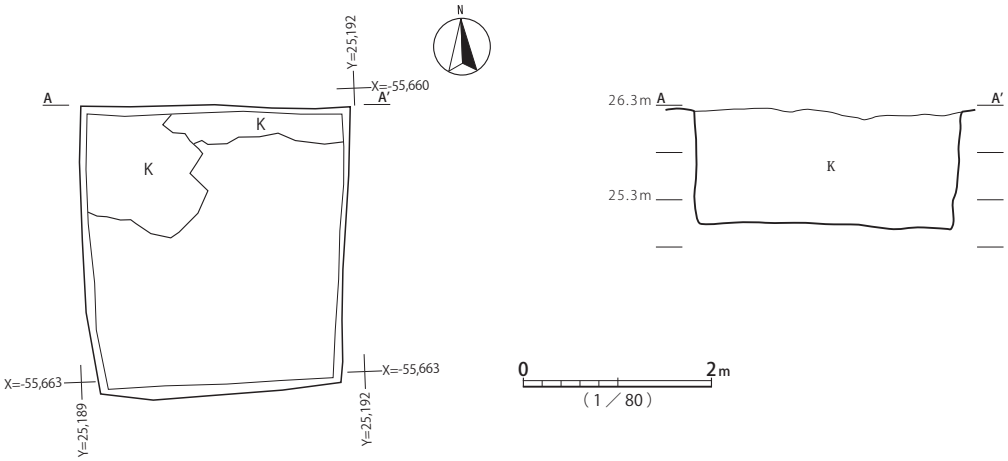
SI016（第７・８図）

調査区北西側に位置し、形態は方形の竪穴建物である。SD001を切る。規模は主軸4.95m以上×副軸4.94mで、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN−83.0°−Eとみられる。確認面の覆土は暗褐色土である。

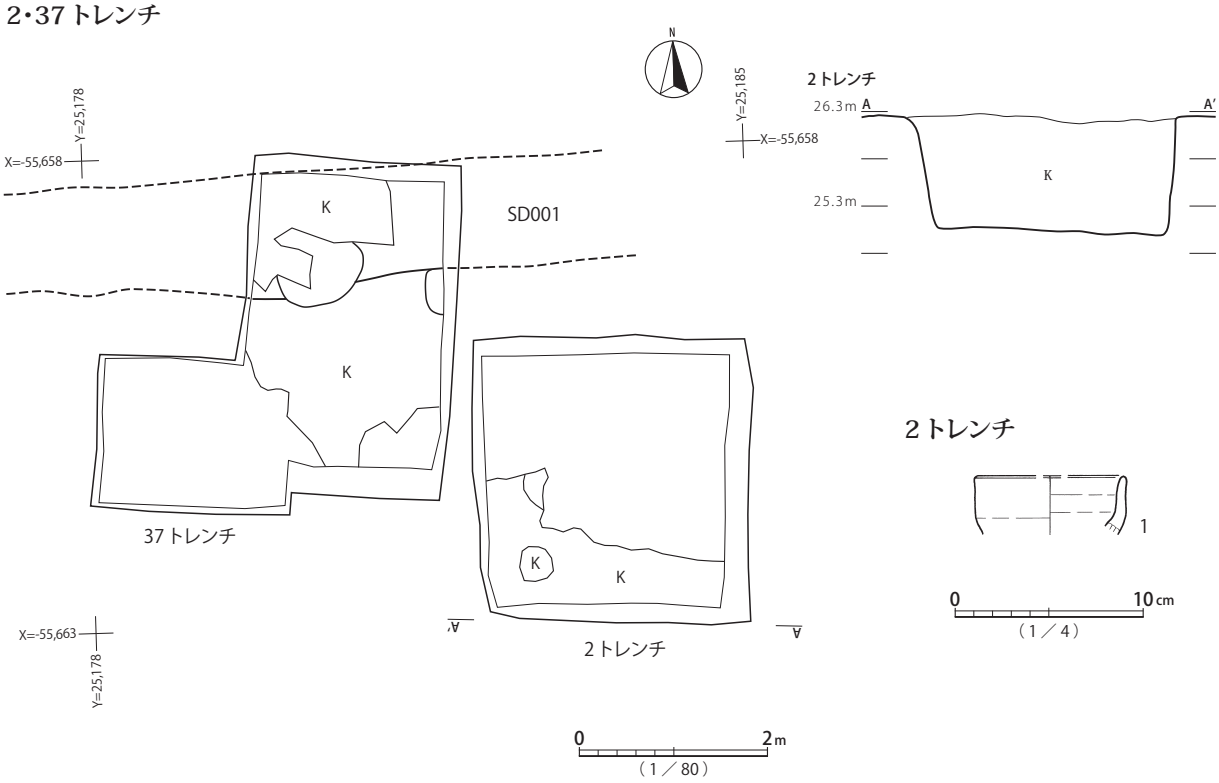
出土遺物は１～４が土師器で、１はロクロ土師器椀、２・３は古墳時代前期の高杯、４は古墳時代前期の台付甕、５は須恵器甕、６は平瓦である。

出土遺物から時期は９世紀末から10世紀初頭とみられる。

1トレンチ

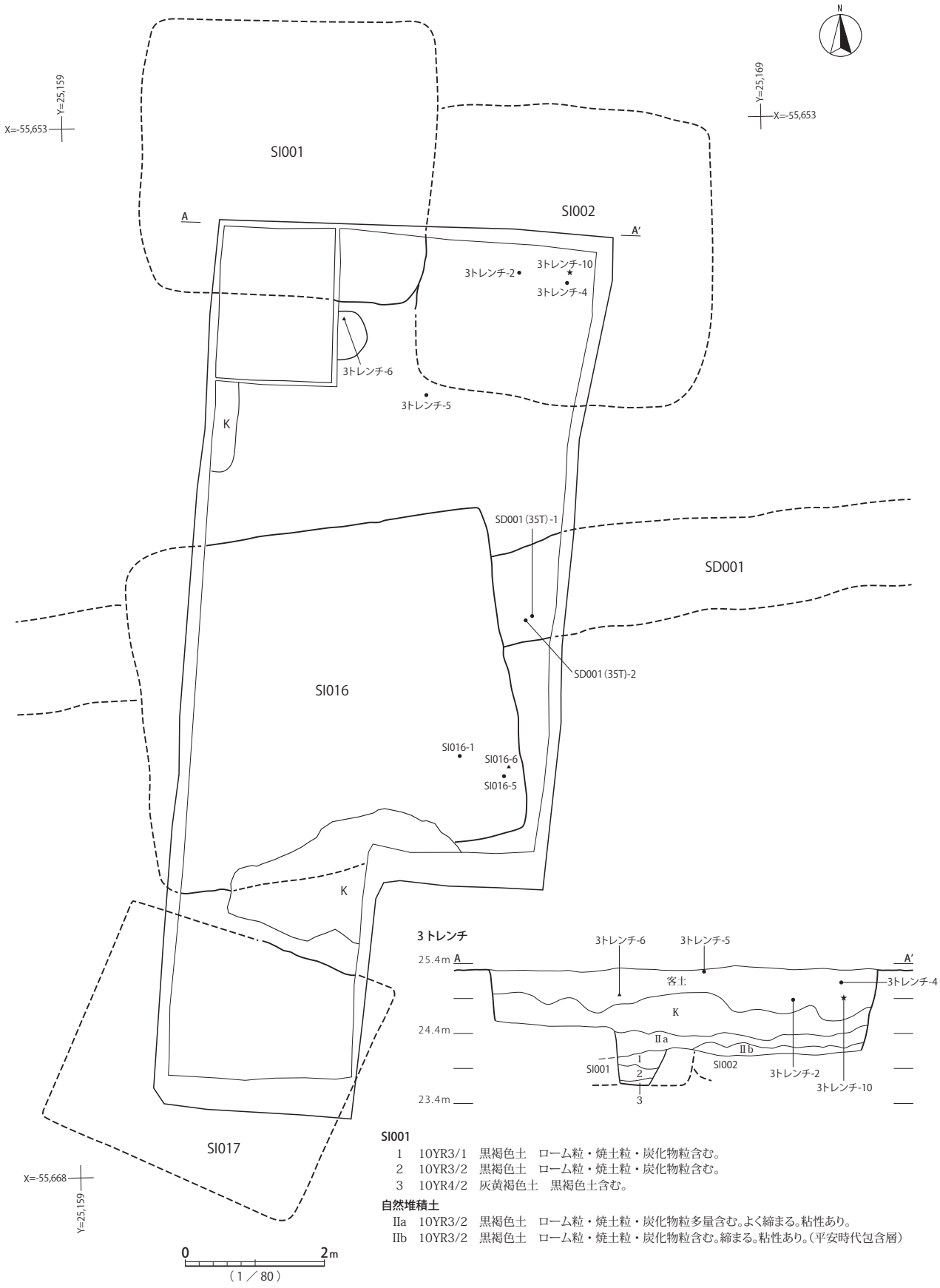


2・37トレンチ



第6図　1・2・37トレンチ 平面図・断面図、2トレンチ 遺物実測図

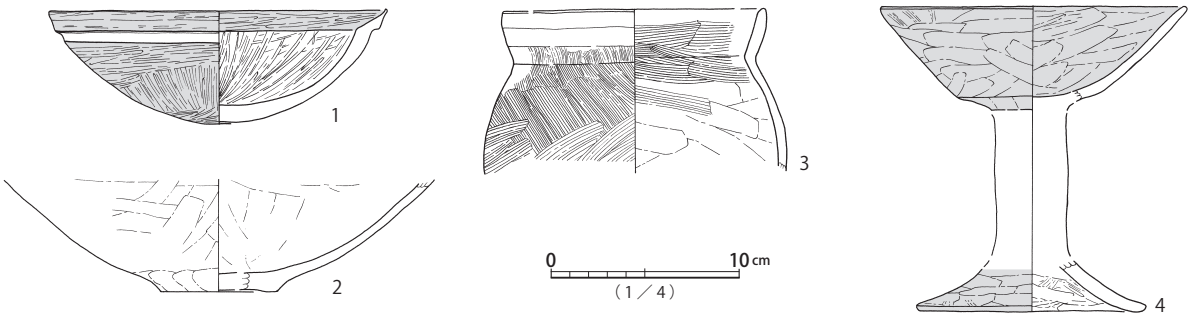
3・4・35 トレンチ



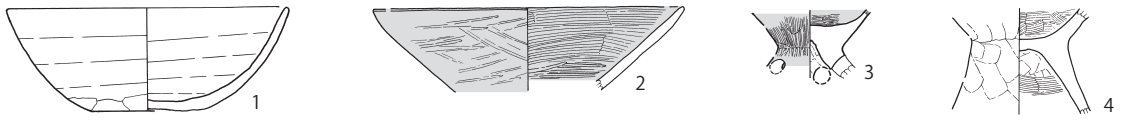
第7図　3・4・35トレンチ 平面図・断面図

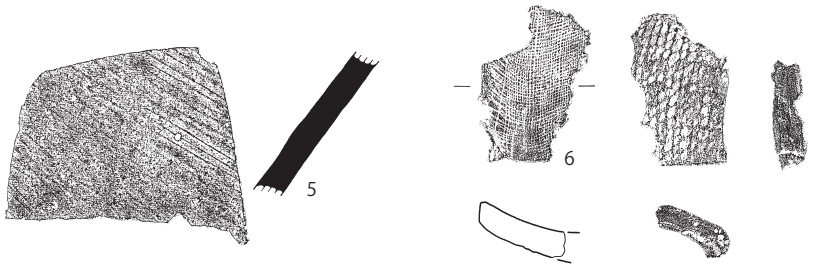
3・4・35 トレンチ

SI002

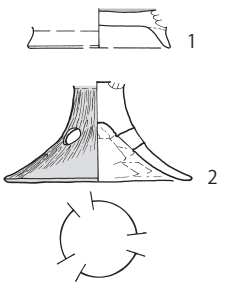


SI016

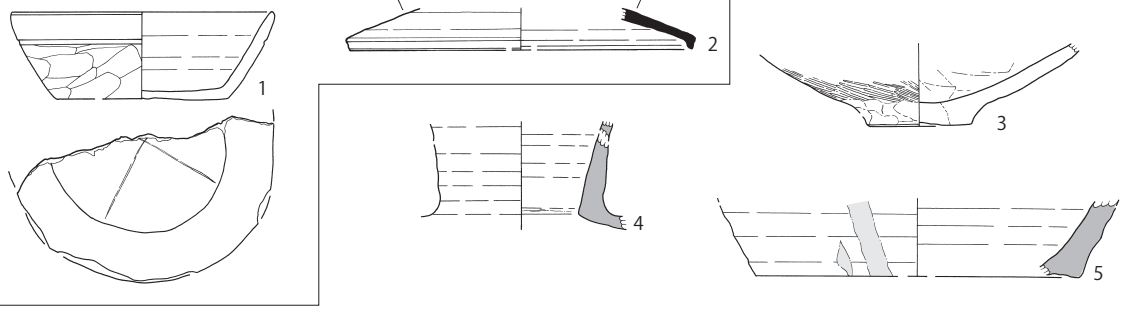


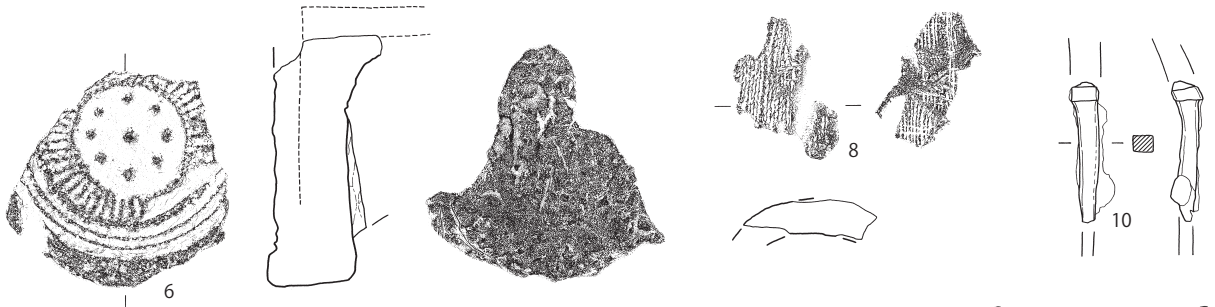


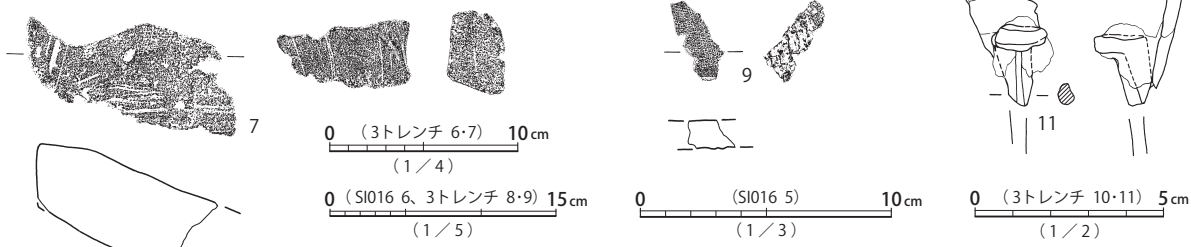
3トレンチ



SD001（35 トレンチ）







第8図　SI002・016、SD001、3トレンチ 遺物実測図

SI017（第７図）

調査区北西側に位置し、形態は方形の竪穴建物である。規模は主軸2.00m以上×副軸1.44m以上で、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN−30.5°−Eとみられる。確認面の覆土は暗褐色土である。遺物が出土していないが古墳時代前期頃の遺構とみられる。

SD001（第７・８図）

調査区北側に位置する。36・37トレンチでも確認されており、調査区の東西方向に延びる溝である。SI016に切られる。北辺部を区画する2232号溝の延長部とみられる。35トレンチで検出した規模は、主軸1.06m以上×副軸1.32mで、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN−87.5°−Eとみられる。確認面の覆土は黒褐色土である。

出土遺物は１がロクロ土師器杯、２は須恵器蓋である。

時期は８世紀中葉から９世紀初頭とみられる。

３トレンチ遺構外（第７・８図）

３トレンチの遺構外出土遺物である。１はロクロ土師器椀、２は中台～草刈式の高杯である。３は古墳時代前期の敲き甕、４・５は原始灰釉陶器瓶壺類、６は軒丸瓦、７は軒平瓦、８は丸瓦、９は平瓦、10は鉄鏃、11は鉄釘で土師器甕の小片が癒着する。

35トレンチ遺構外（第７・９図）

35トレンチの遺構外出土遺物である。１は中台式の土師器装飾器台、２は須恵器杯転用の朱墨パレット、３は中世陶器常滑片口鉢Ⅱ類、４はロクロ土師器杯の小片で、体部に判読不明の墨書が書かれる。５は須恵器甕転用の砥石である。６～８は平瓦である。

５トレンチ（第９図）

SI003（第９図）

調査区北東側に位置し、形態は方形の竪穴建物である。規模は主軸2.77m以上×副軸2.76m以上で、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN−27.0°−Wとみられる。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

６トレンチ（第10図）

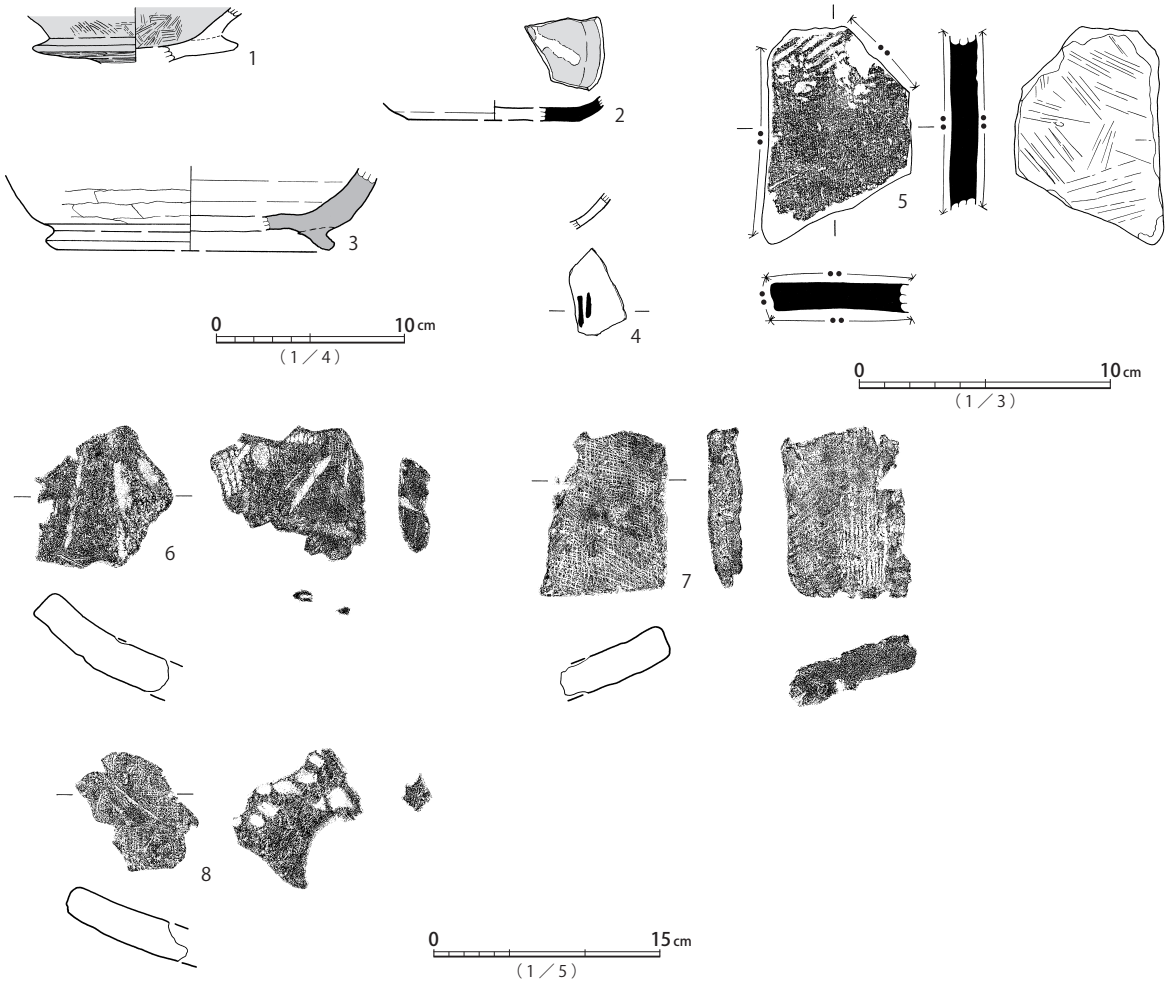
SI004（第10図）

調査区北側に位置し、形態は方形の竪穴建物である。規模は主軸1.60m以上×副軸0.52m以上で、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN−9.5°−Eとみられる。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

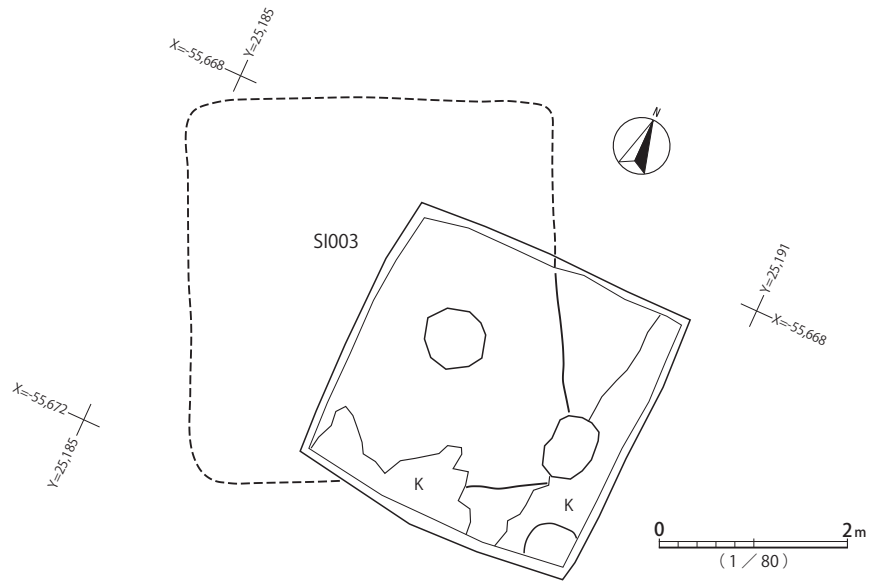
SK001（第10図）

調査区北側に位置し、形態は楕円形の土坑とみられる。規模は主軸1.36m以上×副軸1.11m以上で、

35 トレンチ



5 トレンチ



第9図　35トレンチ 遺物実測図、5トレンチ 平面図

遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN－19.5°－Eとみられる。

出土遺物は1が土師器杯で底部に円形穿孔と、内面に放射状の油煙が確認できる。灯明皿としての利用が考えられる。2は鉄製品で刀子である。

出土遺物から時期は10世紀後葉である。

7トレンチ（第10図）

SI005（第10図）

調査区北西側に位置し、形態は隅丸方形の竪穴建物である。規模は主軸2.26m以上×副軸1.14m以上で、確認面からの深さは不明である。主軸方位はN－81.0°－Wとみられる。

遺物は出土していない。確認面上層に平安時代の遺物包含層であるIIb層が堆積するため、下層の中台遺跡に伴う遺構と考えられる。

SI006（第10図）

調査区北西側に位置し、形態は方形の竪穴建物である。規模は主軸0.88m以上×副軸0.34m以上で、確認面からの深さは0.12mである。主軸方位はN－21.5°－Eとみられる。覆土は黒褐色土を主体とする自然堆積である。

遺物は出土していない。確認面上層に平安時代の遺物包含層であるIIb層が堆積するため、下層の中台遺跡に伴う遺構と考えられる。

7トレンチ遺構外（第10図）

7トレンチの遺構外出土遺物である。1は平瓦、2は鉄釘である。

8トレンチ（第10図）

SI007（第10図）

調査区北東側に位置し、形態は方形の竪穴建物とみられる。規模は主軸2.58m以上×副軸0.60m以上で、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN－15.0°－Eとみられる。覆土は黒褐色土を主体とする自然堆積とみられる。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

10トレンチ（第11図）

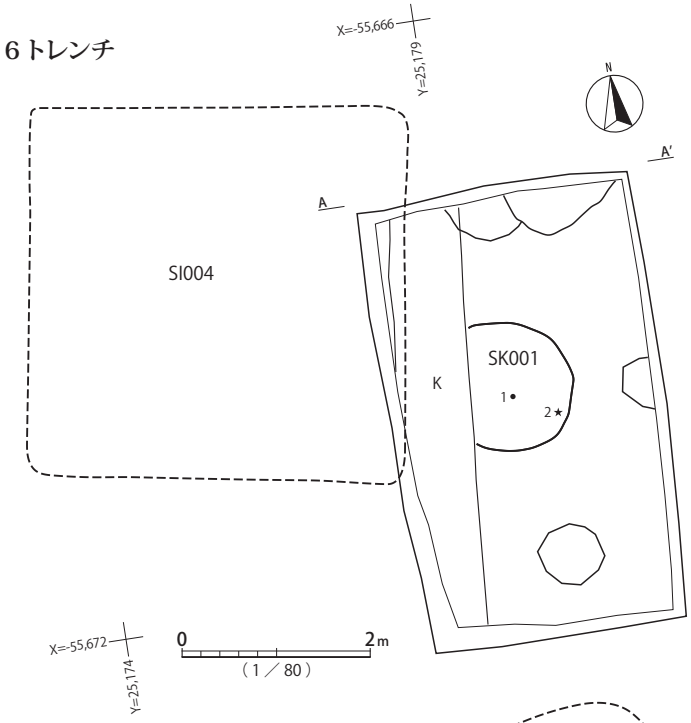
SI008（第11図）

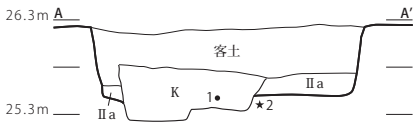
調査区北西側に位置し、形態は隅丸方形とみられる。規模は主軸1.56m以上×副軸1.26m以上で、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN－13.0°－Eとみられる。覆土は黒褐色土を主体とする自然堆積とみられる。遺物は出土していないが、竪穴建物の形態から時期は弥生時代終末期とみられる。

SI009（第11図）

調査区北西側に位置する竪穴建物とみられる。規模は主軸0.92m以上×副軸0.18m以上で、遺構

6トレンチ

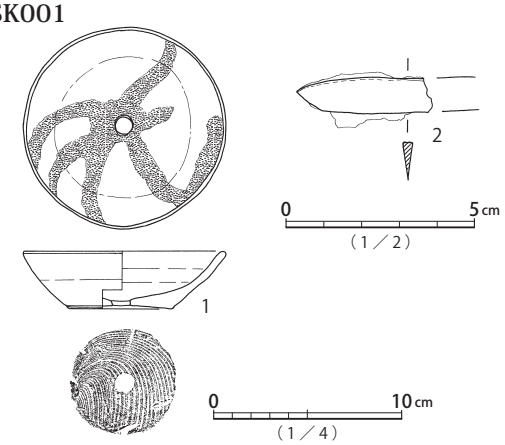




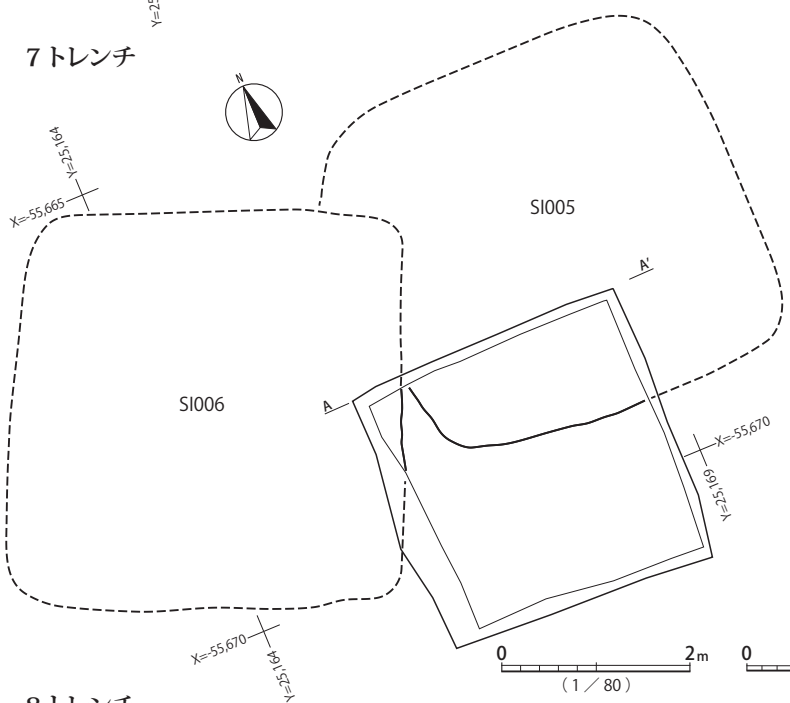
自然堆積土

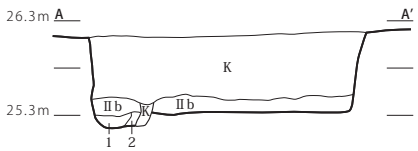
IIa　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化物粒多量含む。よく締まる。粘性あり。

SK001



7トレンチ





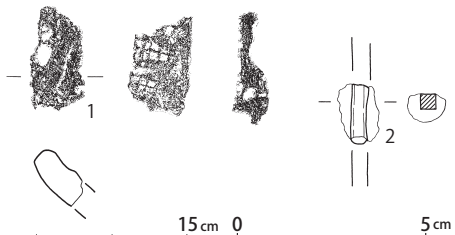
SI006

1　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化物粒含む。
2　10YR4/6　褐色土　黒褐色土斑に含む。

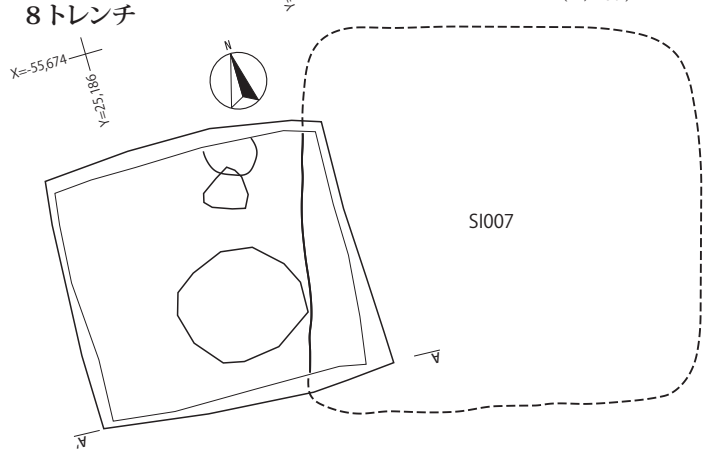
自然堆積土

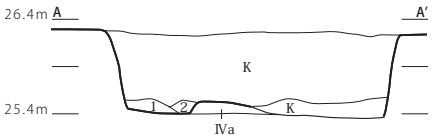
IIb　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化物粒含む。締まる。粘性あり。(平安時代包含層)

7トレンチ



8トレンチ





SI007

1　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化物粒含む。
2　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化物粒多量含む。

地山

IVa　ハードローム

第10図　6･7･8トレンチ 平面図･断面図、SK001、7トレンチ 遺物実測図

を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN−85.5°−Wとみられる。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

10 トレンチ遺構外（第 11 図）

10トレンチの遺構外出土遺物である。1は草刈3式の土師器高杯である。

11 トレンチ（第 11 図）

SK002（第 11 図）

調査区東側に位置し、形態は楕円形とみられる。規模は主軸0.50m以上×副軸0.46m以上で、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN−9.5°−Wとみられる。確認面の覆土は黒褐色土である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SK003（第 11 図）

調査区東側に位置し、形態は長方形とみられる。規模は主軸1.34m×副軸1.24m以上で、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN−34.0°−Wとみられる。確認面の覆土は黒褐色土である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SK004（第 11 図）

調査区東側に位置し、形態は長方形である。規模は主軸1.26m×副軸0.84mで、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN−20.0°−Eである。確認面の覆土は黒褐色土である。

出土遺物は1が平瓦、2が塼である。遺構の時期は不明である。

11 トレンチ遺構外（第 11 図）

11トレンチの遺構外出土遺物である。1は土師器の装飾器台である。

12 トレンチ（第 12 図）

調査区東に設定した。トレンチのほぼ全面が近世以降とみられる撹乱を受けており、遺構は確認されなかった。

15 トレンチ（第 12 図）

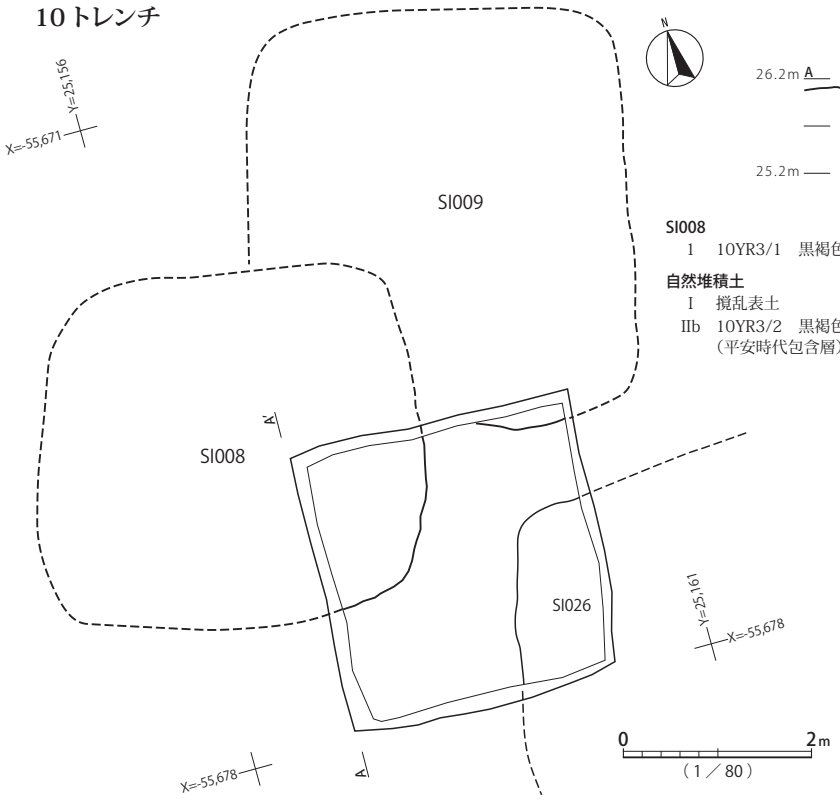
調査区西に設定した。地山のソフトローム層は残っていたが、トレンチのほぼ全面が撹乱を受けており、時期不明の小土坑5基が検出されたのみである。

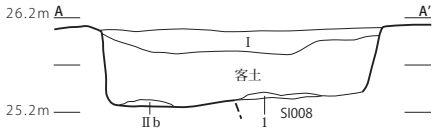
16 トレンチ（第 12 図）

SI010（第 12 図）

調査区東側に位置し、形態は方形の竪穴建物である。SI011を切る。規模は主軸1.92m以上×副軸

10トレンチ





SI008

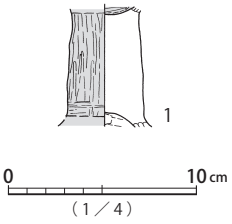
1　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化物粒含む。

自然堆積土

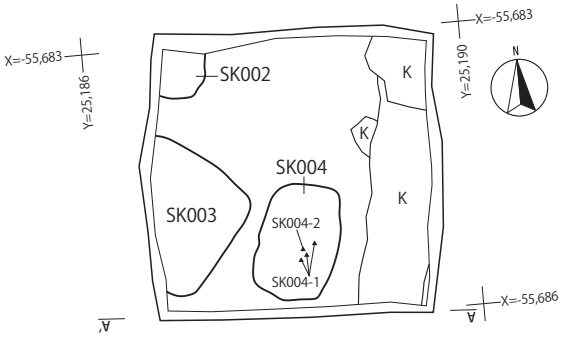
I　撹乱表土

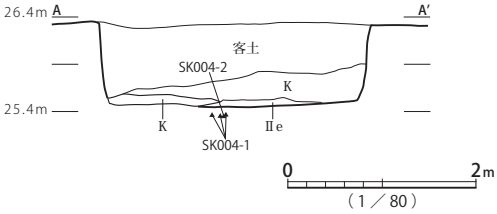
IIb　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化物粒含む。締まる。粘性あり。（平安時代包含層）

10トレンチ



11トレンチ

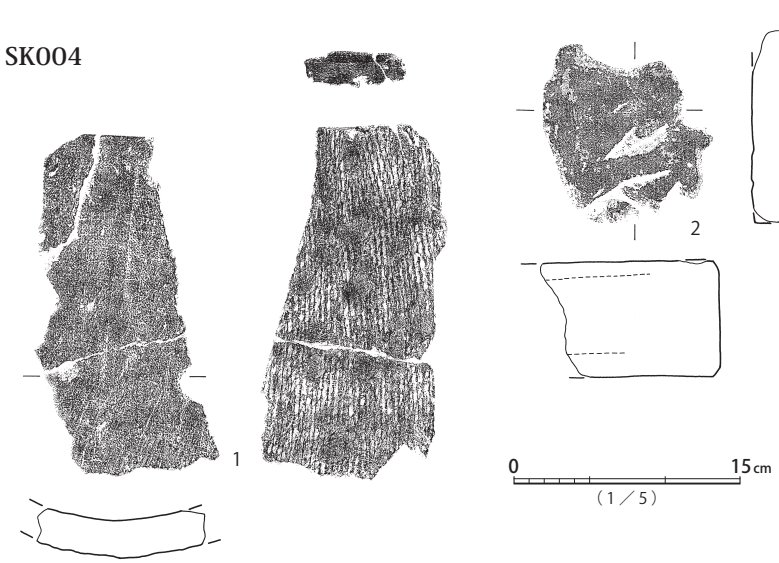




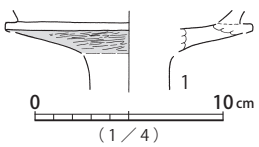
自然堆積土

IIe　ローム漸移層

SK004

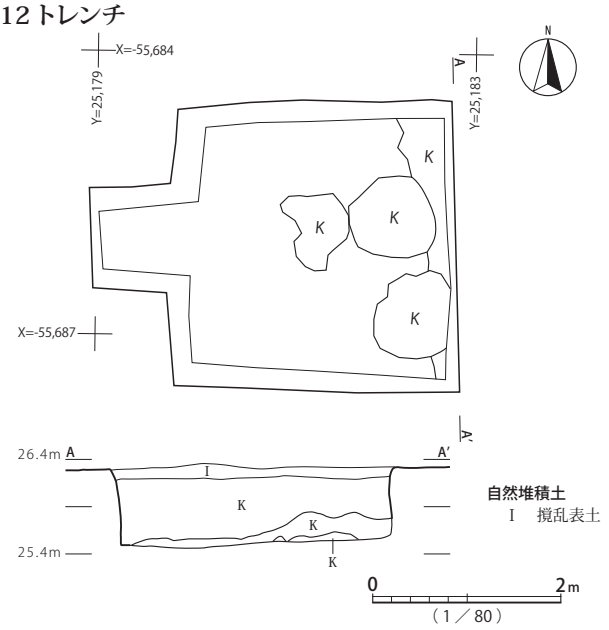


11トレンチ

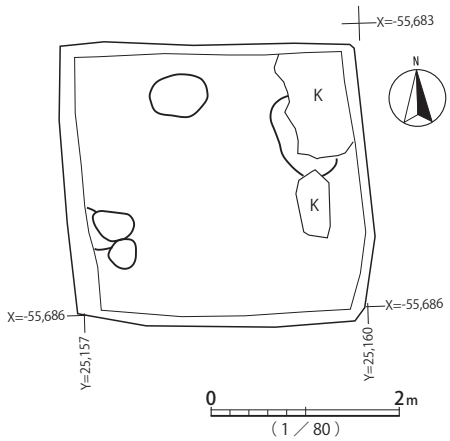


第11図　10・11トレンチ 平面図・断面図、10・11トレンチ、SK004 遺物実測図

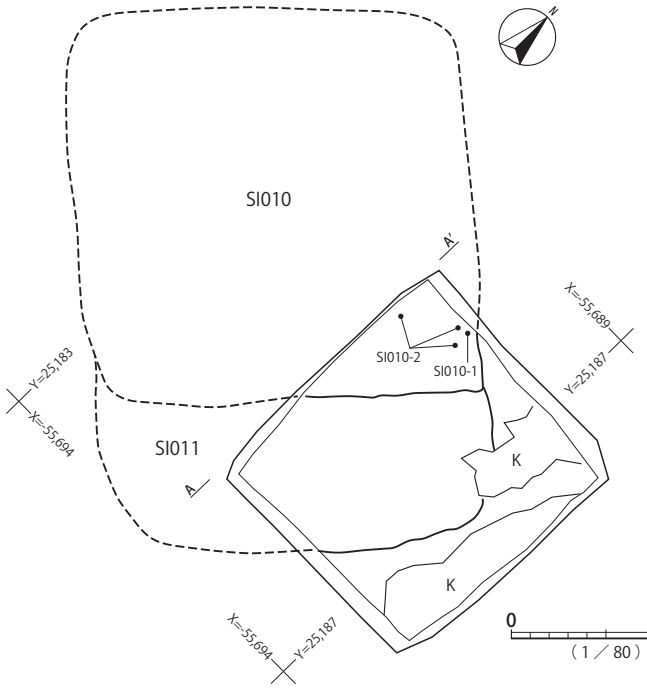
12トレンチ

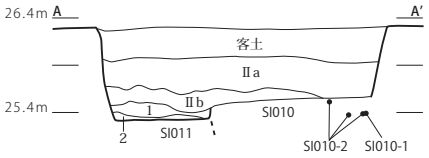


15トレンチ



16トレンチ





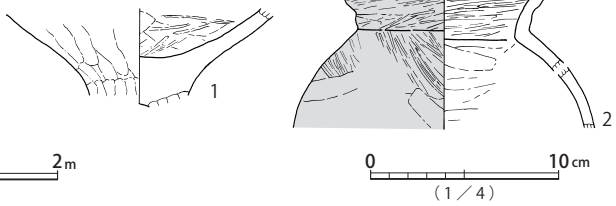
SI011

1　10YR3/2　黒褐色土　ロームブロック・焼土粒・炭化物粒・粘土含む。
2　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒・ロームブロック多量土粒含む。

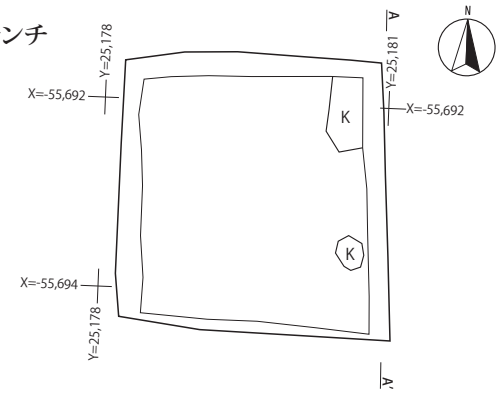
自然堆積土

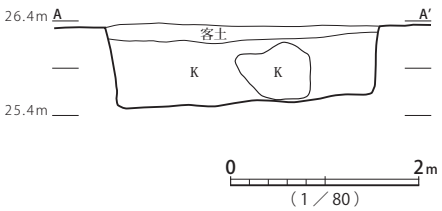
IIa　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化物粒多量含む。
よく締まる。粘性あり。
IIb　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化物粒含む。締まる。
粘性あり。（平安時代包含層）

SI010



17トレンチ





第12図　12・16・17トレンチ 平面図・断面図、15トレンチ 平面図、SI010 遺物実測図

1.20m以上で、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN－39.5°－Wとみられる。

出土遺物は1が土師器台付甕、2が土師器広口壺である。

時期は弥生時代終末期とみられる。

SI011（第12図）

調査区東側に位置し、形態は隅丸方形の竪穴建物とみられる。SI010に切られる。規模は主軸2.69m以上×副軸1.62m以上で、確認面からの深さは0.19mである。主軸方位はN－39.5°－Wとみられる。覆土は黒褐色土を主体とする自然堆積である。遺物が出土していないが、時期は弥生時代終末期とみられる。

17トレンチ（第12図）

調査区東に設定した。地山のソフトローム層は残っていたが、トレンチのほぼ全面が撹乱を受けており、遺構は確認されなかった。

20トレンチ（第13図）

調査区東に設定した。トレンチのほぼ全面が撹乱を受けており、遺構は確認されなかった。

21トレンチ（第13図）

SI012（第13図）

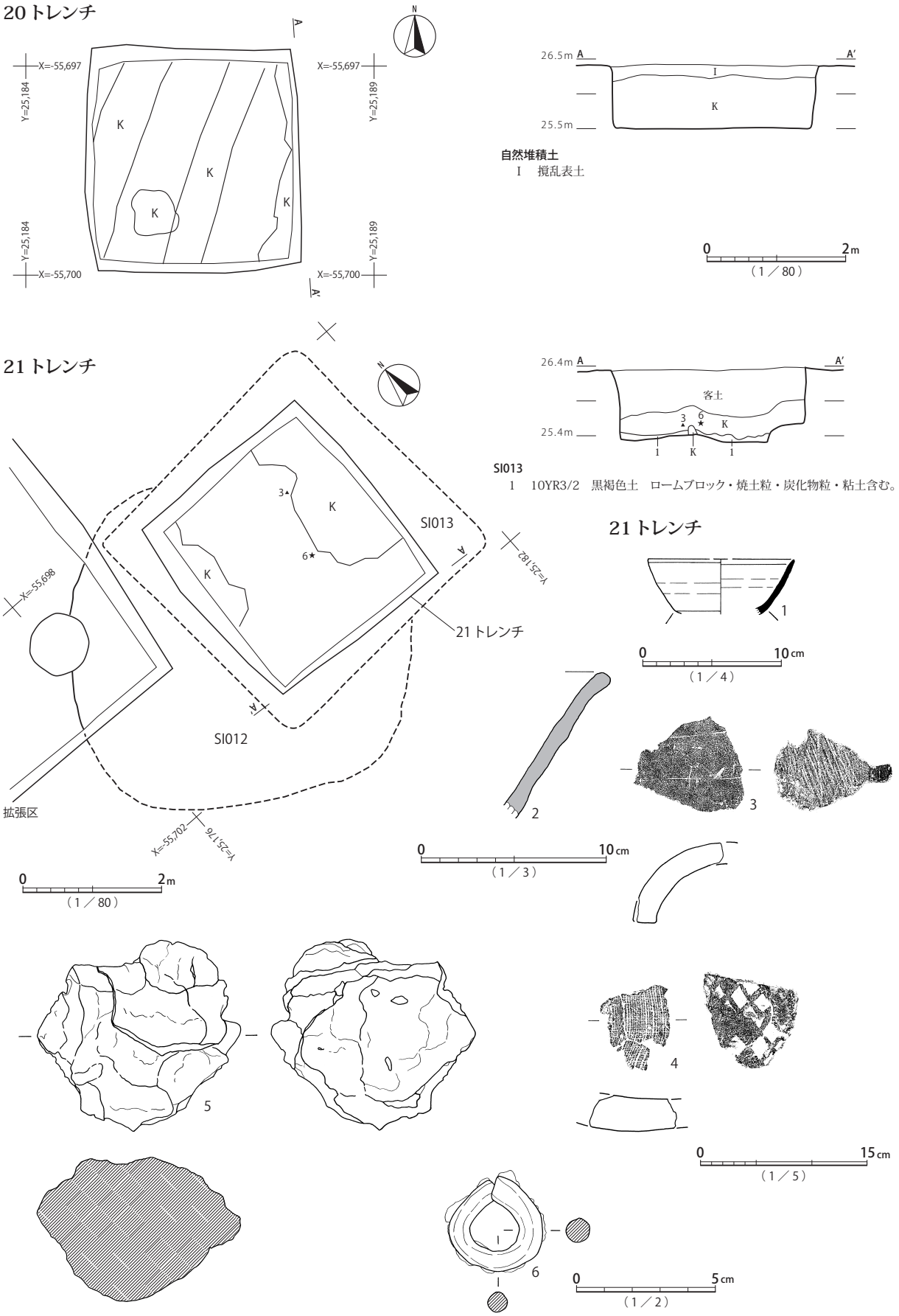
調査区南東側に位置し、形態は楕円形の竪穴建物とみられる。拡張区南東隅で確認され、21トレンチに延びるとみられるが、上層のSI013の影響で、21トレンチでは確認できていない。規模は主軸2.39m以上×副軸1.21m以上で、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN－45.5°－Eとみられる。遺物は出土していないが楕円形のプランから、時期は弥生時代後期の可能性がある。

SI013（第13図）

調査区南東側に位置し、形態は方形の竪穴建物とみられるが不明確である。規模は主軸2.86m以上×副軸2.64m以上で、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。遺構がトレンチ全体に及ぶため、主軸方位は不明である。覆土は黒褐色土を主体とする自然堆積である。拡張区南東隅でSI012を検出し、21トレンチの一部でこの竪穴建物の北東側の壁の平面プランが検出されるものと予想されたが、撹乱部分を除き、トレンチ全体に及ぶ遺構が確認されたため、SI012の上層の遺構と考えた。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

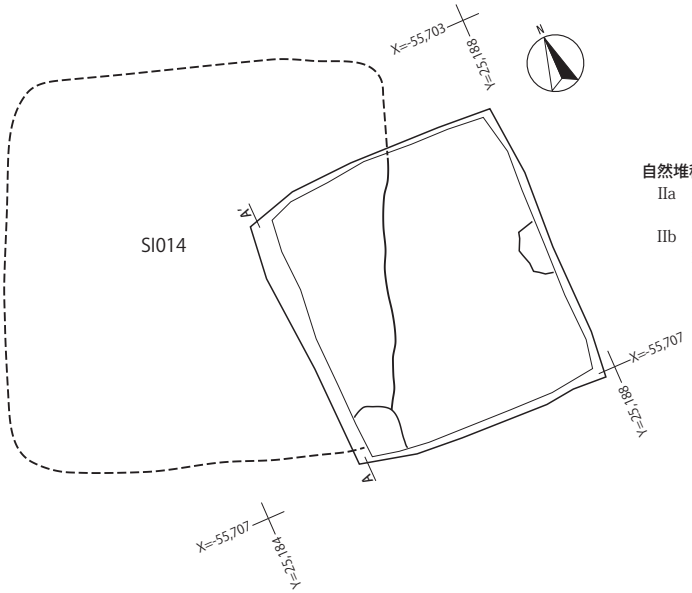
21トレンチ遺構外（第13図）

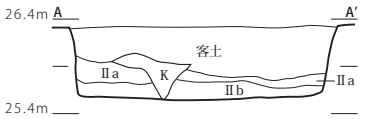
21トレンチの遺構外出土遺物である。1は須恵器杯、2は中世陶器常滑片口鉢I類、3は丸瓦、4は平瓦、5は鉄滓、6は馬具遊環の可能性がある鉄製品である。



第13図　20・21トレンチ 平面図・断面図、21トレンチ 遺物実測図

25トレンチ

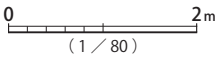




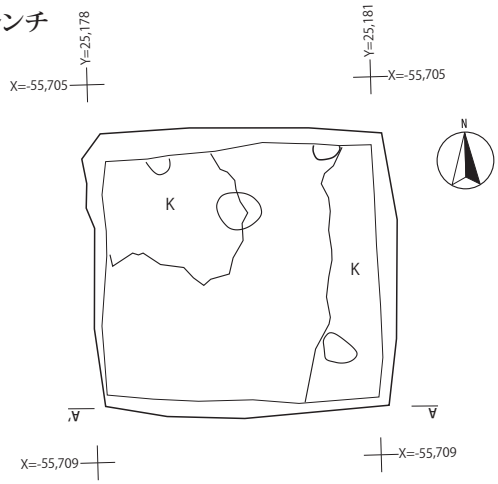
自然堆積土

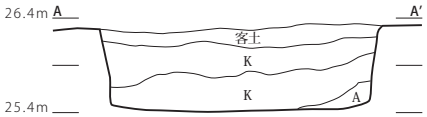
IIa　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化物粒多量含む。よく締まる。粘性あり。

IIb　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化物粒含む。締まる。粘性あり。（平安時代包含層）



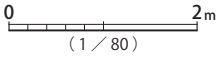
26トレンチ



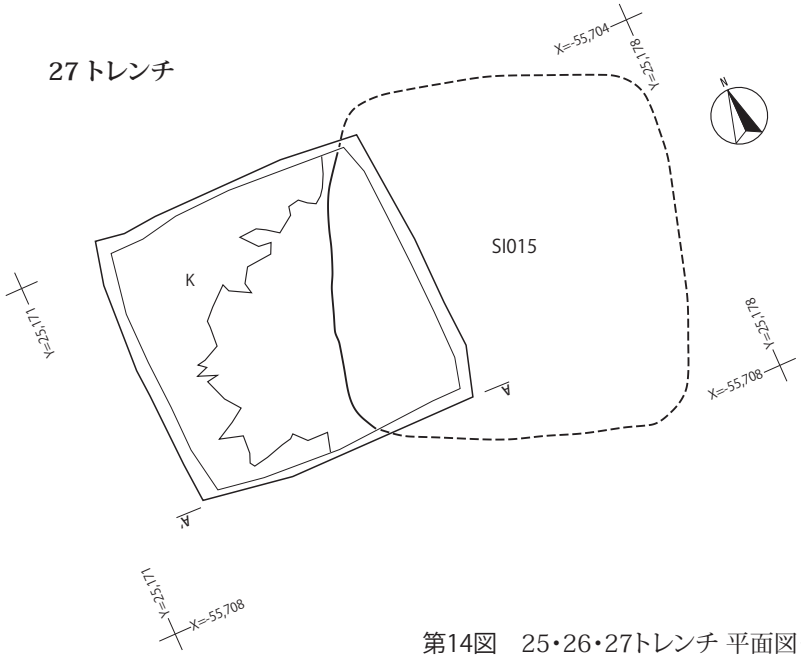


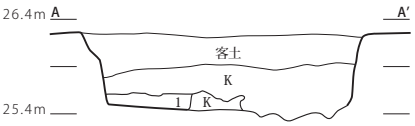
自然堆積土

A　10YR3/2　黒褐色土　焼土ブロック・ローム粒多量含む。ロームブロック斑に含む。締まる。やや粘性あり。（近世以降自然堆積土）



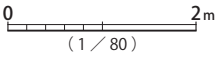
27トレンチ





SI015

1　10YR3/2　黒褐色土　ロームブロック・焼土粒・炭化物粒・粘土含む。



第14図　25・26・27トレンチ 平面図・断面図

25 トレンチ（第 14 図）

SI014（第 14 図）

調査区南東に位置し、形態は方形の竪穴建物とみられる。規模は主軸2.69m以上×副軸1.16m以上で、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN－23.5°－Eとみられる。遺物は出土していない。確認面上層に平安時代の遺物包含層であるIIb層が堆積するため、下層の中台遺跡に伴う遺構と考えられ、時期は弥生時代終末期から古墳時代前期とみられる。

26 トレンチ（第 14 図）

調査区南東に設定した。近世・近代以降の撹乱を受けているものの、地山はソフトローム層が残っていた。遺構は確認されなかった。

27 トレンチ（第 14 図）

SI015（第 14 図）

調査区南側に位置し、形態は隅丸方形の竪穴建物とみられる。規模は主軸2.99m以上×副軸1.18m以上で、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN－19.5°－Eとみられる。遺物は出土していないが、平面プランから時期は弥生時代終末期とみられる。

29 トレンチ（第 15 図）

調査区南西に設定した。撹乱を受けているものの、地山はソフトローム層が残っていた。遺構は確認されなかった。

30 トレンチ（第 15 図）

調査区南東に設定した。近世・近代以降の撹乱を受けているものの、地山はソフトローム層が残っていた。遺構は確認されなかった。

出土遺物１は平瓦で遺構外の出土である。

31 トレンチ（第 15 図）

調査区南東に設定した。トレンチのほぼ全面が撹乱を受けており、遺構は確認されなかった。

32 トレンチ（第 15 図）

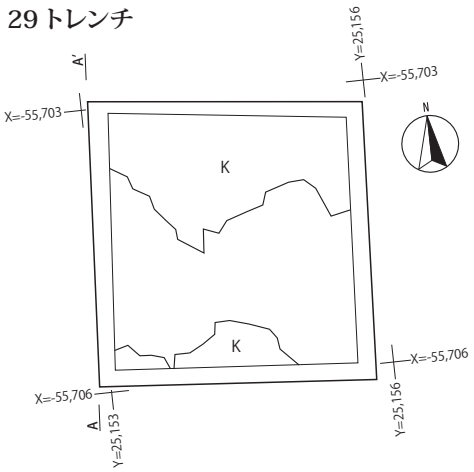
調査区南に設定した。地山はソフトローム層が残っていた。時期不明の土坑が３基確認された。確認面の覆土はいずれも灰黄褐色土で、近世以降のものである可能性が高い。

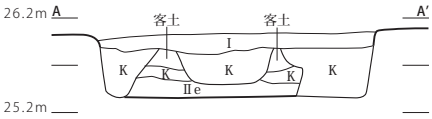
33 トレンチ（第 16 図）

調査区南西に設定した。撹乱を受けているものの、地山はソフトローム層が残っていた。遺構は確認されなかった。

33トレンチ遺構外出土遺物１はロクロ土師器椀で、底部外面に「内」銘墨書を持つ。２はロクロ土

29 トレンチ

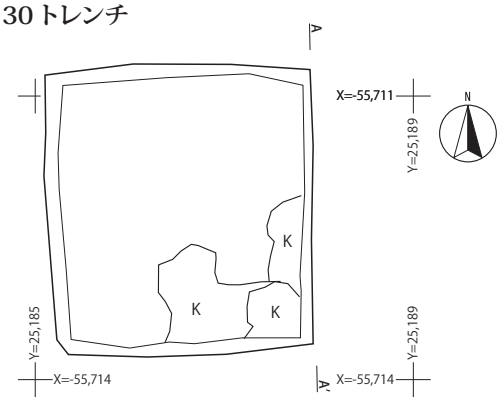


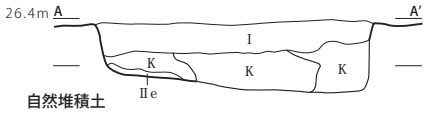


自然堆積土
I　撹乱表土
IIe　ローム漸移層

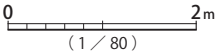
（1／80）

30 トレンチ



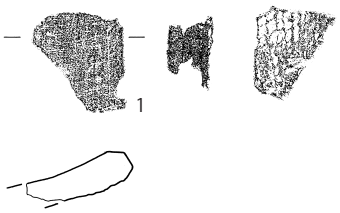


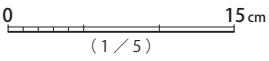
自然堆積土
I　撹乱表土
IIe　ローム漸移層



（1／80）

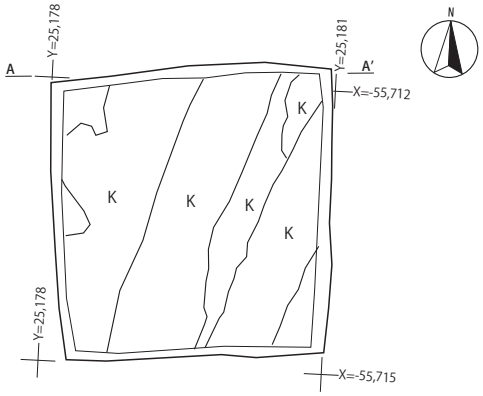
30 トレンチ

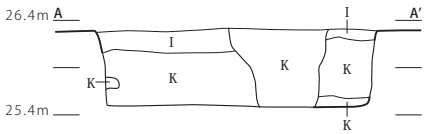




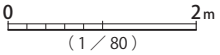
（1／5）

31 トレンチ



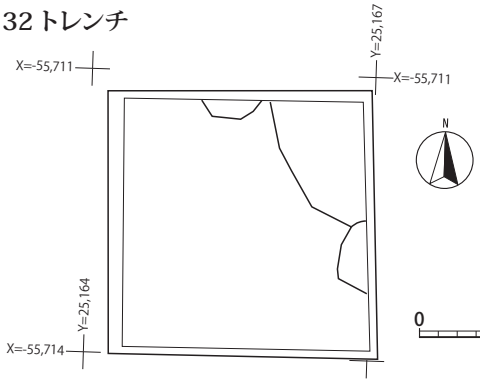


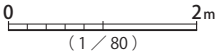
自然堆積土
I　撹乱表土



（1／80）

32 トレンチ





（1／80）

第15図　29・30・31トレンチ 平面図・断面図、30トレンチ 遺物実測図、32トレンチ 平面図

師器杯である。

34 トレンチ（第 16 図）

調査区北西に設定した。トレンチ全体が撹乱を受けており、遺構は確認されなかった。

36 トレンチ（第 16 図）

SI018（第 16 図）

調査区北側に位置し、形態は方形の竪穴建物とみられる。SK005、SD001 に切られる。規模は主軸 3.00m 以上×副軸 2.51m 以上で、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位は N－60.0°－E とみられる。

出土遺物 1 が鉄滓である。SD001 に切られることから、下層の中台遺跡に伴う遺構と考えられる。時期は平面プランから古墳時代前期とみられる。

SD001（第 16 図）

調査区北側に位置する。35・37 トレンチでも確認されており、調査区の東西方向に延びる溝である。SI018 を切る。北辺部を区画する 2232 号溝の延長部とみられる。36 トレンチで検出した規模は、主軸 3.06m 以上×副軸 1.04m で、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位は N－87.5°－E とみられる。

出土遺物は 1 が土師器器台、2 が砥石である。

SK005（第 16 図）

調査区北側に位置し、形態は楕円形の土坑である。SI018 を切る。規模は主軸 0.92m×副軸 0.82m で、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位は N－24.0°－W とみられる。

出土遺物は 1 がロクロ土師器小皿である。出土遺物から時期は 11 世紀後葉である。

第 2 節　拡張区

9・13・14・18・19・22・23・28 トレンチで、掘立柱建物の柱穴が確認されたため、掘立柱建物の規模を確認するため、これらのトレンチをつなげて拡張した範囲である。

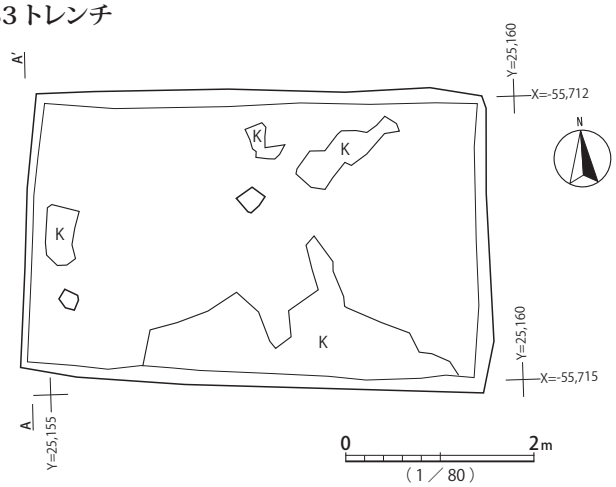
SI019（第 17 図）

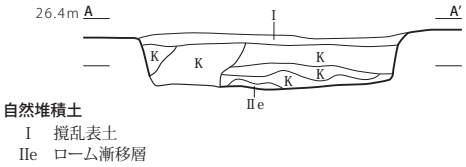
調査区中央に位置し、形態は隅丸方形の竪穴建物である。SB001A・B に切られる。規模は主軸 5.17m×副軸 4.61m で、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位は N－53.0°－W とみられる。確認面の覆土は黒褐色土である。遺物は出土していないが、平面プランから時期は弥生時代終末期とみられる。

SI020（第 17 図）

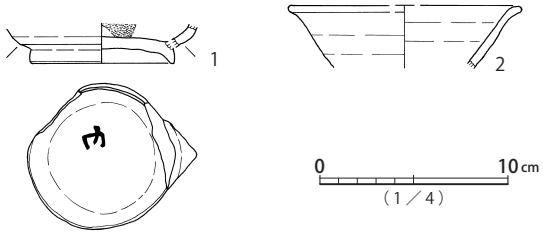
調査区中央に位置し、形態は隅丸方形の竪穴建物である。SB001A・B、SB004 に切られる。規模は

33トレンチ

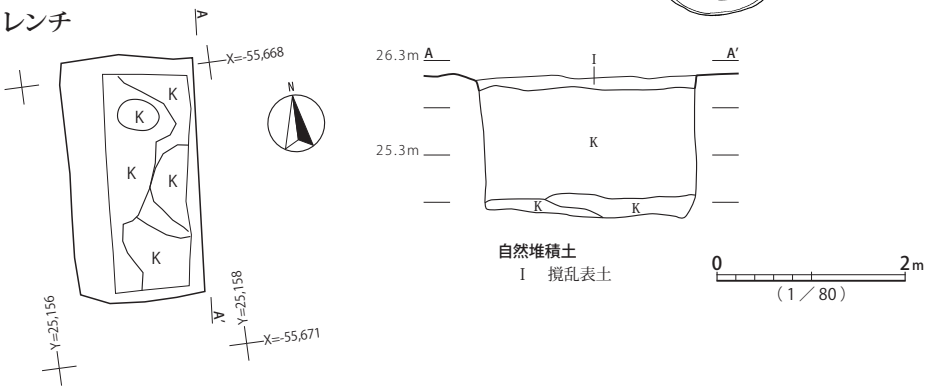




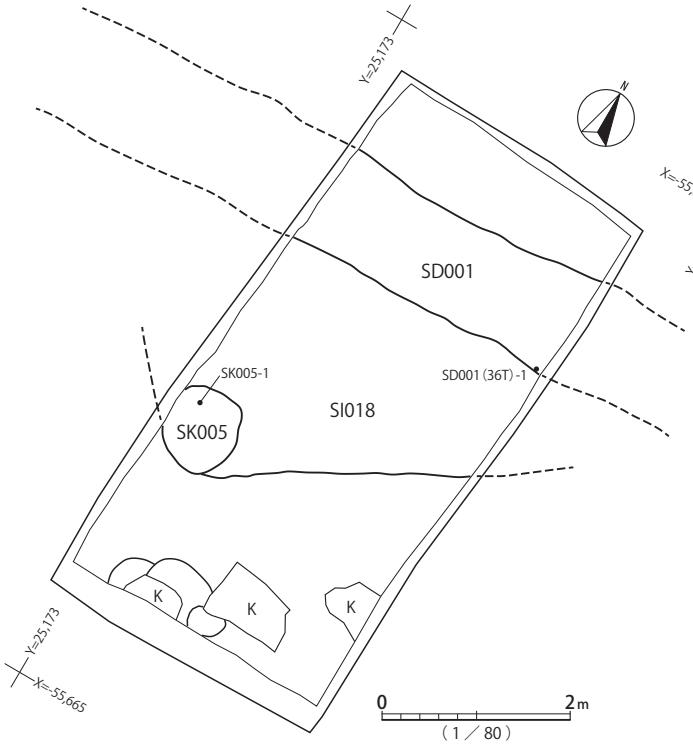
33トレンチ



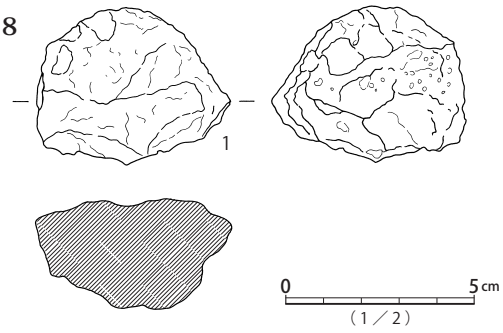
34トレンチ



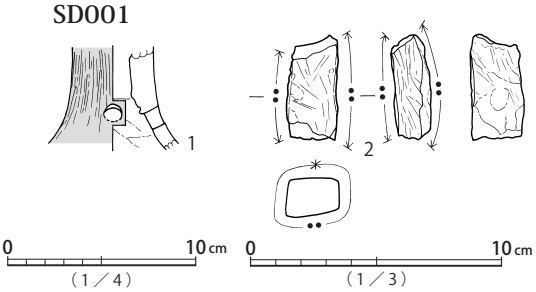
36トレンチ



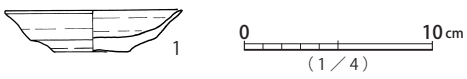
SI018



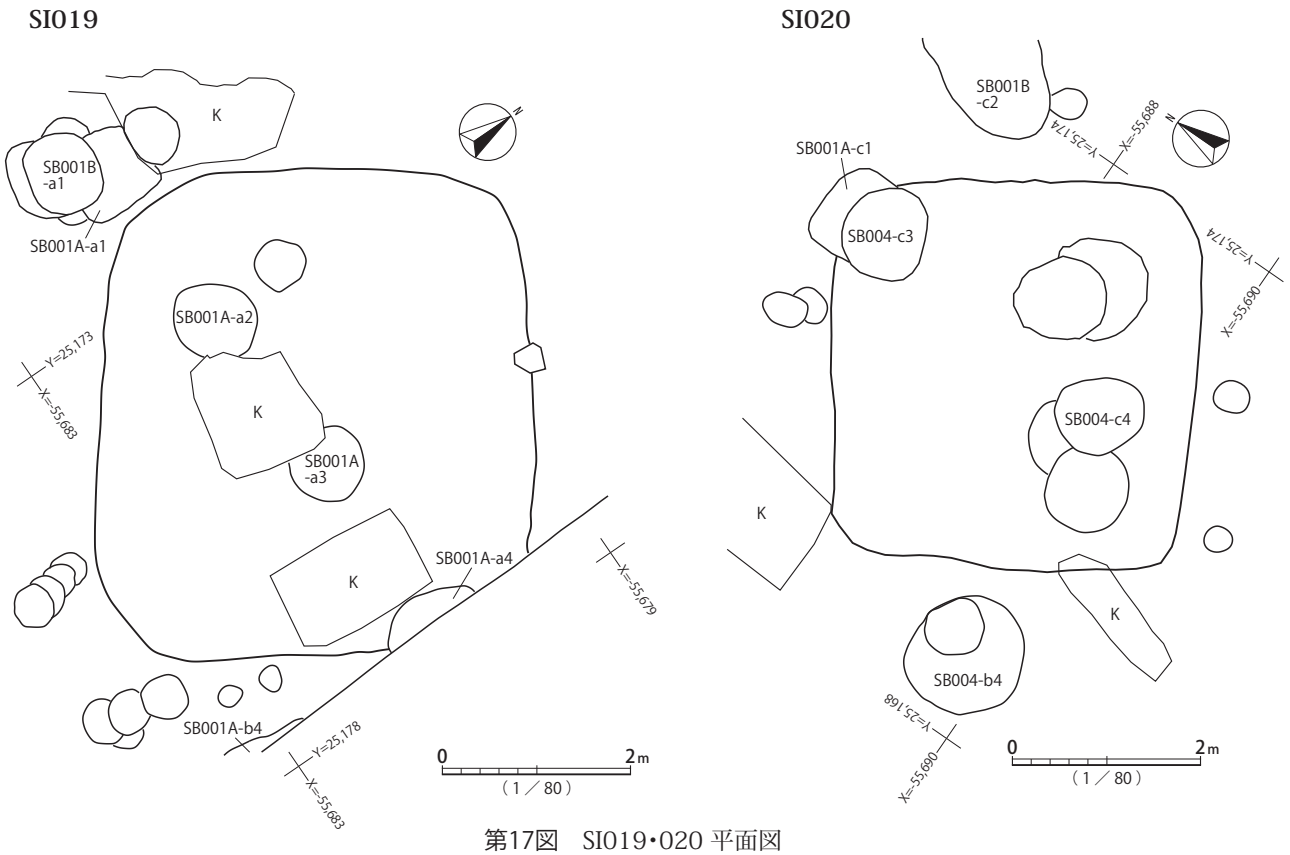
SD001



SK005



第16図　33・34トレンチ 平面図・断面図、36トレンチ 平面図、33トレンチ・SI018・SD001・SK005 遺物実測図



第17図　SI019・020 平面図

主軸4.11m×副軸3.91mで、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN−56.5°−Eとみられる。確認面の覆土は黒褐色土である。遺物は出土していないが、平面プランから時期は弥生時代終末期とみられる。

SI021（第 18 図）

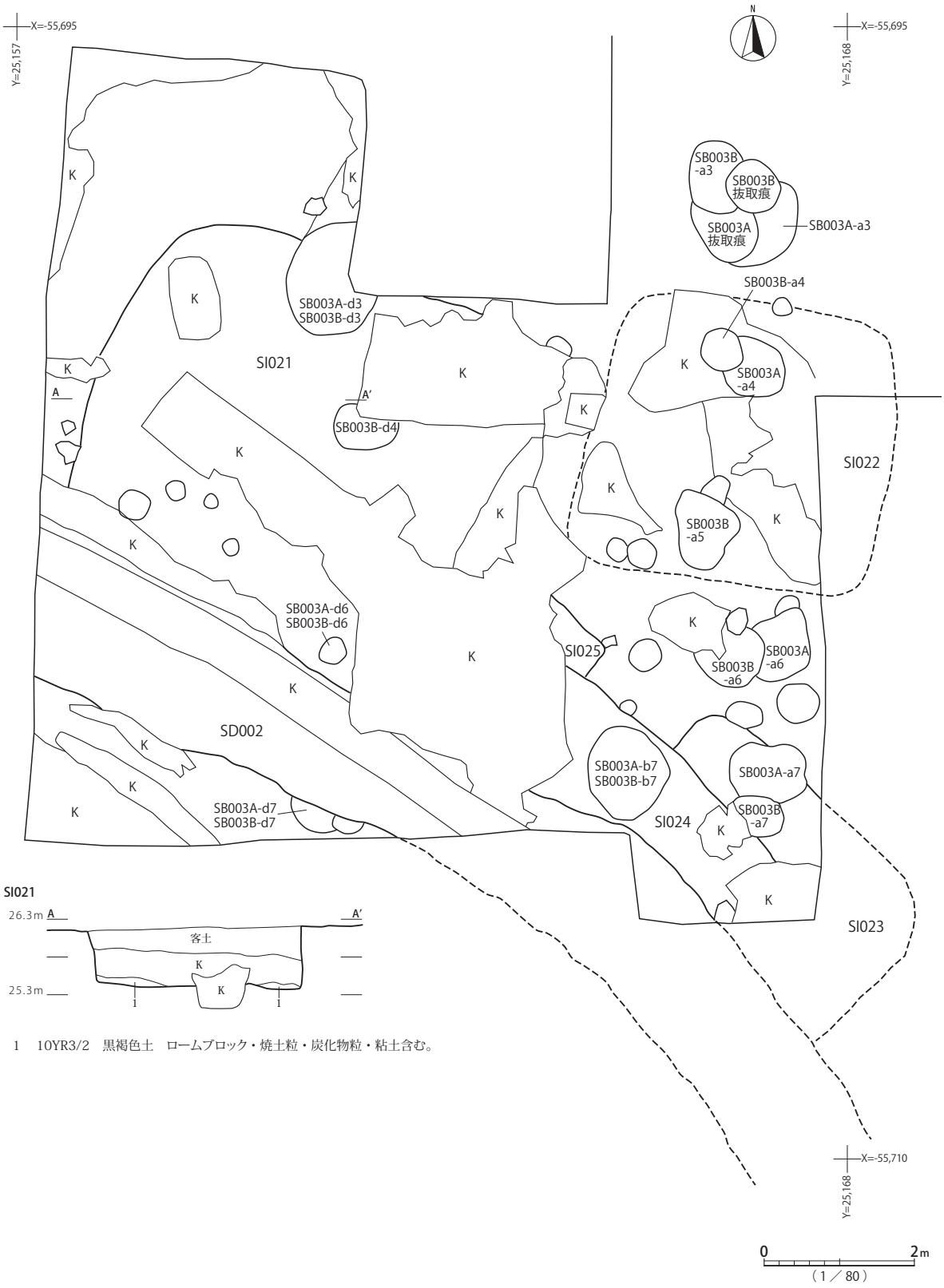
調査区南西側に位置し、形態は隅丸方形の竪穴建物である。SB003A・B、SD002に切られる。規模は主軸5.42m以上×副軸5.11m以上で、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN−55.0°−Wとみられる。覆土は黒褐色土を主体とする自然堆積とみられる。遺物は出土していないが、平面プランから時期は弥生時代終末期とみられる。

SI022（第 18 図）

調査区南西側に位置し、形態は方形の竪穴建物とみられる。SB003A・Bに切られる。上層の撹乱により、床面が露出していた。規模は主軸3.76m以上×副軸3.08m以上である。主軸方位はN−9.5°−Eとみられる。遺物は出土していないが、平面プランから時期は古墳時代前期とみられる。

SI023（第 18 図）

調査区南西側に位置し、形態は方形の竪穴建物である。SI024、SB003A・B、SD002に切られる。規模は主軸2.50m以上×副軸0.96m以上で、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明



第18図　SI021・022・023・024・025、SD002 平面図、SI021 断面図

である。主軸方位はN－46.0°－Wとみられる。遺物は出土していないが、平面プランから時期は古墳時代前期とみられる。

SI024（第 18 図）

調査区南西側に位置し、形態は方形の竪穴建物とみられる。SI023、SI025を切り、SB003A・B、SD002に切られる。規模は主軸3.70m以上×副軸1.10m以上で、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN－43.5°－Wとみられる。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SI025（第 18 図）

調査区南西側に位置し、形態は方形の竪穴建物とみられる。SI024に切られ、遺構の大部分が撹乱により破壊されている。規模は主軸1.00m以上×副軸0.54m以上で、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN－46.5°－Wとみられる。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SD002（第 18 図）

調査区南西側に位置し、北西から南東に延びる。SI021、SI023、SI024、SB003A・Bを切る。規模は主軸7.44m以上×副軸1.91mで、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN－57.0°－Wとみられる。上総国分寺北辺部の377号道路につながると考えられることから、近世の道路状遺構とみられる。遺物は出土していない。

SI026（第 19 図）

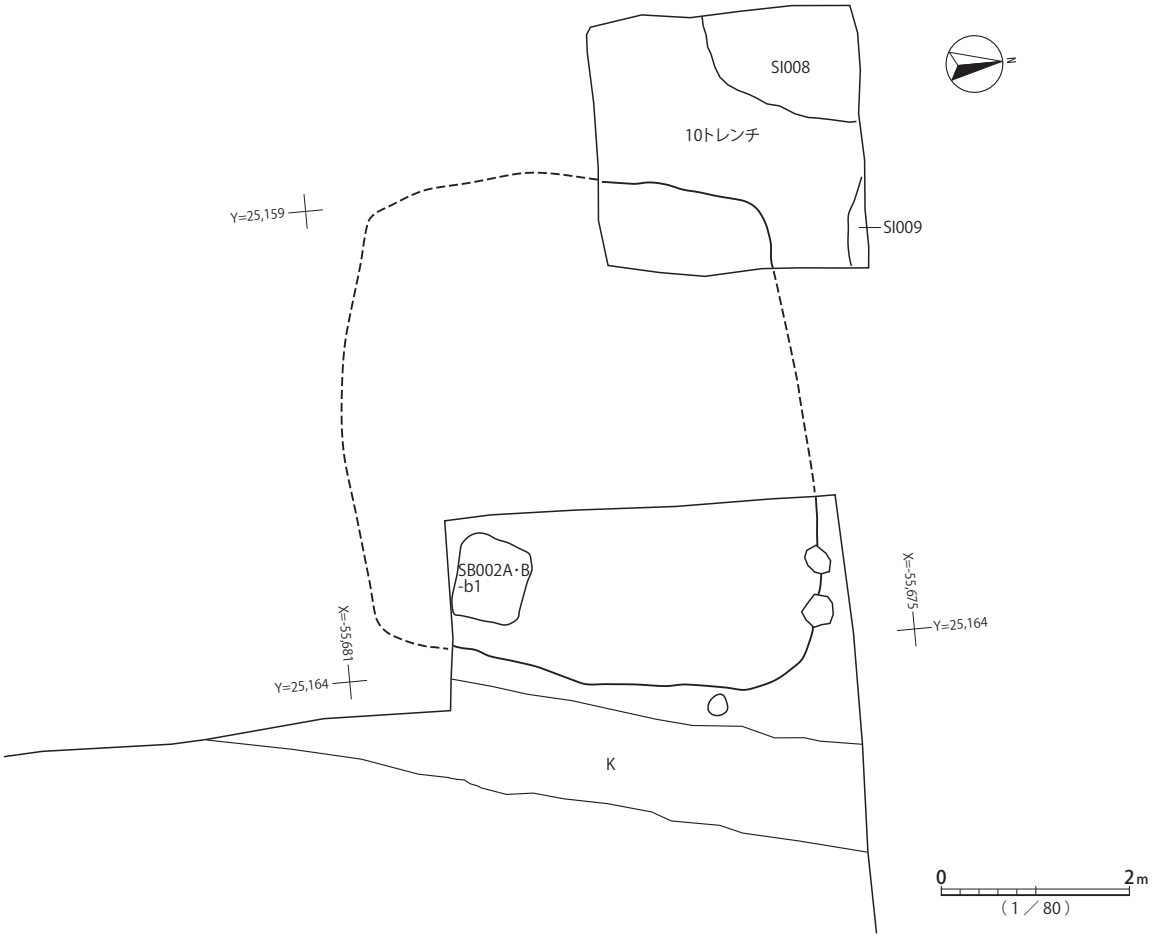
調査区西側に位置し、10トレンチに延びる。形態は隅丸方形の竪穴建物である。SB002A・Bに切られる。規模は主軸5.34m×副軸3.95m以上で、遺構を断ち割っていないため確認面からの深さは不明である。主軸方位はN－77.0°－Wとみられる。確認面の覆土は黒褐色土である。遺物は出土していないが、平面プランから時期は弥生時代終末期とみられる。

SB001A（第 20・21 図）

調査区中央に位置する。桁行３間で梁行２間の東西棟掘立柱建物である。SB004に切られ、SI019、SI020を切る。方位はN－2.0°－Wで、規模は桁行6.20m、梁行5.16mである。桁行の柱間寸法は６～７尺、梁行は10尺、８尺と不統一である。柱の通りは良い。遺構の断ち割りを行っていないが、遺構の平面確認からSB001Bへの１度の建て替えが考えられる。柱穴底面までの深さは、ピンポールを刺して確認した推定値である。

出土遺物は１が軒平瓦で、柱穴c2から出土しており、礎板としての利用が想定される。建て替え後のSB001Bで９世紀前葉のロクロ土師器杯が出土しているため、８世紀末から９世紀初頭頃の年代が想定される。

SI026



第19図　SI026 平面図

SB001B（第 22 図）

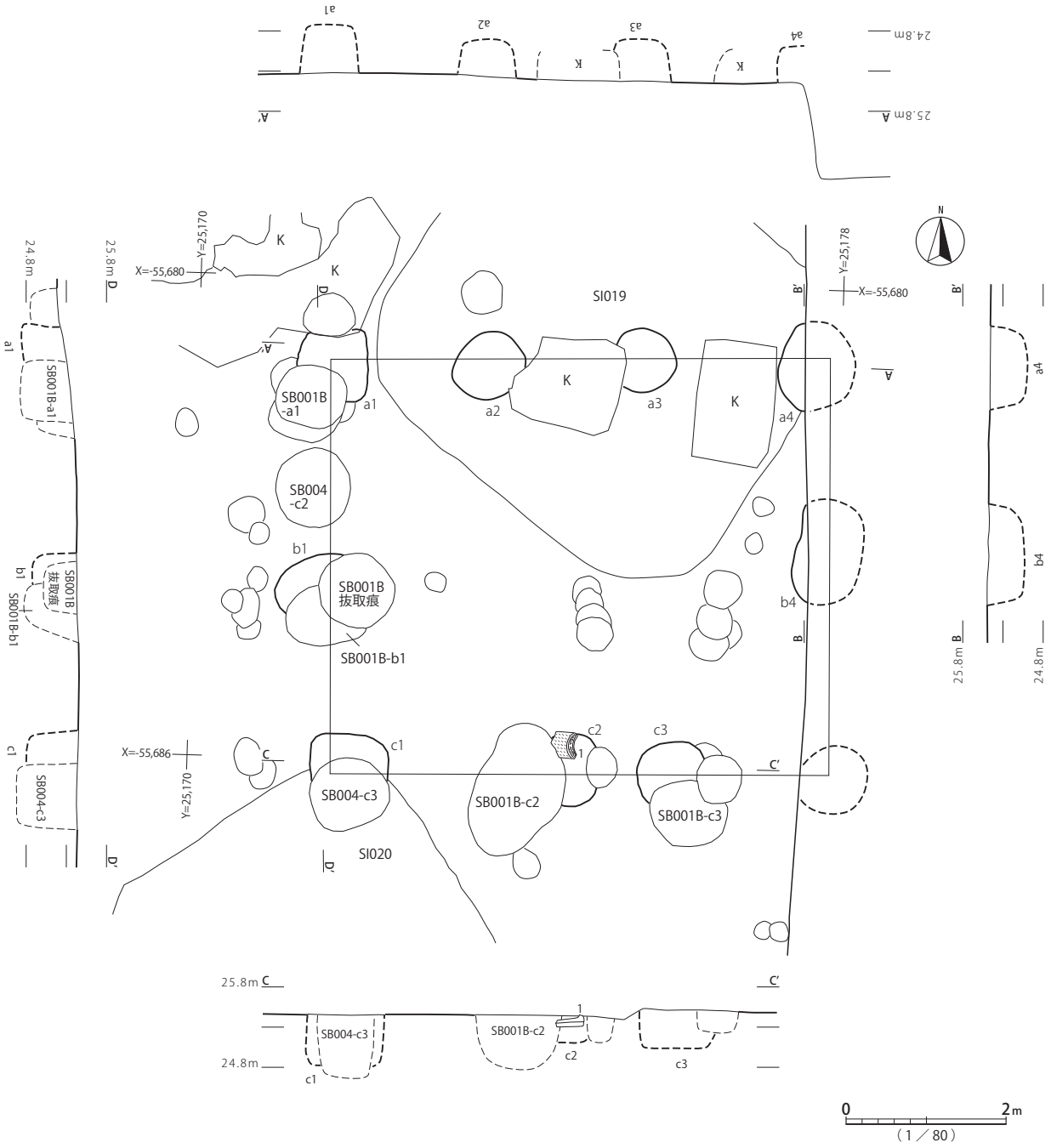
調査区中央に位置する。SB004 に切られ、SI019・SI020 を切る。桁行３間で梁行２間の東西棟掘立柱建物である。方位はN－3.5°－Wで、規模は桁行6.23m、梁行5.29mである。桁行の柱間寸法は６～７尺、梁行は８～９尺と不統一である。柱の通りは良い。遺構の断ち割りを行っていないが、遺構の平面確認から、SB001Aからの１度の建て替えが確認できる。また柱穴b1とc2の平面プランの乱れから、柱の抜取りを想定した。柱穴底面までの深さは、ピンポールを刺して確認した推定値である。

出土遺物１はロクロ土師器杯である。出土遺物から時期は９世紀前葉とみられる。

SB002A（第 23 図）

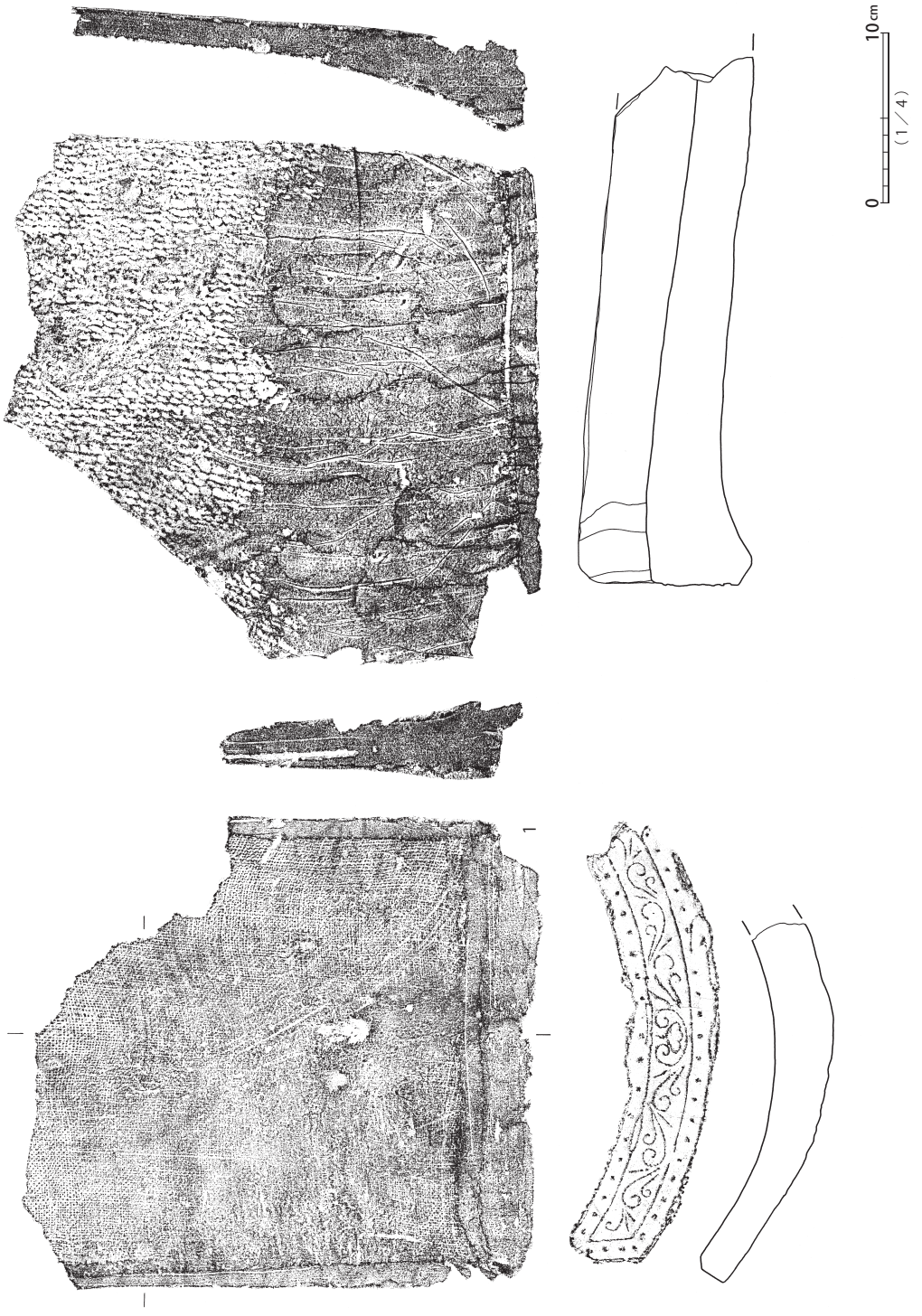
調査区西に位置する。SB004に切られ、SI026を切る。桁行5間で梁行2間の南北棟掘立柱建物である。方位はN－3.0°－Wで、規模は桁行 10.16m、梁行 4.91mである。桁行の柱間寸法は４～８尺と不統一だが、梁行はほぼ８尺に統一される。柱の通りは悪い。遺構の断ち割りを行っていないが、遺構の平面確認から、SB002Bへの１度の建て替えが確認できる。また柱穴a6の平面プランの乱れから、柱の抜取りを想定した。柱穴底面までの深さは、ピンポールを刺して確認した推定値である。遺物は出土していない。

SB001A



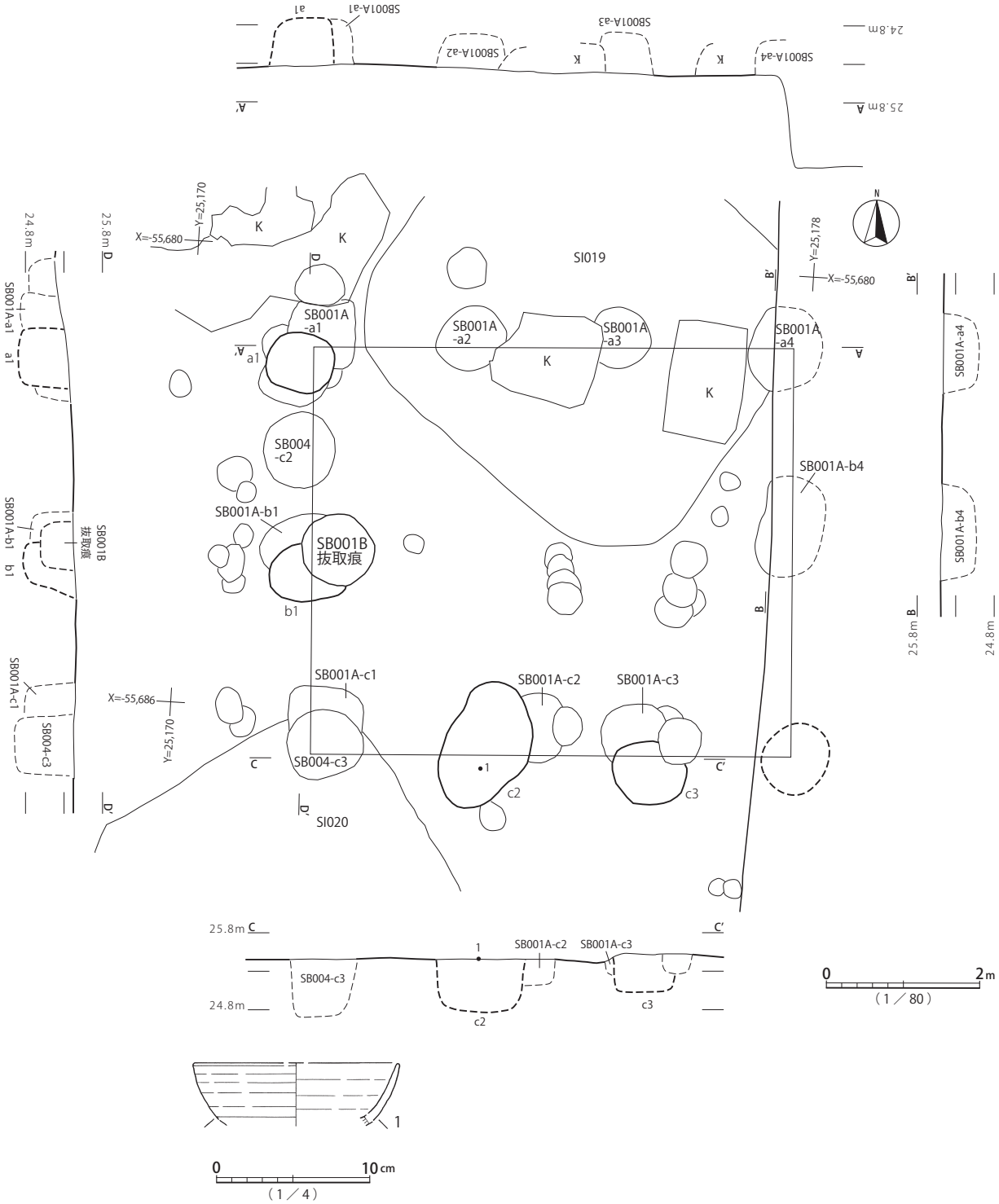
第20図　SB001A 平面図・断面図

SB001A



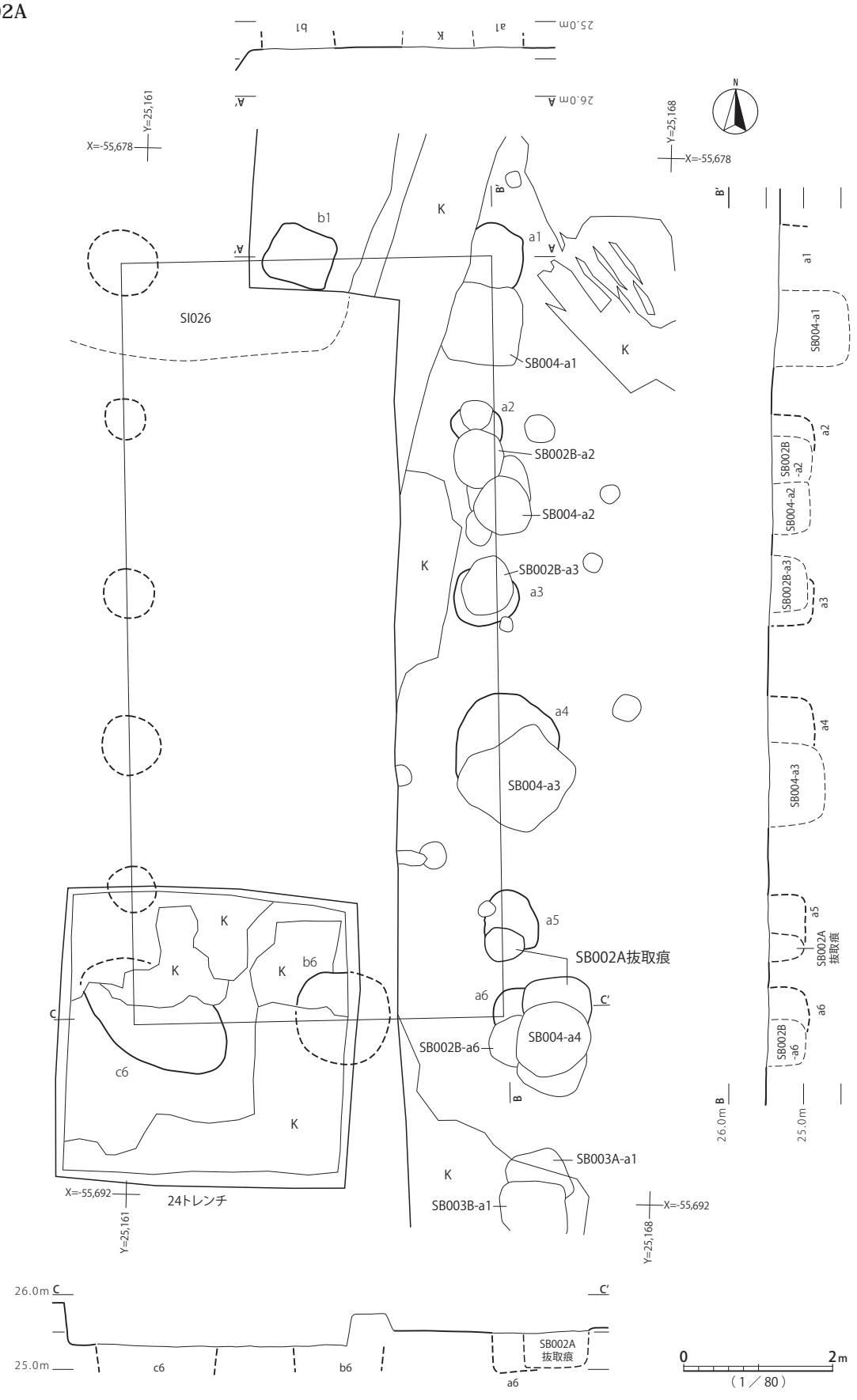
第21図　SB001A 遺物実測図

SB001B



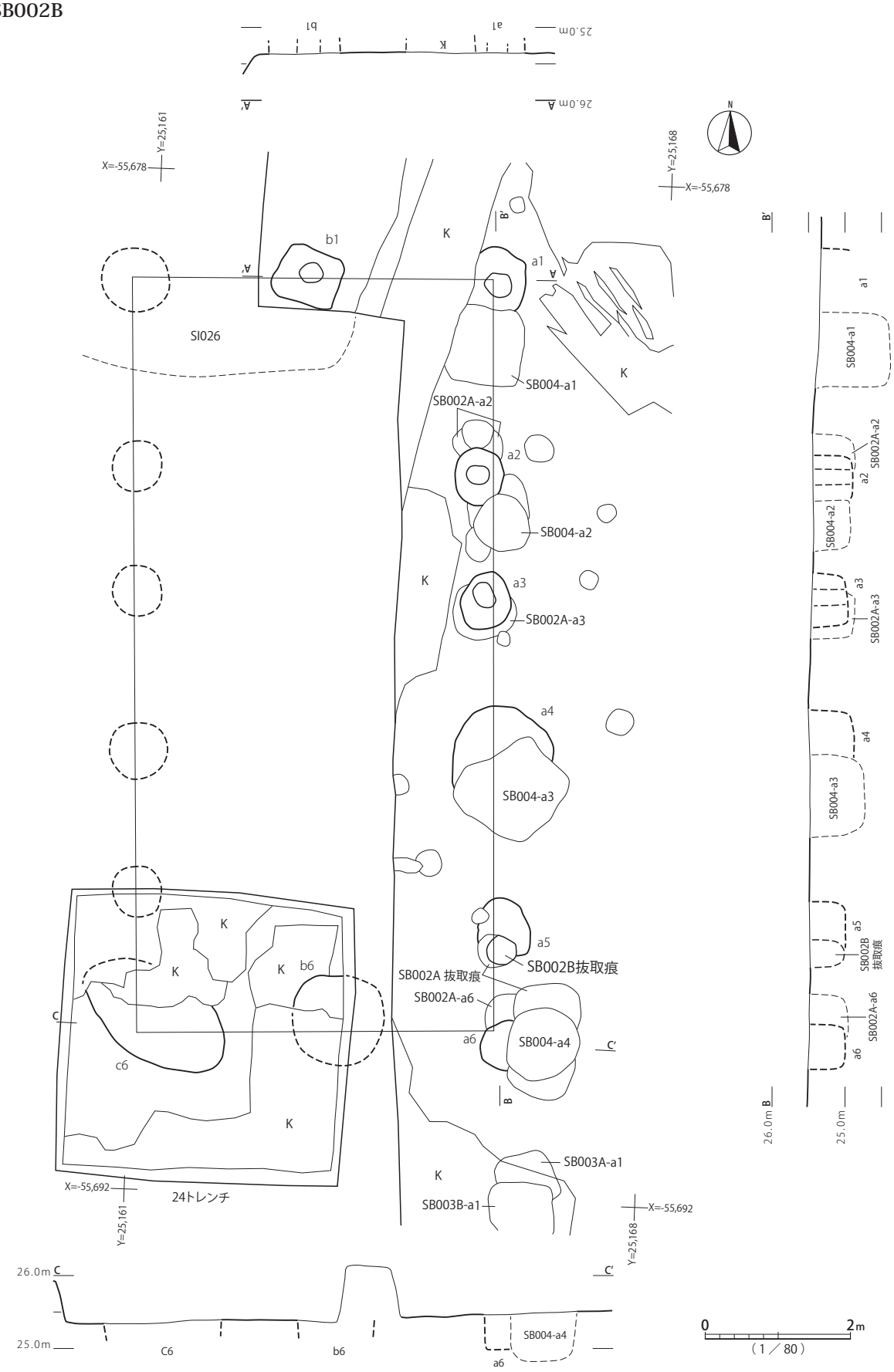
第22図　SB001B 平面図・断面図・遺物実測図

SB002A

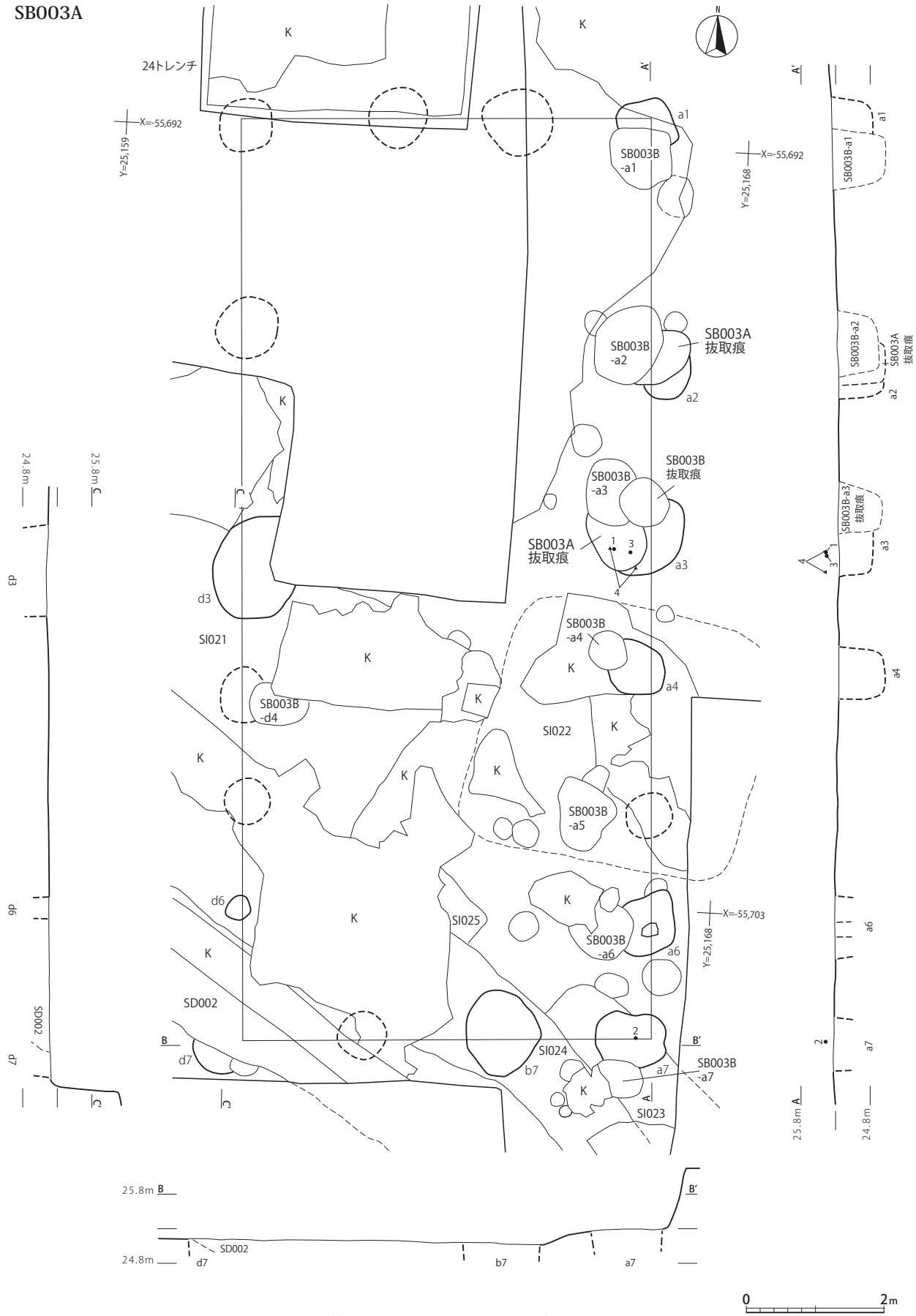


第23図　SB002A 平面図・断面図

SB002B

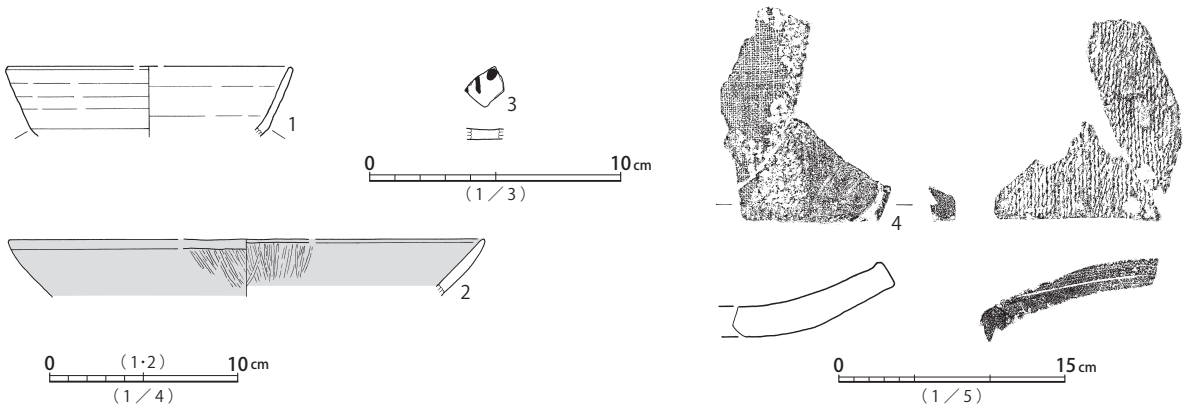


第24図　SB002B 平面図・断面図



第25図　SB003A 平面図・断面図

SB003A



第26図　SB003A 遺物実測図

SB001Aの建物配列と主軸方位が概ね揃うことから、両者が一体的に機能したことが考えられ、8世紀末から9世紀初頭頃の年代が想定される。

SB002B（第 24 図）

調査区西に位置する。SB004に切られ、SI026を切る。桁行5間で梁行2間の南北棟掘立柱建物である。方位はN－3.5°－Wで、規模は桁行10.29m、梁行4.94mである。桁行の柱間寸法は5～9尺と不統一だが、梁行はほぼ8尺に統一される。柱の通りは悪い。遺構の断ち割りを行っていないが、遺構の平面確認から、SB002Aからの1度の建て替えが確認できる。また柱穴a5の平面プランの乱れから、柱の抜取りを想定した。柱穴底面までの深さは、ピンポールを刺して確認した推定値である。遺物は出土していない。

SB001Bと建物配列と主軸方位が揃うことから、これらが一体的に機能したことが考えられ、9世紀前葉頃の年代が想定される。

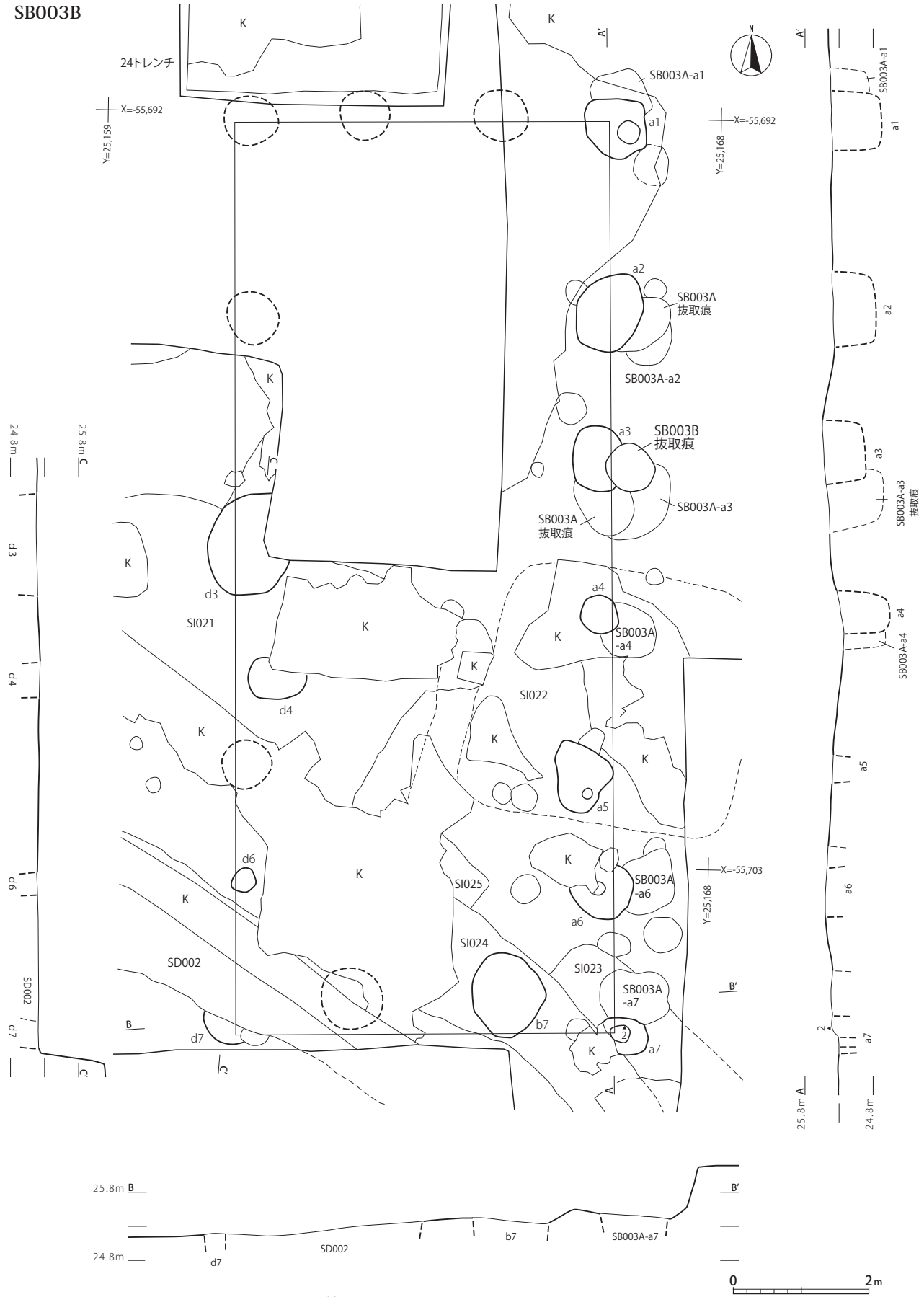
SB003A（第 25・26 図）

調査区南西に位置する。SD002に切られ、SI021、SI022、SI023、SI024を切る。桁行6間で梁行3間の南北棟掘立柱建物である。方位はN－3.5°－Wで、規模は桁行13.28m、梁行5.86mである。桁行の柱間寸法は不統一である。梁行の柱穴は撹乱により不明瞭である。柱の通りは悪い。遺構の断ち割りを行っていないが、遺構の平面確認から、SB003Bへの1度の建て替えが確認できる。柱穴底面までの深さは、ピンポールを刺して確認した推定値である。出土遺物は1がロクロ土師器杯、2が古墳時代前期の高杯、3が土師器杯で底部内面に判読不明の墨書がある。4は平瓦である。

SB001A・SB002Aと、建物配列と主軸方位が概ね揃うことから、これらが一体的に機能したことが考えられ、出土遺物の年代からも時期は8世紀末から9世紀初頭頃と考えられる。

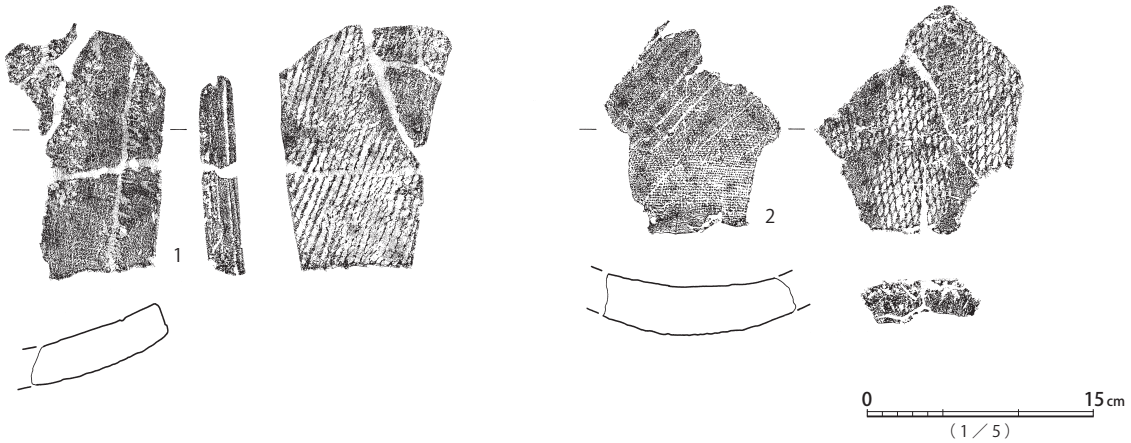
SB003B（第 27・28 図）

調査区南西に位置する。SD002に切られ、SI021、SI022、SI023、SI024を切る。桁行6間で梁行3間の南北棟掘立柱建物である。方位はN－3.0°－Wで、規模は桁行13.32m、梁行5.53mである。桁



第27図　SB003B 平面図・断面図

SB003B



第28図　SB003B 遺物実測図

行の柱間寸法は６～９尺と不統一である。梁行の柱穴は撹乱により不明瞭である。柱の通りは悪い。遺構の断ち割りを行っていないが、遺構の平面確認から、SB003Aからの１度の建て替えが確認できる。柱穴底面までの深さは、ピンポールを刺して確認した推定値である。

出土遺物１・２は平瓦である。

SB001B・SB002Bと、建物配列と主軸方位が概ね揃うことから、これらが一体的に機能したことが考えられ、９世紀前葉頃の年代が想定される。

SB004（第 29 図）

調査区中央に位置する。SI020、SB001A・B、SB002A・Bを切る。北側の大規模な撹乱により、北側の梁行が不明瞭であるが、桁行３間で梁行２間の南北棟掘立柱建物である。方位はN－5.7°－Wで、規模は桁行9.44m、梁行5.52mである。桁行の柱間寸法は最大12尺と大型だが、最小８尺と不統一である。柱の通りは普通である。遺構の断ち割りを行っていないが、遺構の平面確認からは建て替えや柱の抜取り痕は確認できない。柱痕は柱穴a1、a3、b4で確認でき、直径42 ～ 62cmほどである。柱穴底面までの深さは、ピンポールを刺して確認した推定値である。

出土遺物１はロクロ土師器杯で、体部外面に判読不明の墨書がある。２・３は平瓦で、２は桶巻づくりである点が特筆される。小片であるが凹面に模骨痕が確認でき、凸面は横ナデを行う。側面は凹凸面側にケズリ調整を行い、断面剣先状となる。４は鉄滓である。

遺構の年代は９世紀中葉頃が想定される。

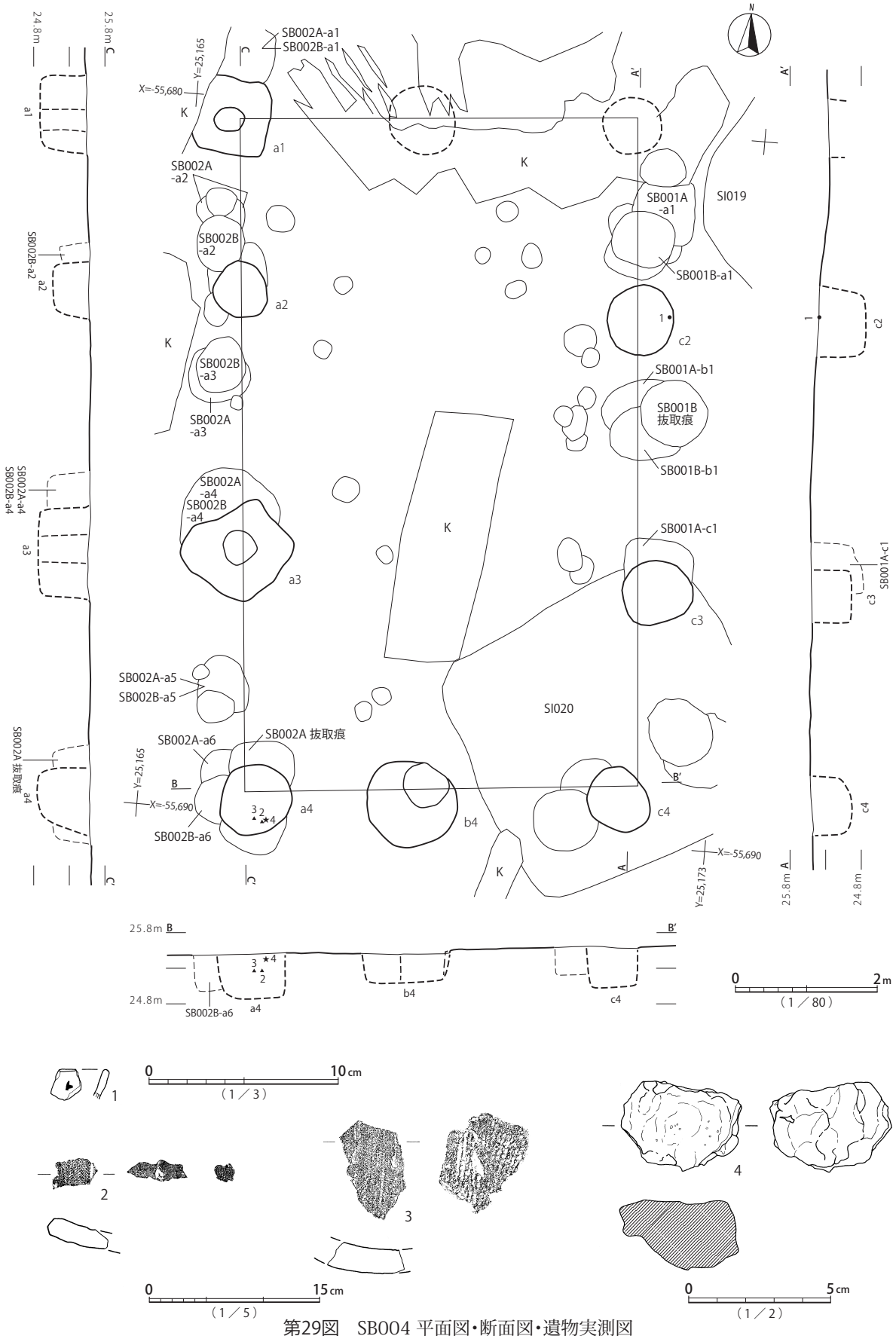
拡張区遺構外出土遺物（第 30 図）

拡張区の遺構外出土遺物である。１～５は土師器で、１はロクロ土師器杯、２はロクロ土師器小皿、３は高杯、４は甕、５は敲き甕である。６・７は平瓦で、８は塼、９は鉄釘、10は不明鉄製品である。

第３節　遺構外出土遺物（第 30 図）

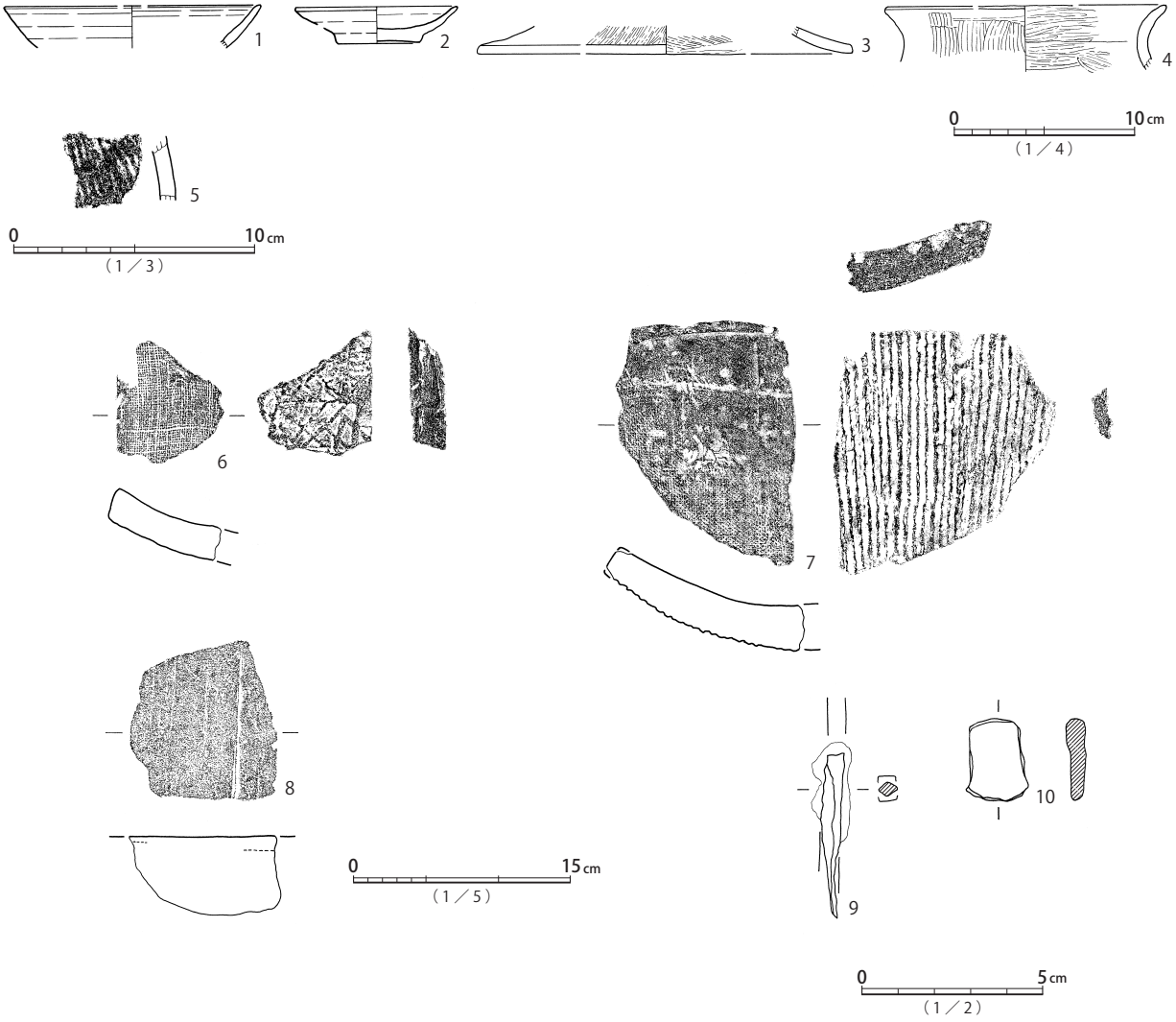
遺構外出土遺物である。１はロクロ土師器杯、２は丸瓦、３は石器剥片である。

SB004

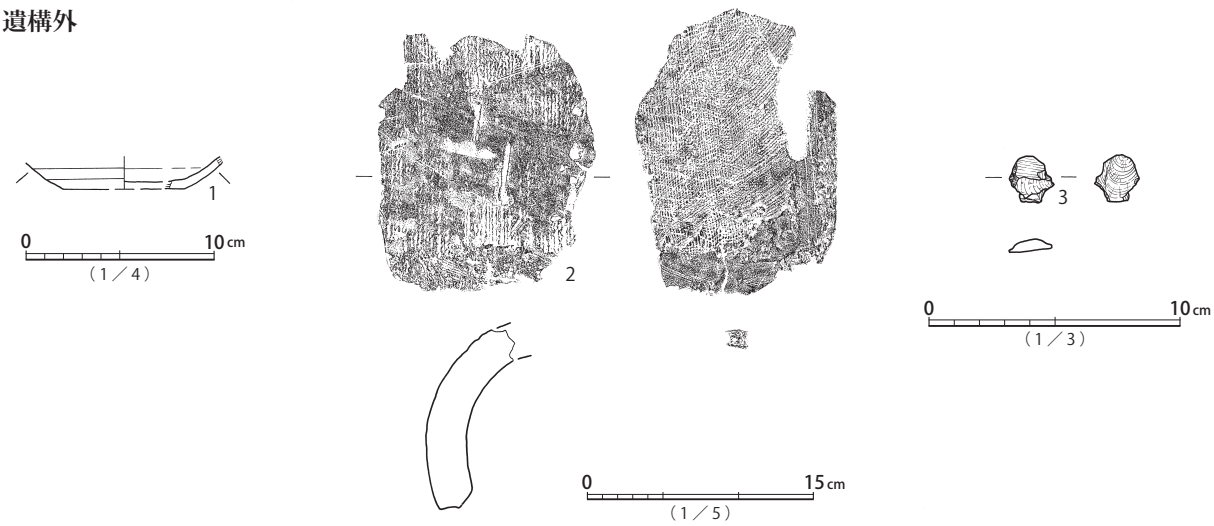


第29図　SB004 平面図・断面図・遺物実測図

拡張区



遺構外



第30図　拡張区、遺構外出土 遺物実測図

第３章　考察

第１節　中台遺跡の遺構の変遷

これまでの下層の中台遺跡と上層の上総国分僧寺の遺構変遷に、今回の調査成果を加える。

中台遺跡では今回の調査区でも、弥生時代後期の竪穴建物１棟が確認された（第31図）。この時期の竪穴建物は東側を中心に分布しているため、今回の調査区はその縁辺だった可能性がある。

弥生時代終末期の中台遺跡の北西では、方形区画施設が確認されている（第32図）。区画施設内には、近接棟持柱建物である掘立柱建物3196号が建てられる。区画施設内で竪穴建物は確認されず、神門墳丘墓群被葬者に関わる、祭祀などを執り行う非日常的な空間と考えられている（鶴岡2013）。今回の調査区ではこの時期の竪穴建物10棟が確認されており、方形区画施設を取り巻く竪穴建物群の一部とみられる。

古墳時代前期になると、遺跡の北西に竪穴建物が集中する（第33図）。今回の調査区でも７棟の竪穴建物を確認した。『市原市中台遺跡』の古墳0530号は上端幅1.08 ～ 2.58ｍの溝で、断面逆台形を呈するものである。この古墳0530号に対応する可能性がある溝を、令和２年度に中台遺跡第14次の確認調査で２トレンチにて検出し（小川2022）、続く中台遺跡第17次本調査で延長部分のSD02を検出し（鈴木2023）、上端幅2.44ｍで断面逆台形となるといった特徴が、古墳0530号の溝と一致する。仮に同一の遺構ならば、方形区画遺構となる可能性が高い。遺構時期は、第17次SD02では中台式の土師器を中心に出土したため、弥生時代終末期とされたが、古墳0530号からは草刈式の土師器甕が出土しているため、中台式から草刈１式頃の遺構とみられる。

第２節　上総国分僧寺の遺構の変遷

今回の調査で確認された上総国分僧寺に関わる遺構を、上総国分僧寺の遺構変遷に加えて検討する。

今回の調査で確認された、上総国分僧寺に関わる遺構で最も古い時期は、II期に該当するSD001である（第34図）。北辺部2232号溝の延長とみられ、今まで推定されていた位置から検出した。この溝はIV－３期まで存続する可能性がある（第37図）。一方、今回の調査区ではII・III期の建物が確認されていない。須田勉氏は今回の調査区である、2020寺院地外郭溝と2204溝の間の空間については、顕著な遺構が確認されないことから、遺構として残らない土地の利用形態であることを考え薗院に想定したが（須田2022）、今回の調査成果からもその想定を肯首できる。

８世紀末から９世紀初頭のIV－２期になると、掘立柱建物SB001A、SB002A、SB003Aが建てられる（第36図）。これらの建物は約3度西に傾けL字状に配置され、一体的に機能したことが考えられる。また建物北側のSD001からはこの時期の遺物も出土している。SD001延長の2232号溝は3176礎石建物に切られ、出土遺物も８世紀中葉にまとまることから、II ～ III期の所産と考えられてきた（櫻井2009）。大衆院部分に関しては遺構の切り合いから考えても従来の見解通り、IV－１期には廃絶したと考えられるが、今回調査区部分については、SD001から８世紀末の遺物が出土しており、IV－２期までは存続したと考えられる。SD001はSB001A、SB002A、SB003Aと傾きも一致しており、北側の空間を区画したと考えられる。

IV－３期は９世紀前葉で、SB001B、SB002B、SB003Bに建て替えられる（第37図）。

Ⅳ－4期は9世紀後葉でSB004のみとなる（第38図）。

Ⅴ期は9世紀末から10世紀第1四半期で、竪穴建物SI016のみとなり、前段階のような掘立柱建物はみられない（第39図）。

Ⅵ～Ⅶ期の主要な遺構は今回の調査では確認されなかった。

Ⅷ期は10世紀第4四半期を中心とする時期で、小土坑SK001が確認されるのみである（第40図）。

Ⅸ期の遺構も確認されず、11世紀後葉のⅩ期は小土坑SK005が確認されるのみである（第41図）。

次に遺構が確認されるのは近世のⅩⅥ期で、SD002を検出した（第42図）。377号道路の延長とみられる。

第3節　第17次調査の掘立柱建物の性格

今回の調査で最も注目される遺構として、SB001～004の掘立柱建物がある。これらの建物は、上総国分僧寺の運営施設が置かれた北辺部に位置し、大衆院、講師院と並ぶことを考えると、運営施設の一部とみられる。全国的に国分寺の運営施設の様相は明らかになっていない事例が多く、課題となっている中で、その位置づけは非常に重要であると言える。一方で今回の調査では、この施設の性格を想起させる墨書土器が出土していないため、施設の性格を断定することはできない。ここではこの施設の性格について、複数の可能性を提示しておきたい。

掘立柱建物SB001～003の特徴は、L字状の官衙的な建物配列をとる点にある。また、この施設は8世紀末頃になって、薗院推定地に建てられている。『大安寺伽藍縁起並流記資財帳』には、大安寺の寺院地内に所在する薗院が資財として登録され、その面積も1坊と明記されている。国分寺についても薗院は寺院の財産として登録されたと考えられるが、不動産として登録された薗院の面積を減らしてまでSB001A、SB002A、SB003Aを建てていることから、この施設の重要性と造営位置が限定されていたことが考えられる。

上記の特徴と遺構の変遷から、まず考えられるのが修造施設の可能性である。上総国分僧寺では、国分寺から離れた千葉市南河原坂窯跡群での創建期の瓦生産から、8世紀末頃になると国分僧寺西側の神門瓦窯に移り、それまでの瓦生産と異なる様相を呈するようになる（鶴岡ほか2016）。そして9世紀前葉の補修瓦生産のピーク時には南河原坂窯跡群では国衙工房による大規模な瓦生産と、南田瓦窯では国分寺直属瓦屋による瓦生産をとる、造瓦体制の変化が考えられる（浅野2024）。こうした国分寺の修造体制と、瓦生産の変革時に第17次調査の建物が出現することを重視すれば、これらの施設がこうした修造組織の拠点と考えることも可能である。

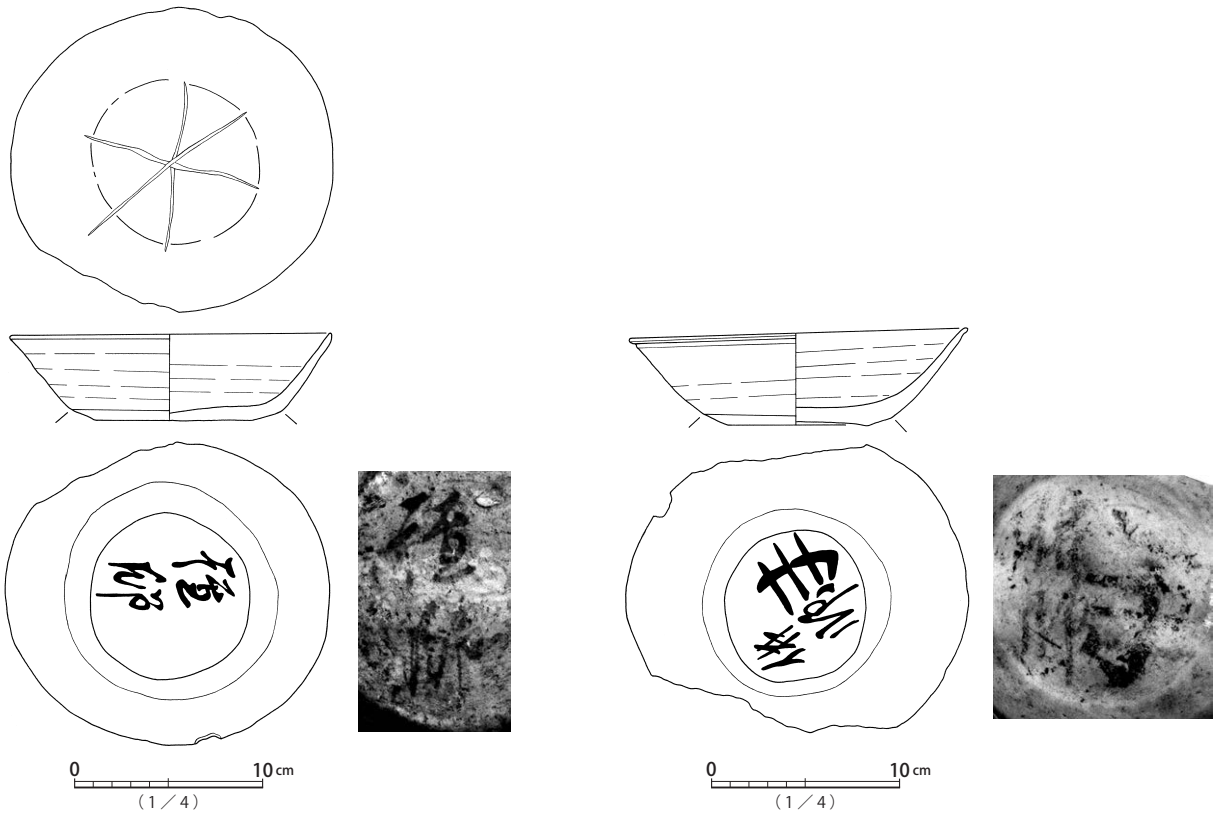
次に考えられるのは講師院に関係する施設の可能性である。SB001～003は講師院最盛期のⅣ－2期から講師院西側に接する形で建てられる[註1]。この時期の大衆院は、ほぼ真北に建てられるのに対し、講師院は約3度、西に傾けて建てられる。第17次調査区のSB001～003も約3度西に傾けて建てられており、これは講師院の傾きに合わせて建てられた可能性が高い。また遺構の消長も講師院の最盛期、衰退時期と一致しており、講師院と第17次SB001～003は密接に関わることが考えられる。

これまで全国の国分寺で講師院が明らかになっているのは、上総国分僧寺と安芸国分僧寺のみだが、安芸国分僧寺では館状の建物であった国師院から、9世紀中葉頃に双堂状の講師院に移転し、10世紀頃まで存続する。双堂状建物の周辺には3棟の掘立柱建物が建てられており、これらの

建物が一体的に機能していたことが考えられる。講師院移転の背景として、天長2年（825）に中央から講師に加え読師の派遣を定めた、諸国講読師制の開始が指摘されている（藤岡・妹尾2011）。そして講師院周囲から「講院」「講一」「講院三」「講七」「読」といった墨書土器が出土することから、双堂状建物周囲の掘立柱建物が、これらの施設にあたることが考えられている。上総国分僧寺の第17次調査区では、安芸国分僧寺で出土したような墨書土器は出土していないが、安芸国分僧寺の事例と同じならば、講師院に複数の建物の存在が想定でき、SB001 ～ 003も講師院の一施設である可能性もある。

一方、講師院と密接に関わる施設としては読師院も考えられる。SB001 ～ 003の成立時期は諸国講読師制の開始よりやや古いが、元々読師の選出は、延暦14年（795）に国分寺僧の中から法会での読師の役割を定めたことから始まっており（柴田1991）、この年代とは矛盾しない。さらに薗院の面積を減らして建てられており、建設位置が限定されていた可能性がある点から、読師院として機能した可能性もある。

現状では上総国分僧寺から読師に関わる墨書土器は出土していないが、市原市二日市場廃寺の山林寺院と考えられている市原市萩ノ原遺跡で、墨書土器「読ヵ師」が出土している（浅野2025b）。この墨書土器は、法会での役割としての読師を示している可能性もあるが、同じ竪穴建物からは墨書土器「寺佛師」も出土している。両者が記銘された土師器杯の法量、調整もよく似ており、同じ契機に墨書されたことが考えられる（第43図）。墨書の契機は造像に伴う法会とみられ、仏師と読師がセットで国分寺から派遣された可能性がある。また承和2年（841）頃から読師の派遣を停止する国が散



第43図　萩ノ原遺跡8号住居出土墨書土器

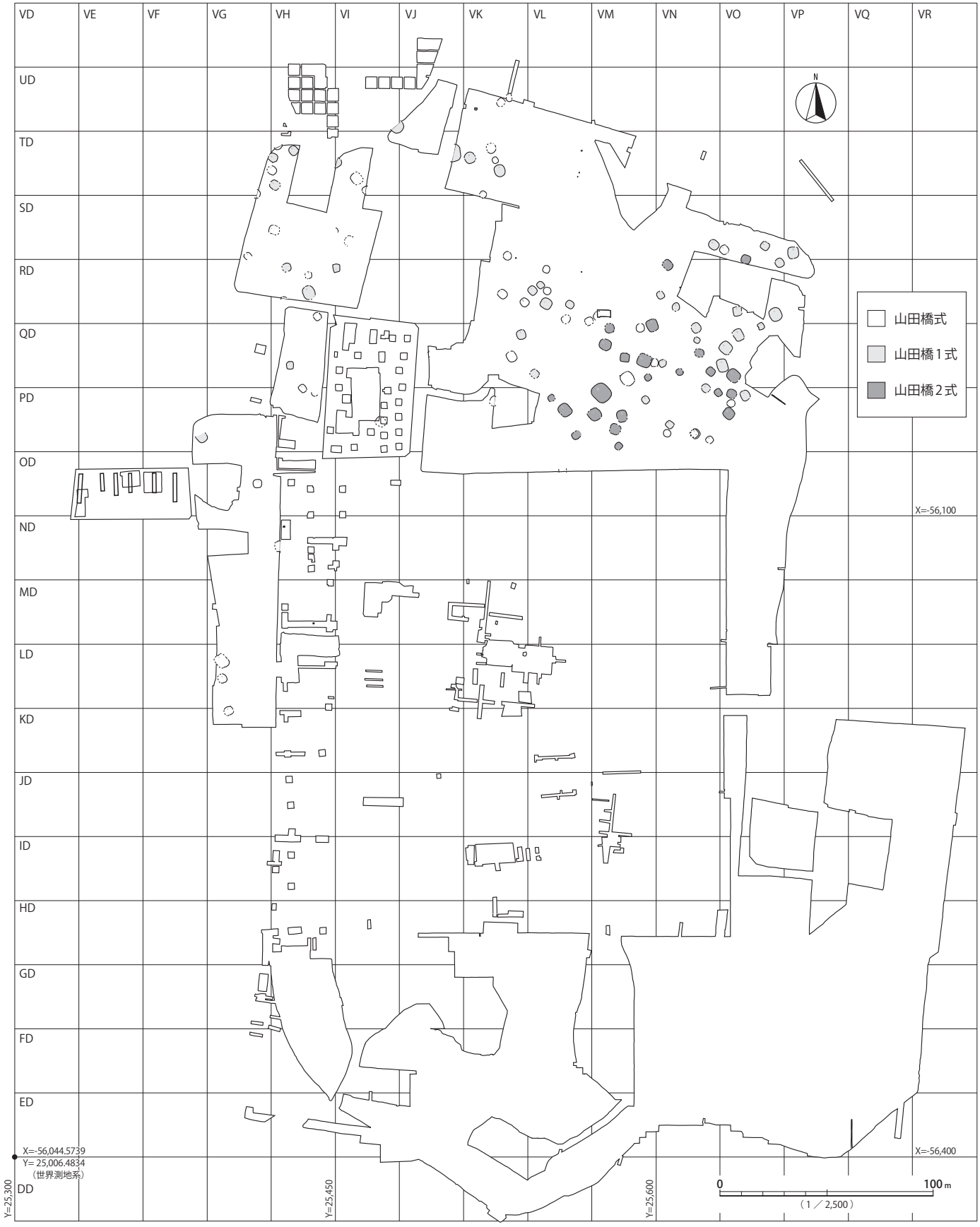
見されるものの、派遣が停止される国の等級は下国が多く、停止した場合も国分寺僧から読師を選出している（柴田1991）。以上の事例から上総国分僧寺にも読師が置かれた可能性があり、第17次調査SB001 ～ 003が読師院の一部であった可能性も考えられる。一方で、これらの掘立柱建物の規模は大衆院、講師院よりも小さく、安芸国分僧寺の講師院ほど近接して建てられず、やや離れた地点に建てられる点は、講師院から独立しているようにみえる。

次に考えられるのは醤や酒等の醸造施設である。既に大衆院で検出された施設については、須田勉氏によって性格の推定がされており、食堂、客房、湯屋、厨屋、写経所、三綱務所、務所に比定されている（須田2016）。一方で、但馬国分僧寺で出土した木簡では、醤の醸造にあたった「醤殿」の記載が確認され、こうした醸造施設が国分寺の運営施設として置かれたことが考えられる。神護景雲元年（767）11月の勅（『類聚三代格』同年11月12日勅）では、国分僧尼の食生活改善に米・塩のほか、醤、酢、雑菜を供することが令達されており（市2013）、道鏡政権下での僧尼の優遇政策と指摘されている（須田2013）。上総国分僧寺では「金酒」「末/酒」といった酒に関わる墨書土器も出土しており、こうした酒類の醸造施設が置かれたことも考えられる。こうした背景から、上総国分僧寺にも但馬国分僧寺のように、醤殿などの醸造施設が置かれたのだとすると、今回検出した掘立柱建物が該当する可能性もある。掘立柱建物が大衆院や講師院等の掘立柱建物に比べて、平面規模が小さいこととも整合的である。ただし、今回の掘立柱建物が建てられるのは8世紀末からであるため、神護景雲元年の勅と年代は一致しない。

以上のように施設の性格は断言できる段階にないが、上記のような施設の複数の可能性を考えたうえで、これまでの調査成果を見直す必要があるだろう。いずれにせよ今回の調査で、これまで遺構が存在しないと考えられてきた薗院推定地に、8世紀末頃から国分僧寺の運営施設が置かれたことが明らかになった意義は大きい。この施設の具体的な性格の検討は、今後の全国の国分寺の発掘調査成果との比較も必要である。

註

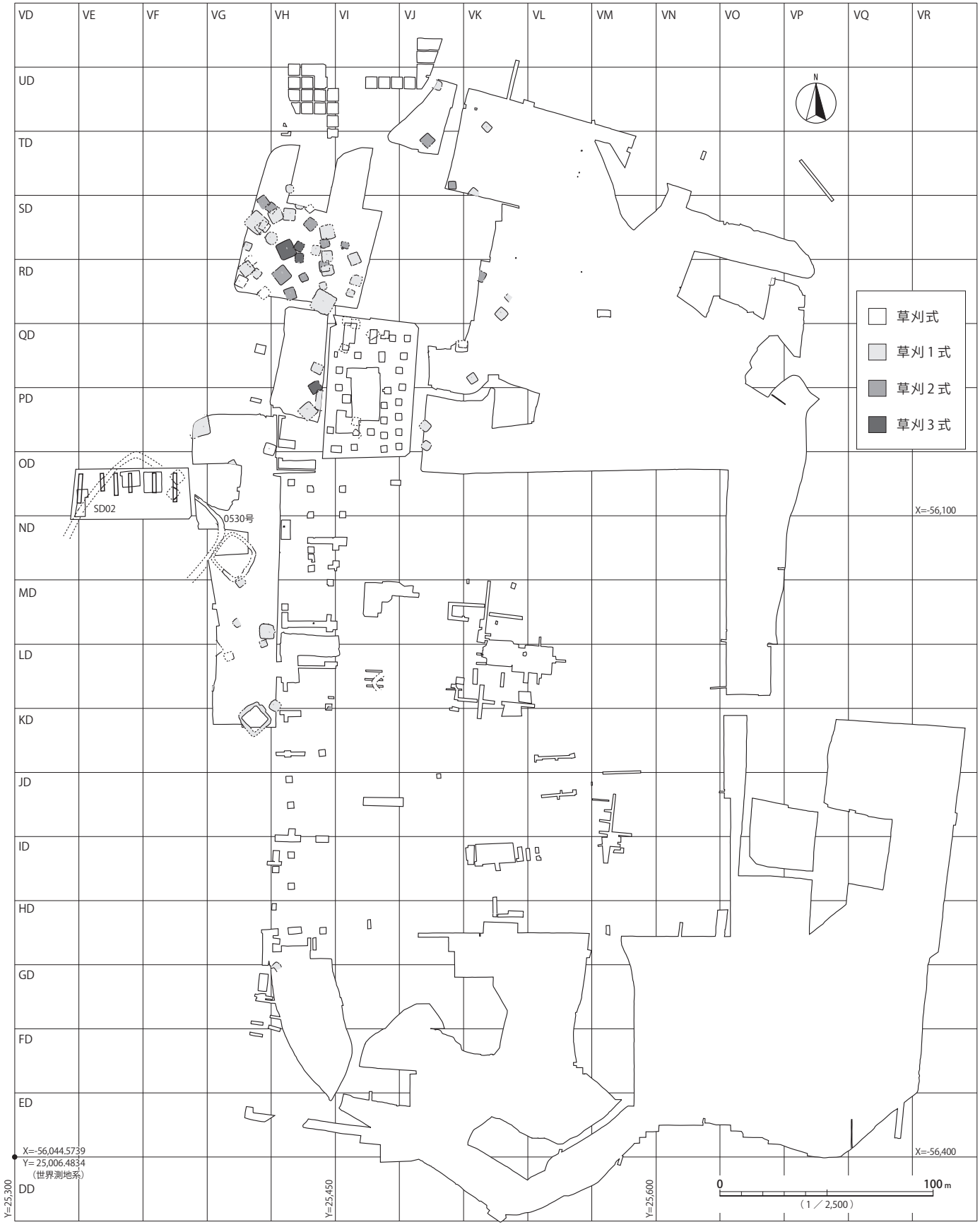
（1）講師院の変遷は、須田勉氏の見解に従う（須田2022）。



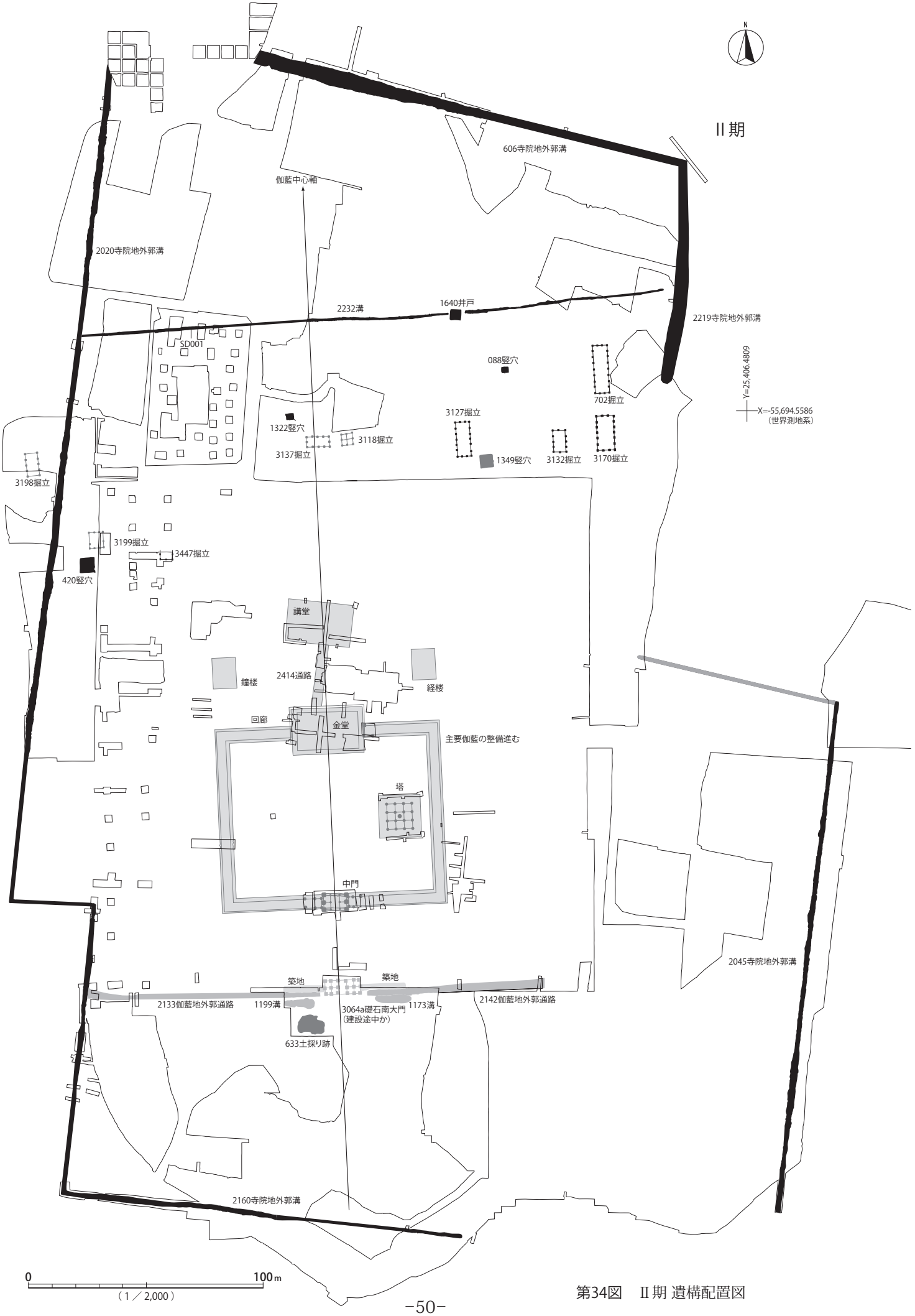
第31図　中台遺跡の変遷 弥生後期



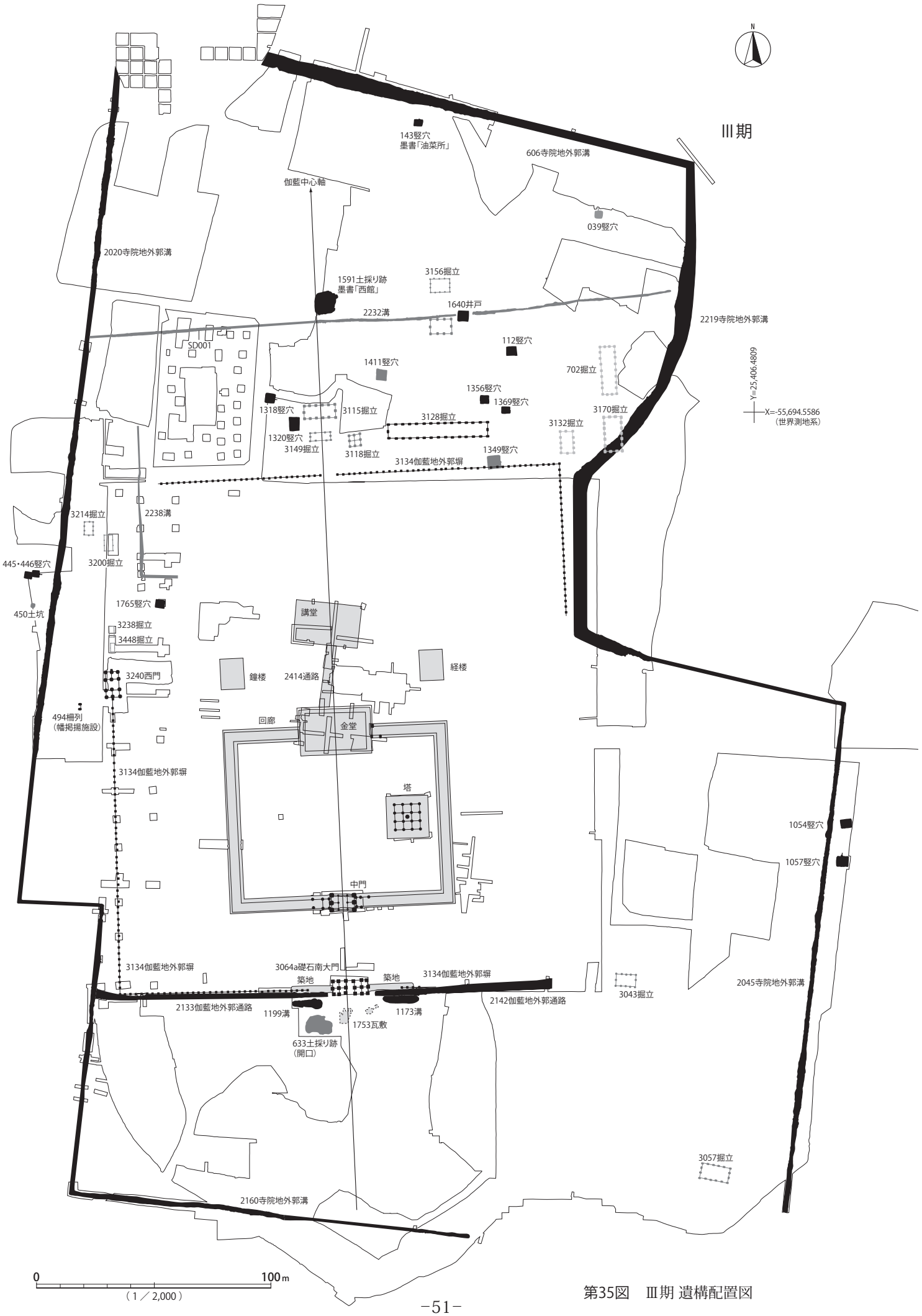
第32図　中台遺跡の変遷 弥生終末期



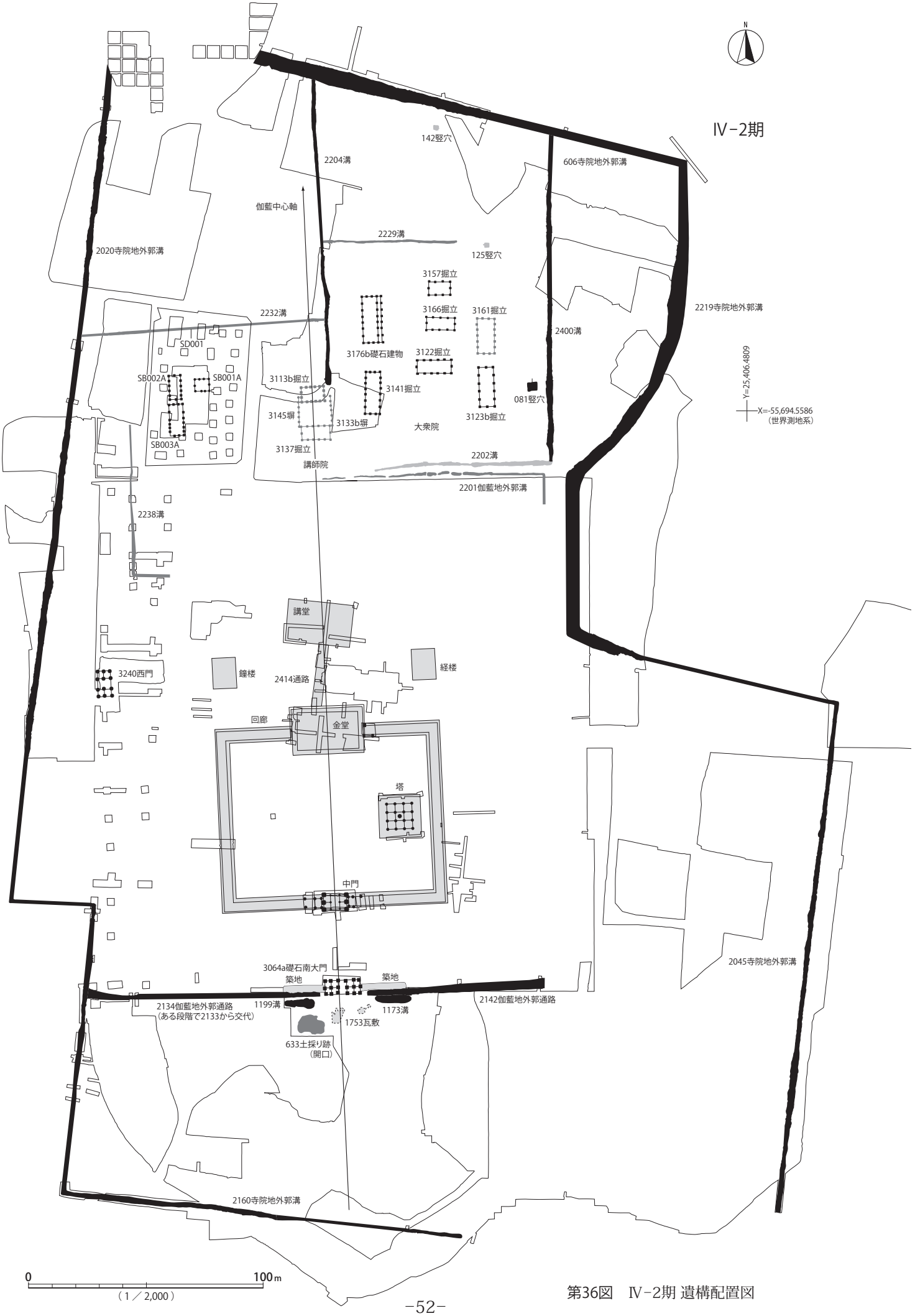
第33図　中台遺跡の変遷 古墳前期



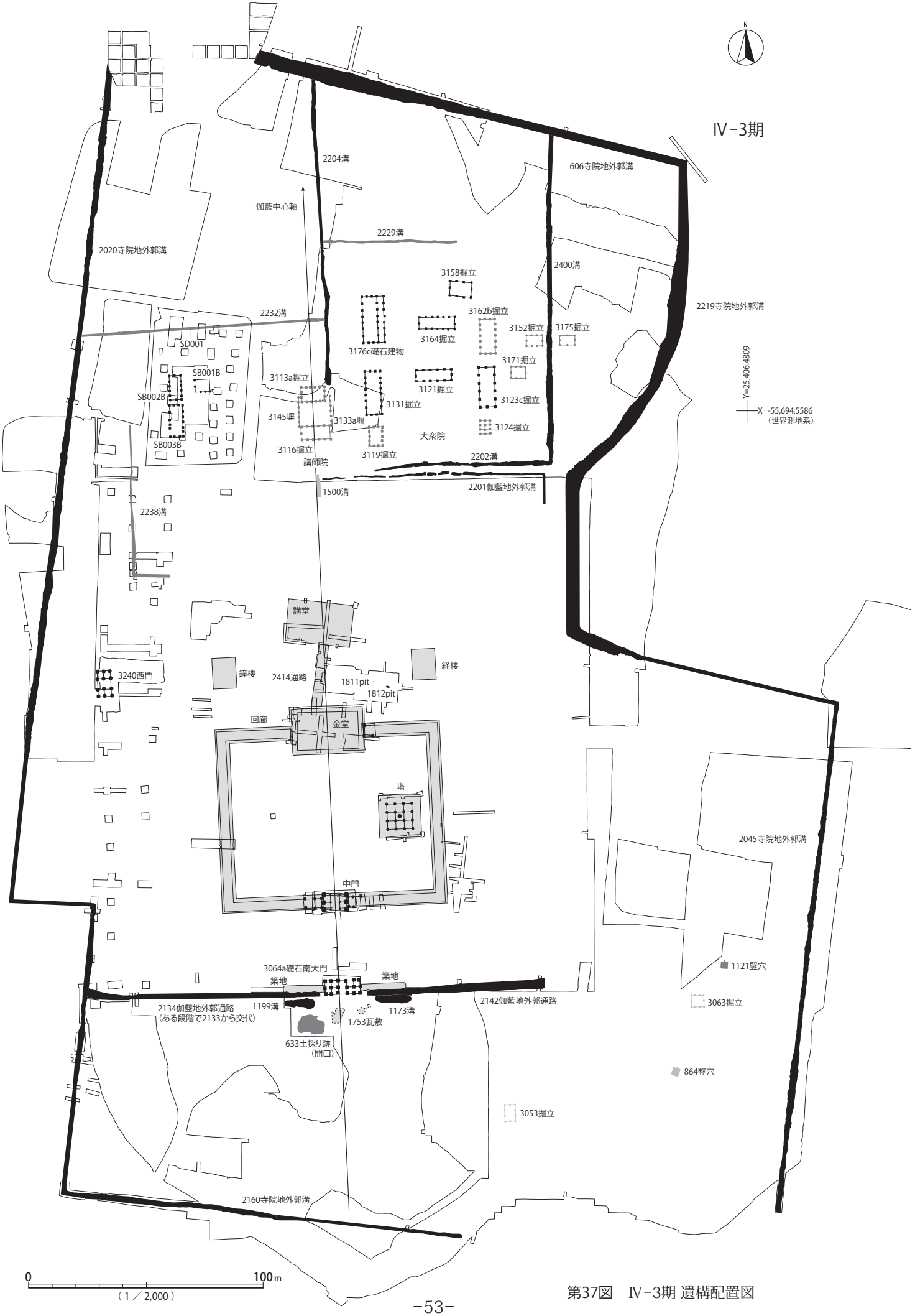
第34図　II期 遺構配置図



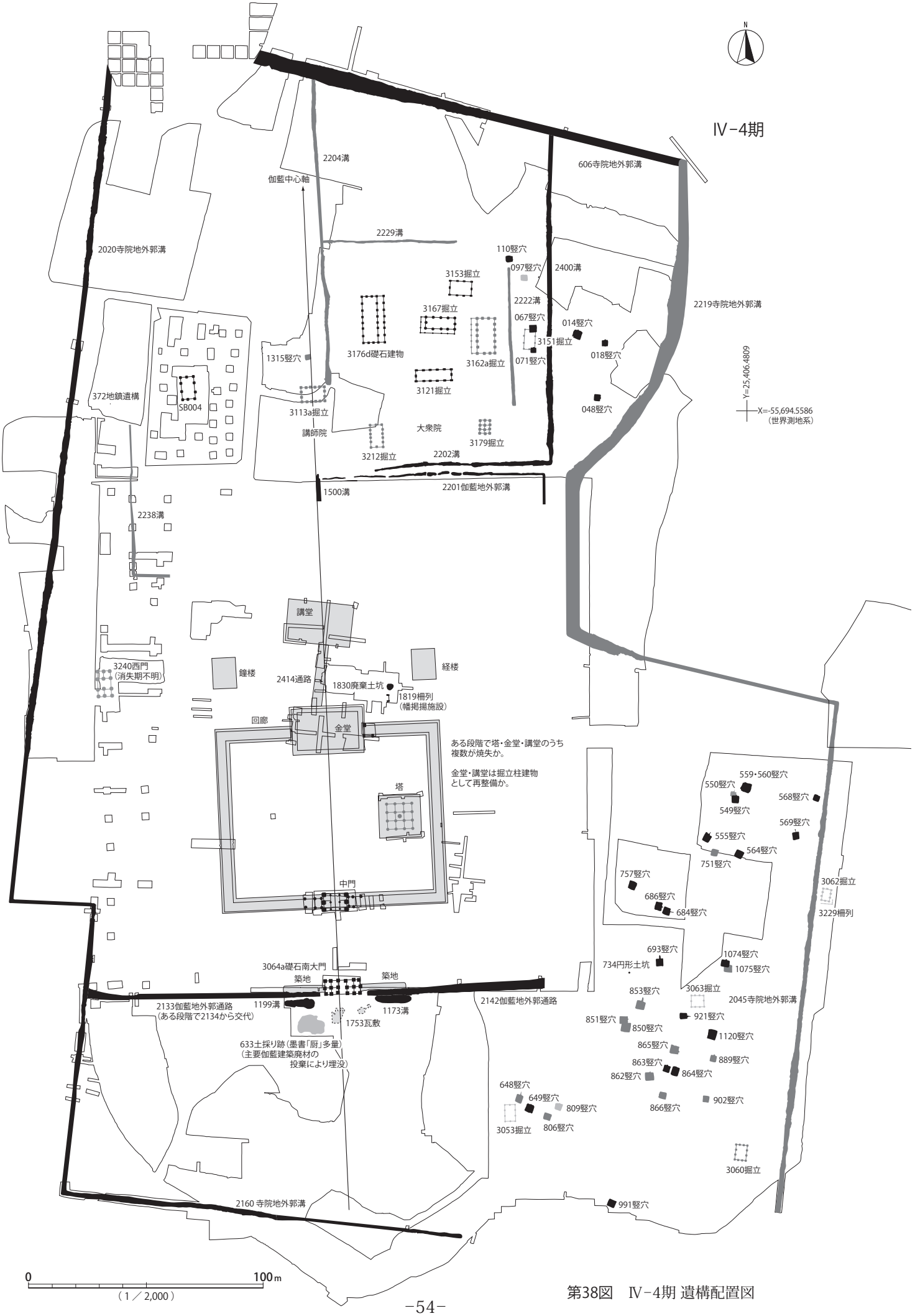
第35図　Ⅲ期 遺構配置図



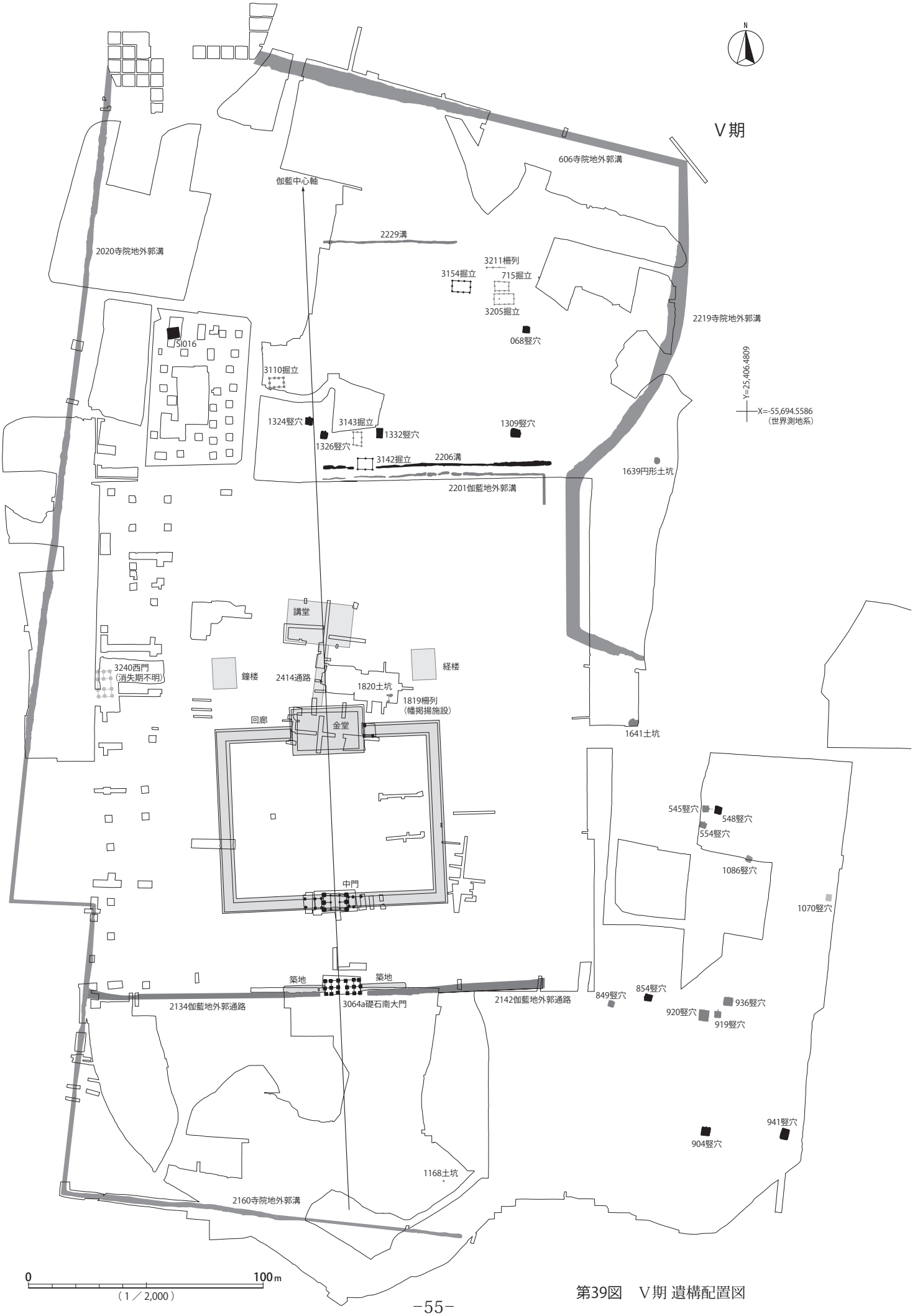
第36図　Ⅳ−2期 遺構配置図



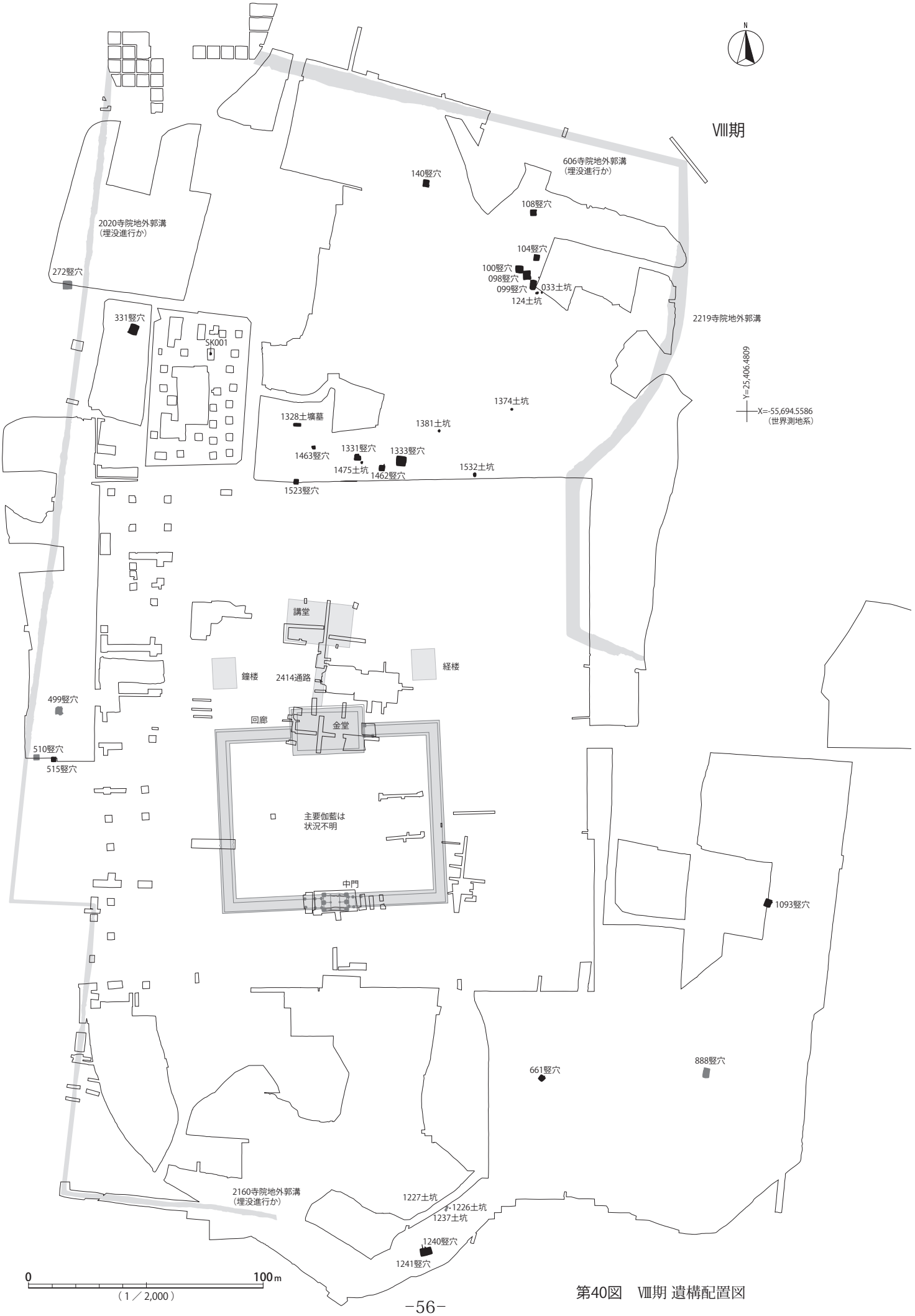
第37図　Ⅳ−3期 遺構配置図



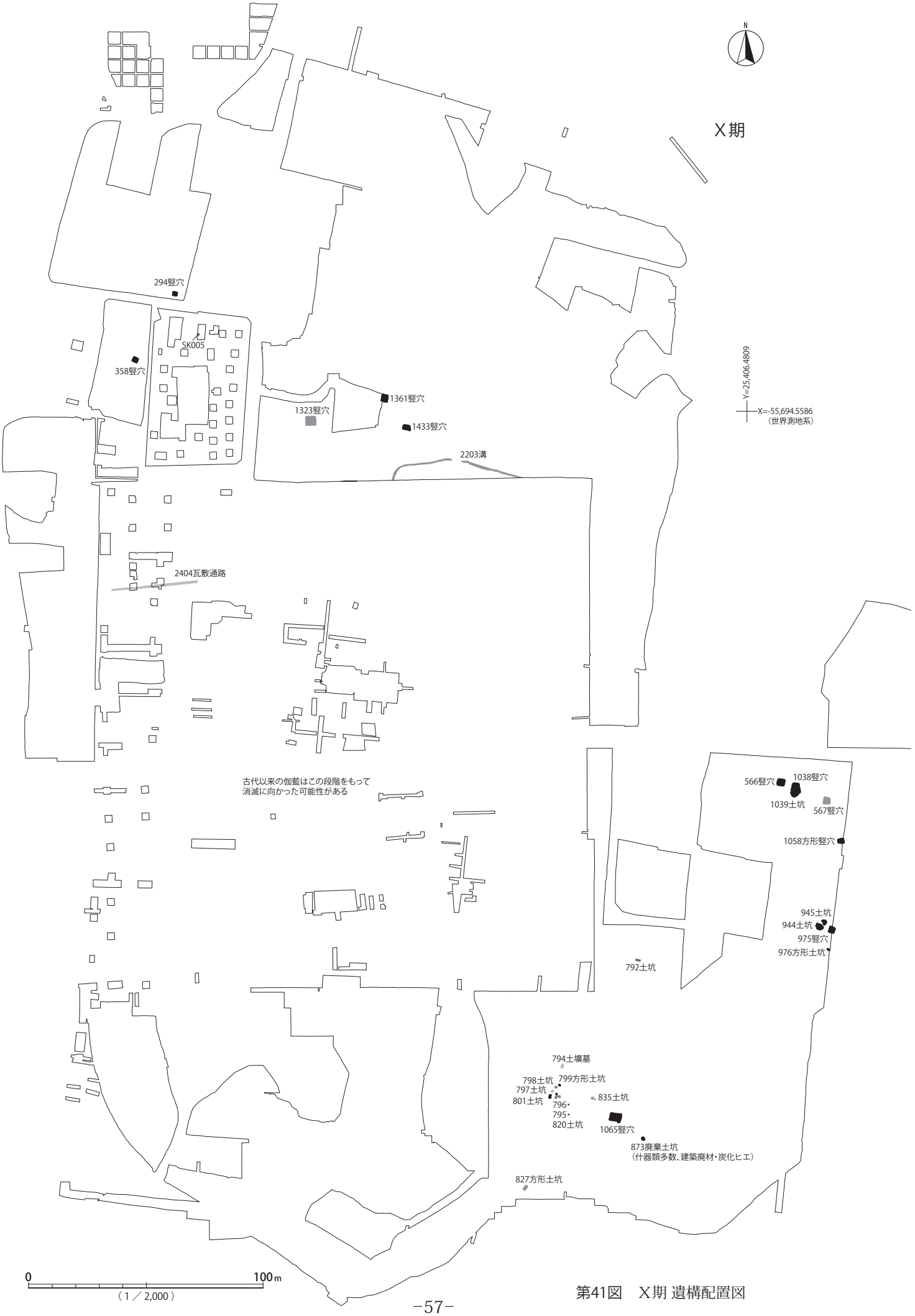
第38図　Ⅳ−4期 遺構配置図



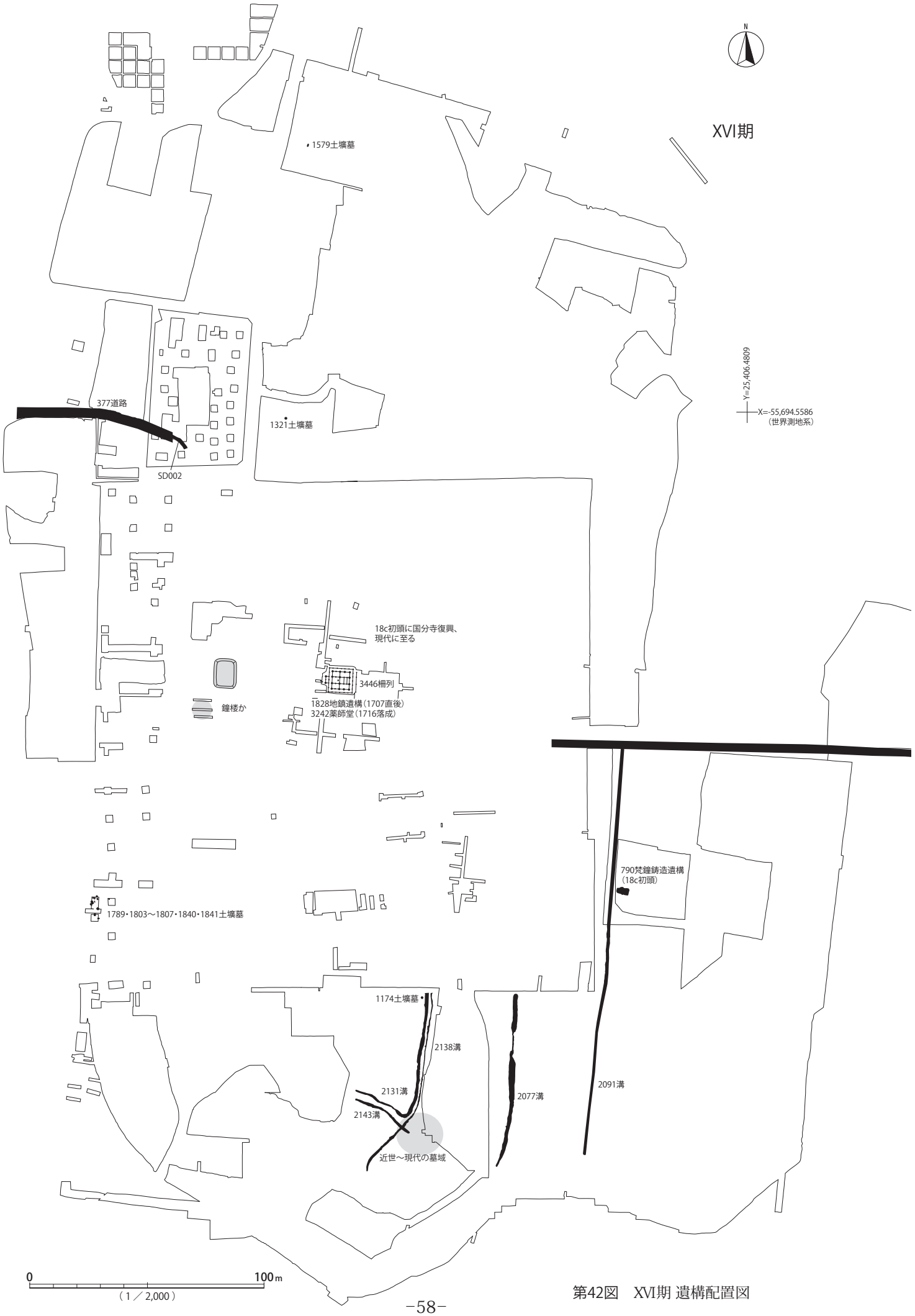
第39図　V期 遺構配置図



第40図　Ⅷ期 遺構配置図



第41図　X期 遺構配置図



第42図　XVI期 遺構配置図

参考文献

浅野健太2023『市原市五所四反田遺跡』市原市教育委員会
浅野健太2024「上総国分僧寺の文字瓦と造瓦組織」『国士舘考古学』第11号　国士舘大学考古学会
浅野健太2025a『市原市郡本遺跡群（郡本地区第34次）』市原市教育委員会
浅野健太2025b「上総国海上郡周辺の里の寺と山の寺」『東国の地域間交流と平安仏教Ⅱ』東国古代遺跡研究会
浅利幸一ほか2003『市原市稲荷台遺跡』財団法人市原市文化財センター
市大樹2013「国分寺と木簡―但馬国分寺木簡を中心に―」『国分寺の創建―組織・技術編―』吉川弘文館
大熊久貴2024「方形区画遺構の出現と展開」『考古学研究』第71巻第2号　考古学研究会
大谷弘幸1998「市原古道遺跡」『千葉県の歴史』資料編考古3（ 奈良・平安時代）　千葉県
大村直2009『市原市南中台遺跡・荒久遺跡A 地点』市原市教育委員会
大村直2010「土器の移動と移住」『房総の考古学』六一書房
小川浩一2022『令和3年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
川尻秋生2001「資財帳からみた伽藍と大衆院・政所」『古代』第110号　早稲田大学考古学会
北見一弘2011『市原市荒久遺跡B・C 地点』市原市教育委員会
小出紳夫2002『市原市坊作遺跡』財団法人市原市文化財センター
小橋健司2006『市原市長平台遺跡』財団法人市原市文化財センター
小橋健司2023『市原市天神台遺跡Ⅲ』市原市教育委員会
櫻井敦史2009『上総国分僧寺跡Ⅰ』市原市教育委員会
柴田博子1991「諸国講読師制成立の前後―ひとつの覚え書きとして―」『奈良古代史論集』第2集　真陽社
鈴木宏和2023『令和4年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
須田 勉・浅利幸一1982『上総国分寺台発掘調査概要Ⅸ　上総国分僧寺跡―寺域北辺部における調査―』市原市教育委員会・上総国分寺台遺跡調査団
須田勉1998「光善寺廃寺」『千葉県の歴史』資料編考古3（奈良・平安時代）　千葉県
須田勉2013「国分寺造営の諸段階―考古学から―」『国分寺の創建―組織・技術編―』吉川弘文館
須田勉2016『国分寺の誕生』吉川弘文館
須田勉2022『ならび建つ国分僧寺・尼寺　上総国分寺』新泉社
田中清美ほか1989『千草山遺跡・東千草山遺跡』財団法人市原市文化財センター
鶴岡英一2013『市原市中台遺跡』市原市教育委員会
鶴岡英一ほか2016『上総国分僧寺跡Ⅱ』市原市教育委員会
藤岡孝司・妹尾周三2011「安芸国分寺」『国分寺の創建―思想・制度編―』吉川弘文館
宮本敬一1995「墨書土器から見た国分寺の講師院と読師院」『日本通史』月報22　岩波書店
山路直充2011「寺の空間構成と国分寺」『国分寺の創建―思想・制度編―』吉川弘文館

第 4 章　自然科学分析

第 1 節　上総国分僧寺跡ほかの年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

上総国分僧寺跡（市原市惣社所在）は、奈良時代に建立された国分寺の一つで、養老川の下流右岸の台地上に立地する。付近には国分尼寺跡もあり、一帯は古代上総の政治的中心であったと考えられている。また、郡本遺跡群は養老川下流右岸の台地北西部に広がる遺跡で上総国府と市原郡衙の推定地である。五所四反田遺跡は郡本遺跡群西側の低地に位置し、古代の道路跡を検出している。今回は、上総国分僧寺跡（第17次）と、この遺跡と立地、時期、性格が関係する郡本遺跡群郡本地区（第34次）、五所四反田遺跡で出土した試料を参考に放射性炭素年代測定を実施する。

1. 試料

分析試料は、上総国分僧寺跡（第17次）から検出された1点（No.1）、郡本遺跡群郡本地区（第34次）から検出された5点（No.2～6）、五所四反田遺跡から検出された6点（No.7～12）の計12点の炭化材、ニホンジカの角・骨、果実類である。炭化材の試料は別報の樹種同定試料と同一である。第5表に年代測定結果とともに試料の一覧を示す。

2. 炭化材の分析方法

炭化材の試料は、表面の付着物を物理的に削り取り、50mg程度に調整する。塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA：Acid Alkali Acid）。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に1mol/Lである。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）はElementar社のvario ISOTOPE cube とIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。測定はタンデム加速器をベースとした^{14}C－AMS専用装置（NEC社製）を用いて、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C濃度（^{14}C/^{12}C）を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX－Ⅱ）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA－C6等）、バックグラウンド試料（IAEA－C1）の測定も行う。δ^{13}Cは試料炭素の^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma；68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う（Stuiver & Polach 1977）。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウエアは、Oxcal4.4（Bronk,2009）、較正曲線はIntcal20（Reimer et al.,2020）である。

3. 炭化材の結果

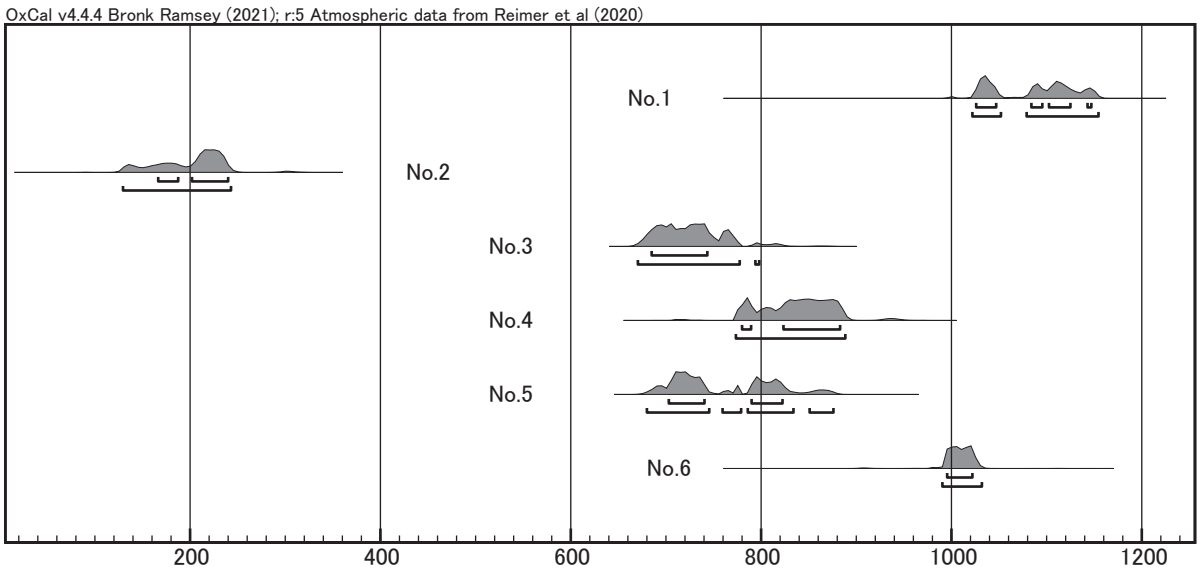
結果を第5表、第44図に示す。同位体補正を行った測定年代は、No.1が980±20BP、No.2が1840±20BP、No.3が1270±20BP、No.4が1195±20BP、No.5が1245±20BP、No.6が1035±20BPである。

暦年較正は、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、その後訂正された半減期（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正することによって、暦年代に近づける手法である。2σの値は、No.1がcalAD1022 ～ 1154、No.2がcalAD129 ～ 243、No.3がcalAD670 ～ 798、No.4がcalAD773 ～ 888、No.5がcalAD680 ～ 876、No.6がcalAD990 ～ 1032である。

第5表　放射性炭素年代測定結果

No.	出土位置	性状	方法	補正年代 BP（暦年較正用）	δ ^{13}C（‰）	暦年較正年代											Code No.	
						年代値										確率 %		
1	35 トレンチ	炭化材 ヒサカキ	AAA（1M）	980 ± 20（978 ± 20）	−27.47 ± 0.16	σ	cal	AD	1026	−	cal	AD	1047	925	−	904	calBP	28.8	YU−19950	pal−15121
							cal	AD	1084	−	cal	AD	1095	867	−	855	calBP	11.5		
							cal	AD	1102	−	cal	AD	1125	848	−	826	calBP	24.7		
							cal	AD	1143	−	cal	AD	1147	808	−	804	calBP	3.2		
						2σ	cal	AD	1022	−	cal	AD	1052	929	−	899	calBP	33.4		
							cal	AD	1079	−	cal	AD	1154	872	−	796	calBP	62.0		
2	SB001A ～ C a3	炭化材 アカガシ亜属	AAA（1M）	1840 ± 20（1842 ± 21）	−29.77 ± 0.16	σ	cal	AD	166	−	cal	AD	187	1784	−	1763	calBP	14.5	YU−19951	pal−15122
							cal	AD	202	−	cal	AD	240	1749	−	1711	calBP	53.8		
						2σ	cal	AD	129	−	cal	AD	243	1821	−	1708	calBP	95.4		
3	SB001A ～ C d2	炭化材 スダジイ	AAA（1M）	1270 ± 20（1270 ± 20）	−29.28 ± 0.24	σ	cal	AD	685	−	cal	AD	743	1266	−	1207	calBP	68.3	YU−19952	pal−15123
						2σ	cal	AD	670	−	cal	AD	777	1280	−	1173	calBP	94.7		
							cal	AD	794	−	cal	AD	798	1157	−	1153	calBP	0.7		
4	SB001A ～ C d3	炭化材 ムクロジ	AAA（1M）	1195 ± 20（1193 ± 21）	−27.60 ± 0.26	σ	cal	AD	780	−	cal	AD	789	1171	−	1161	calBP	9.0	YU−19953	pal−15124
							cal	AD	823	−	cal	AD	883	1127	−	1068	calBP	59.3		
						2σ	cal	AD	773	−	cal	AD	888	1177	−	1062	calBP	95.4		
5	SB001A ～ C d3	炭化材 モチノキ属	AAA（1M）	1245 ± 20（1245 ± 20）	−29.43 ± 0.25	σ	cal	AD	703	−	cal	AD	740	1248	−	1210	calBP	41.7	YU−19954	pal−15125
							cal	AD	790	−	cal	AD	822	1161	−	1128	calBP	26.5		
						2σ	cal	AD	680	−	cal	AD	745	1271	−	1205	calBP	53.3		
							cal	AD	759	−	cal	AD	779	1191	−	1172	calBP	4.5		
							cal	AD	786	−	cal	AD	834	1165	−	1117	calBP	31.8		
							cal	AD	851	−	cal	AD	876	1100	−	1075	calBP	5.8		
6	SH003 P11	炭化材 クヌギ節	AAA（1M）	1035 ± 20（1037 ± 20）	−30.97 ± 0.31	σ	cal	AD	995	−	cal	AD	1022	955	−	929	calBP	68.3	YU−19955	pal−15126
						2σ	cal	AD	990	−	cal	AD	1032	960	−	919	calBP	95.4		

1）年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2）BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3）付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68.2%が入る範囲）を年代値に換算した値。
4）AAAは、酸・アルカリ・酸処理を示す。
5）暦年の計算には、Oxcal v4.4を使用
6）暦年の計算には1桁目まで示した年代値を使用
7）較正データーセットはIntCal20を使用。
8）較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
9）統計的に真の値が入る確率は、σが68.2%、2σが95.4%である。



第 44 図　暦年較正結果

4. 骨及び果実類の分析方法

第 6 表　試料一覧

分析 No.	台帳番号	遺構	注記	種類	部位	左右
7	22	SD023A	ヶ 78	ニホンジカ	角	－
8	74	SD023A	I28（1）	ニホンジカ	橈骨	左
9	2	SD024	イ 5	ニホンジカ	上顎歯	右
10	56	SD023A	H131	ニホンジカ	下顎歯	右
11	－	SD023A	A－127	ヒョウタン類	果皮	－
12	－	SD023A	C－46	モモ	核	－

ニホンジカの角・骨・歯は表面を物理的に洗浄したあと、水酸化ナトリウムによるアルカリ処理（0.2mol/L）、中性になるまで洗浄後凍結乾燥、粉砕、塩酸による脱灰処理（1.2mol/L）、中性になるまで洗浄後凍結乾燥、加温しゼラチン化させたものを吸引濾過、これを再び凍結乾燥させコラーゲンを得る。

一方、果実類（ヒョウタン類、モモ）の果皮・核は、表面の土などの不純物をできるだけを取り除いた後、塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA：Acid Alkali Acid）。なお、濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に 1mol/L である。以降の処理は共通である。

各前処理をした試料を燃焼することにより二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）を行い、処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1mm の孔にプレスし、測定試料とする。測定はタンデム加速器をベースとした ^{14}C－AMS 専用装置（NEC 社製）を用いて、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）、^{14}C 濃度（$^{14}C/^{12}C$）を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX－Ⅱ）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA－C6 等）、バックグラウンド試料（IAEA－C1）の測定も行う。$\delta^{13}C$ は試料炭素の ^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、

誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う（Stuiver & Polach 1977）。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウエアは、OxCal4.4（Bronk,2009）、較正曲線はIntCal20（Reimer et al.,2020）である。

5. 角及び果実類の結果および考察

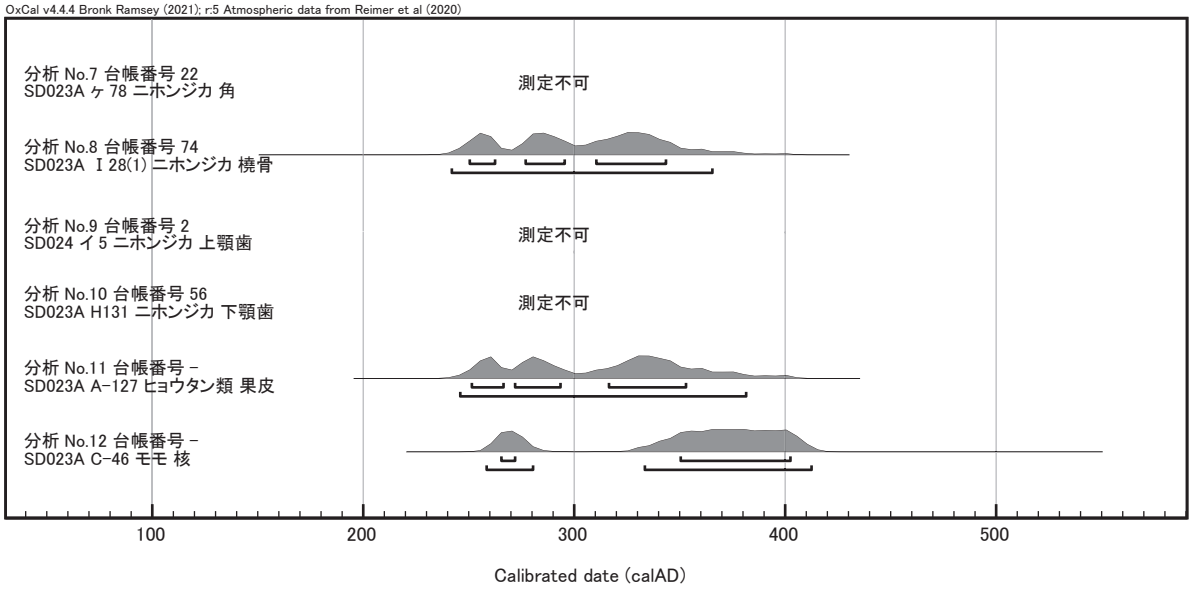
ニホンジカの角・骨・歯は、試料の状態が悪かった為、分析No.8（SD023A　I−28（1）ニホンジカ左橈骨）以外の試料は測定不可能であった。結果を第7表、第45図に示す。試料の測定年代（補正年代）は、分析No.8（SD023A I−28（1）ニホンジカ 左橈骨）が1750±20yrBP、分析No.11（SD023A A−127 ヒョウタン類 果皮）が1740±20yrBP、No.12（SD023A C−46 モモ 核）が分析1700±20yrBPである。

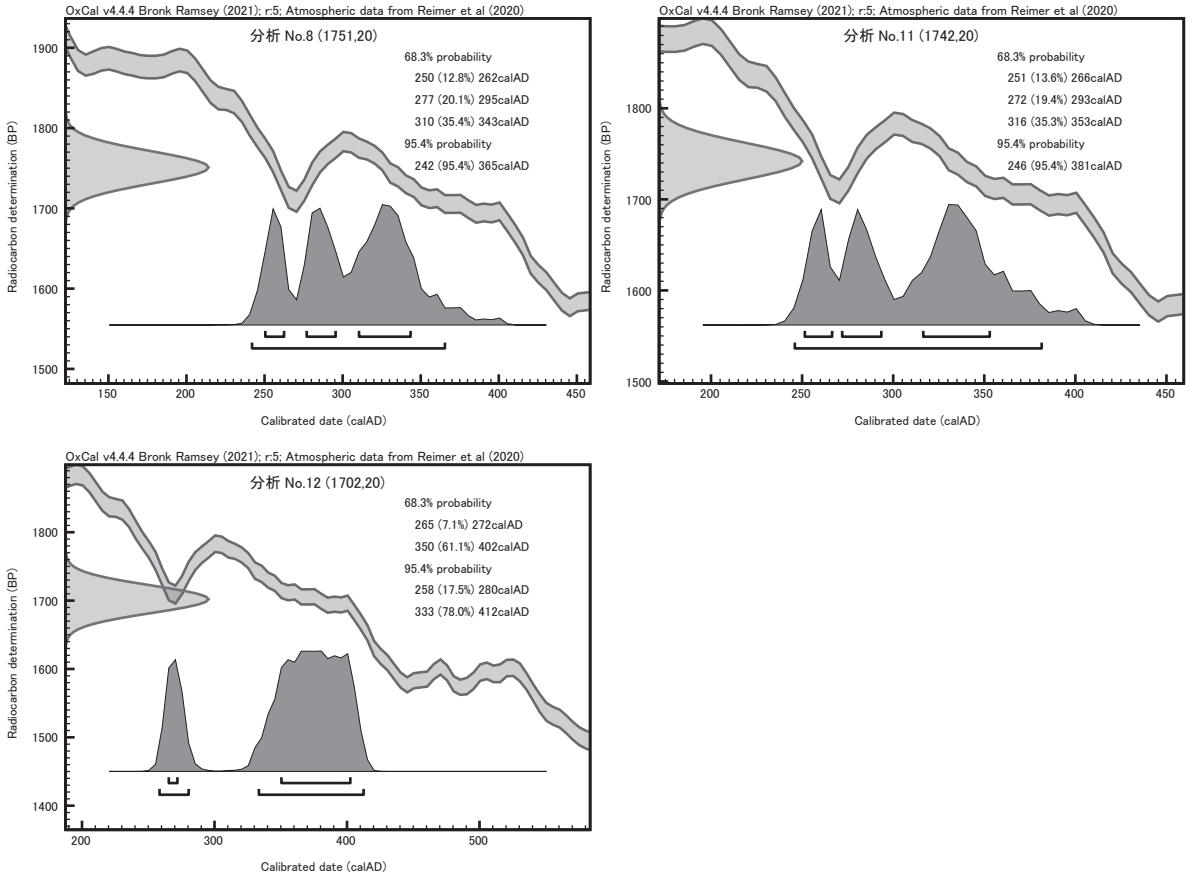
暦年較正は、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正することによって、暦年代に近づける手法である。暦年較正年代は、測定誤差を2σとして計算させた結果、分析No.8（SD023A I−28（1）ニホンジカ 左橈骨）がCalAD242 ～ 365、分析No.11（SD023A A−127　ヒョウタン類 果皮）がCalAD 246 ～ 381、分析No.12（SD023A C−46 モモ 核）がCalAD258～412である。よって本試料は概ね3世紀～5世紀前半の試料であることが窺える。

第7表　放射性炭素年代測定結果

分析No.	台帳番号	試料名	性状	方法	補正年代 BP（暦年較正用）	δ ^{13}C（‰）	暦年較正年代				Code No.	
								年代値		確率 %	pal−	PLD−
7	22	SD023A ヶ78	ニホンジカ 角	測定不可							−	−
8	74	SD023A I 28（1）	ニホンジカ 橈骨	CoEx	1750 ± 20（1751 ± 20）	−34.62 ± 0.21	σ	calAD 250 − calAD 262	1700 − 1688 calBP	12.8	15764	56005
								calAD 277 − calAD 295	1674 − 1655 calBP	20.1		
								calAD 310 − calAD 343	1640 − 1607 calBP	35.4		
							2 σ	calAD 242 − calAD 365	1709 − 1585 calBP	95.4		
9	2	SD024 イ 5	ニホンジカ 上顎歯	測定不可							−	−
10	56	SD023A H131	ニホンジカ 下顎歯	測定不可							−	−
11	−	SD023A A−127	ヒョウタン類 果皮	AAA	1740 ± 20（1742 ± 20）	−34.68 ± 0.22	σ	calAD 251 − calAD 266	1699 − 1684 calBP	13.6	15765	56006
								calAD 272 − calAD 293	1679 − 1657 calBP	19.4		
								calAD 316 − calAD 353	1634 − 1598 calBP	35.3		
							2 σ	calAD 246 − calAD 381	1705 − 1569 calBP	95.4		
12	−	SD023A C−46	モモ 核	AAA	1700 ± 20（1702 ± 20）	−26.78 ± 0.20	σ	calAD 265 − calAD 272	1685 − 1679 calBP	7.1	15766	56007
								calAD 350 − calAD 402	1600 − 1548 calBP	61.1		
							2 σ	calAD 258 − calAD 280	1692 − 1670 calBP	17.5		
								calAD 333 − calAD 412	1617 − 1538 calBP	78.0		

1）年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。
2）BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
3）付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の 68.2% が入る範囲）を年代値に換算した値。
4）AAA は、酸・アルカリ・酸処理を示す。AaA はアルカリ濃度を薄めて処理したことを示す。
5）CoEX は、骨から抽出したコラーゲンを用いて分析したことを示す。
6）暦年の計算には、Oxcal v4.4 を使用
7）暦年の計算には 1 桁目まで示した年代値を使用
8）較正データーセットは Intcal20 を使用。
9）較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。
10）統計的に真の値が入る確率は、σが 68.2%、2 σが 95.4% である


OxCal v4.4.4 Bronk Ramsey (2021); r:5 Atmospheric data from Reimer et al (2020)
分析 No.7 台帳番号 22
SD023A ヶ 78 ニホンジカ 角
測定不可
分析 No.8 台帳番号 74
SD023A Ⅰ 28(1) ニホンジカ 橈骨
分析 No.9 台帳番号 2
SD024 イ 5 ニホンジカ 上顎歯
測定不可
分析 No.10 台帳番号 56
SD023A H131 ニホンジカ 下顎歯
測定不可
分析 No.11 台帳番号 –
SD023A A–127 ヒョウタン類 果皮
分析 No.12 台帳番号 –
SD023A C–46 モモ 核
100
200
300
400
500
Calibrated date (calAD)


OxCal v4.4.4 Bronk Ramsey (2021); r:5; Atmospheric data from Reimer et al (2020)
分析 No.8 (1751,20)
68.3% probability
250 (12.8%) 262calAD
277 (20.1%) 295calAD
310 (35.4%) 343calAD
95.4% probability
242 (95.4%) 365calAD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)
OxCal v4.4.4 Bronk Ramsey (2021); r:5; Atmospheric data from Reimer et al (2020)
分析 No.11 (1742,20)
68.3% probability
251 (13.6%) 266calAD
272 (19.4%) 293calAD
316 (35.3%) 353calAD
95.4% probability
246 (95.4%) 381calAD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)
OxCal v4.4.4 Bronk Ramsey (2021); r:5; Atmospheric data from Reimer et al (2020)
分析 No.12 (1702,20)
68.3% probability
265 (7.1%) 272calAD
350 (61.1%) 402calAD
95.4% probability
258 (17.5%) 280calAD
333 (78.0%) 412calAD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)

第 45 図　暦年較正結果

引用文献
Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon,51,337−360.
Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk R. C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon J., Turney C., Wacker L., Adolphi F., Büntgen U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann−Schulz A., Friedrich R., Köhler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A. and Talamo S. ,2020, The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve（0–55 cal kBP）. Radiocarbon, 62（4）, p.725−757.
Reimer PJ., Bard E., Bayliss A., Beck JW., Blackwell PG., Bronk RC., Buck CE., Cheng H., Edwards RL., Friedrich M., Grootes PM., Guilderson TP., Haflidason H., Hajdas I., Hatté C., Heaton TJ., Hoffmann DL., Hogg AG., Hughen KA., Kaiser KF., Kromer B., Manning SW., Niu M., Reimer RW., Richards DA., Scott EM., Southon JR., Staff RA., Turney CSM., van der Plicht J., 2013, IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon, 55, 1869–1887.
Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355−363.

第２節　上総国分僧寺跡ほかの出土炭化材同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

上総国分僧寺跡（市原市惣社所在）は、奈良時代に建立された国分寺の一つで、養老川の下流右岸の台地上に立地する。付近には国分尼寺跡もあり、一帯は古代上総の政治的中心であったと考えられている。また、郡本遺跡群は養老川下流右岸の台地北西部に広がる遺跡で古代〜中世にかけての集落跡などが検出されている。今回は、上総国分僧寺跡（第17次）と、参考として郡本遺跡群郡本地区（第34次）から検出された炭化材の種類を知り、当時の用材に関する情報を得る。

1. 試料

試料は上総国分僧寺跡から出土した1点、郡本遺跡群郡本地区から出土した19点の計20点の炭化材である。試料の詳細は樹種同定結果とともに第8表に示す。

2. 分析方法

試料から木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の割断面を作成する。双眼実体顕微鏡や走査型電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。木材組織の種類や配列の特徴を、現生標本や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler他（1998）、Richter他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

3. 結果

結果を第8表、図版18 〜 20に示す。検出された種類は広葉樹8種類（ハンノキ属、アカガシ亜属、コナラ亜属クヌギ節、スダジイ、モクレン属、モチノキ属、ムクロジ、ヒサカキ）である。以下に検出された種類の木材解剖学的特徴等を述べる。

・ハンノキ属（*Alnus*）　カバノキ科

散孔材で、道管は単独または２～４個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1 ～ 20細胞高のものと集合放射組織とがある。

・コナラ属アカガシ亜属

（Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*）

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列で1 ～ 15細胞高のものと、複合放射組織とがある。

第８表　樹種同定結果

No.	遺跡名	遺構	樹種
1	上総国分僧寺跡（第 17 次）	35 トレンチ	ヒサカキ
2	郡本遺跡群郡本地区（第 34 次）	SB001A ～ C a3	アカガシ亜属
3	郡本遺跡群郡本地区（第 34 次）	SB001A ～ C d2	スダジイ
4	郡本遺跡群郡本地区（第 34 次）	SB001A ～ C d3	ムクロジ
5	郡本遺跡群郡本地区（第 34 次）	SB001A ～ C d3	モチノキ属
6	郡本遺跡群郡本地区（第 34 次）	SH003 P11	コナラ亜属クヌギ節
7	郡本遺跡群郡本地区（第 34 次）	SB001A ～ C a3	モチノキ属
8	郡本遺跡群郡本地区（第 34 次）	SB001A ～ C・E c3	不明
9	郡本遺跡群郡本地区（第 34 次）	SB001A ～ C・E c3	モチノキ属
10	郡本遺跡群郡本地区（第 34 次）	SB001D c3	コナラ亜属クヌギ節
11	郡本遺跡群郡本地区（第 34 次）	SB001A ～ C d2	ハンノキ属
12	郡本遺跡群郡本地区（第 34 次）	SB001A ～ C a2	スダジイ
13	郡本遺跡群郡本地区（第 34 次）	SI003	コナラ亜属クヌギ節
14	郡本遺跡群郡本地区（第 34 次）	SI003	ヒサカキ
15	郡本遺跡群郡本地区（第 34 次）	SI005	ハンノキ属
16	郡本遺跡群郡本地区（第 34 次）	遺構外	不明
17	郡本遺跡群郡本地区（第 34 次）	SB001A ～ C d3	ムクロジ
18	郡本遺跡群郡本地区（第 34 次）	SB001A ～ C d3	モチノキ属
19	郡本遺跡群郡本地区（第 34 次）	SB001E b3	モクレン属
20	郡本遺跡群郡本地区（第 34 次）	SB001A ～ C a3	スダジイ

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris*）　ブナ科

環孔材で、孔圏部は1 ～ 3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔、壁孔は交互状。放射組織は同性、単列、1 ～ 20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・スダジイ（*Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii*（Makino）Nakai）　ブナ科シイ属

環孔性放射孔材で、道管は接線方向に1 ～ 2個幅で放射方向に配列する。孔圏部は3 ～ 4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔、壁孔は交互状。放射組織は同性、単列、1 ～ 20細胞高。

・モクレン属（*Magnolia*）　モクレン科

散孔材で、道管は、単独および2 ～ 4個が放射方向に複合して散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性、1 ～ 3細胞幅、1 ～ 40細胞高。

・モチノキ属（*Ilex*）

散孔材で、道管は単独または2 ～ 5個が複合して散在する。道管は階段穿孔、壁孔は対列状。内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1 ～ 4細胞幅、1 ～ 40細胞高。

・ムクロジ（*Sapindus mukorossi* Gaertn.）　ムクロジ科ムクロジ属

環孔材で、道管は孔圏部が1 列、孔圏外で急激に径を減じたのち、塊状に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔、壁孔は交互状。放射組織は同性、1 ～ 3細胞幅、1 ～ 40細胞高。柔組織は帯状およびターミナル状。

・ヒサカキ（*Eurya japonica* Thunberg）　ツバキ科ヒサカキ属

散孔材で、道管は単独または2 ～ 3個が複合して散在し、道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、単列でまれに2 ～ 3列、1 ～ 40細胞高。

4. 考察

今回検出された炭化材は、分析点数に比較して種類数が多い。炭化材は、住居跡などから検出されているので、住居構築材や燃料材などが含まれていると思われる。出土木製品用材データベース（伊東・山田編,2012）を参考にすると、燃料材や建物を支える構造材以外の住居構築材は、付近の木材が使われることが多く、組成が雑多になる。今回の樹種のうち、コナラ亜属クヌギ節、スダジイ、ムクロジは、比較的重硬な材質で巨木が得られやすいため、構造材としても利用可能と思われる。また、今回検出された種類は、遺跡の立地から考えていずれも近くに自生可能な種類である。

アカガシ亜属、スダジイ、モチノキ属、ムクロジ、ヒサカキは暖地に生育、もしくは暖地に生育する種類を多く含む。房総地域でも自然度の高い森林においては、普通にみられる樹種である。特にアカガシ亜属やスダジイは、日本の常緑広葉樹林を代表する樹木で、安定した森林（極相林）を構成する樹種である。一方、ハンノキ属、コナラ亜属クヌギ節は、多湿な場所を好む種類である。これらは成長が早く萌芽による再生が容易であるため、氾濫などによる障害に強いため、河川沿いに生育することが多い。また、人里近くの林縁部に存在する明るい林地にも生育する。モクレン属も明るい林地を好む樹種であるため、これらに混じって生育していたと思われる。県内出土材を出土木製品用材データベース（伊東・山田編,2012）と比較しても、今回の種類構成は、既存の結果と矛盾しない。

引用文献

林　昭三,1991,日本産木材顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.

伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81−181.

伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所.66−176.

伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83−201.

伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30−166.

伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47−216.

伊東隆夫・山田昌久（編）,2012,木の考古学　出土木製品用材データベース.海青社,449p.

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006,針葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修）,海青社,70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（2004）IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.

島地　謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998,広葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）,海青社,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（1989）IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

第９表　土器・土製品観察表

挿図番号	図版番号	遺物番号	トレンチ番号	遺構番号	注記	種別	器種	特徴		全体遺存量	焼成	器面色調	寸法（cm）				胎土	産地時期	備考	重量（g）
								外面	内面				口径	器高	底径	最大径				
6	13	1	2	2トレンチ	セ 608 2 トレ 1	土師器	小型椀	口縁から体部ロクロナデ。	口縁から体部ロクロナデ。	1/8	普通	5YR6/8 橙色	7.7?	（3.1）	－	8.0?	普通。白色粒・黒色粒含む。	11C?		（9.0）
8	12	1	3・4・35	SI002	セ 608 3 トレ 9	土師器	鉢	口縁から底部ヘラミガキ。赤彩。	口縁から底部ヘラミガキ。口縁部赤彩。	1/2以上	普通	外面：2.5YR3/6 暗赤褐色 内面：7.5YR4/4 褐色	17.7	6.0	3.6	17.8	普通。白色粒・黒色粒・透明粒含む。	草刈２～３式		（245.0）
8	13	2	3・4・35	SI002	セ 608 3 トレ 8・9	土師器	甕	胴部ヘラナデ。	胴部ヘラナデ。	1/10以下	普通	10YR4/3 にぶい黄褐色	－	（5.9）	6.2?	（22.8?）	普通。白色粒・黒色粒・シャモット含む。	中台式		（114.5）
8	13	3	3・4・35	SI002	セ 608 3 トレ 8・9	土師器	甕	口縁部ナデ。胴部細いハケメ後、粗いハケメで調整。	口縁部ナデ、ハケメ。胴部ヘラナデ後、粗いハケメ。	1/10以下	普通	10YR5/6 黄褐色	13.8?	（8.7）	－	（16.0?）	普通。白色粒・黒色粒・透明粒・シャモット含む。	中台式２式		（94.5）
8	12	4	3・4・35	SI002	セ 608 3 トレ 8・9	土師器	高杯	口縁から体部ナデ、粗いミガキ、赤彩。脚部ナデ、赤彩。	口縁から底部ナデ、赤彩、わずかにハケメ残る。脚部ナデ、ハケメ。	1/5	普通	外面：2.5YR4/4 にぶい赤褐色 内面：5YR4/6 赤褐色	15.9	－	11.8	16.1	普通。白色粒・黒色粒・透明粒含む。	草刈３式		（326.0）
8	12	1	3・4・35	SI016	セ 608 4 トレ 2	土師器	椀	口縁から体部ロクロナデ。体部下端手持ちヘラケズリ。底部回転糸切り離し後、外周手持ちヘラケズリ。	口縁から底部ロクロナデ。	ほぼ完形	普通	外面：10YR5/4 にぶい黄褐色 内面：7.5YR5/6 明褐色	14.8	5.5	6.0	14.9	普通。白色粒・骨針含む。	9C 末～10C 初		229.5
8	13	2	3・4・35	SI016	セ 608 35 トレ 12	土師器	高杯	杯部ヘラミガキ。赤彩。	杯部ハケメ後ヘラミガキ。赤彩。	小片	普通	5YR5/6 明赤褐色	16.3?	（4.4）	－	16.9?	普通。白色粒・黒色粒含む。	草刈式		（52.5）
8	12	3	3・4・35	SI016	セ 608 35 トレ 12	土師器	高杯	杯部縦方向のハケメ。脚部縦方向のヘラミガキ、３か所に円形透かし孔。赤彩。	杯部横方向のハケメ。赤彩。脚部ナデ。	小片	普通	外面：2.5YR4/4 にぶい赤褐色 内面：5YR4/4 にぶい赤褐色	－	（3.6）	－	（6.2?）	普通。白色粒・透明粒含む。	草刈式		（50.3）
8	12	4	3・4・35	SI016	セ 608 35 トレ 14	土師器	台付甕	胴部ヘラナデ。脚部ヘラナデ。	胴部ハケメ。脚部ナデ後、ハケメ。	小片	普通	10YR4/3 にぶい黄褐色	－	（5.6）	－	（7.3?）	普通。白色粒・黒色粒含む。	中台～草刈式		（85.6）
8	13	5	3・4・35	SI016	セ 608 35 トレ 5	須恵器	甕	胴部平行叩き。	胴部ヘラナデ。	小片	良好	10Y4/1 灰色	－	（5.8）	－	－	密。骨針多量・白色粒・灰色チャート含む。	南比企産		（107.8）
8	12・17	1	3・4・35	SD001（35トレンチ）	セ 608 35 トレ 7・14	土師器	杯	口縁部ロクロナデ。体部手持ちヘラケズリ。底部一方向の手持ちヘラケズリ。「×」状の焼成前線刻。	口縁から底部ロクロナデ。	1/2	普通	7.5YR5/6 明褐色	13.6?	4.7	9.0?	13.8?	普通。白色粒・骨針・透明粒含む。	8C 末		（107.3）
8	13	2	3・4・35	SD001（35トレンチ）	セ 608 35 トレ 8	須恵器	蓋	天井部から口縁ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。	口縁から天井部ロクロナデ。	1/10	良好	N5/ 灰色	18.0?	（2.2）	－	18.4?	密。白色礫・透明礫・白雲母多量含む。	新治産		（25.0）
8	13	1	3・4・35	3トレンチ	セ 608 3 トレ 8	土師器	椀	高台部ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。	底部ミガキ、黒色処理。	1/10	普通	外面：10YR6/6 明黄褐色 内面：10YR1.7/1 黒色	－	（2.1）	7.4?	（7.6?）	普通。白色粒・黒色粒・透明粒含む。	9C 後～10C 前		（21.0）
8	12	2	3・4・35	3トレンチ	セ 608 3 トレ 3	土師器	高杯	脚部縦方向のヘラミガキ。３か所に円形透かし孔。赤彩。	杯部赤彩。脚部ナデ。	1/5	普通	外面：2.5YR4/6 赤褐色 内面：10YR6/6 明黄褐色	－	（5.3）	9.6	（10.0?）	普通。白色粒・黒色粒・透明粒含む。	中台～草刈式		（93.5）
8	13	3	3・4・35	3トレンチ	セ 608 3 トレ 1	土師器	甕	胴部平行叩き。胴部下端指ナデ。底部輪台技法。	胴部から底部ヘラナデ。	1/10	普通	外面：7.5YR5/4 にぶい褐色 内面：10YR4/1 褐灰色	－	（4.3）	5.6	（16.8?）	普通。白色粒・透明粒含む。	中台式併行。畿内系。	敲き甕	（120.5）
8	13	4	3・4・35	3トレンチ	セ 608 3 トレ 4	原始灰釉陶器	瓶壺類	頸部ロクロナデ。	頸部ロクロナデ。	1/10以下	良好	外面：5Y2/1 黒色 内面：2.5Y4/2 暗灰黄色	－	（5.7）	－	（10.6?）	硬密。白色粒含む。	9C 初		（75.5）
8	13	5	3・4・35	3トレンチ	セ 608 3 トレ 5	原始灰釉陶器	瓶壺類	胴部ロクロナデ。自然釉。粘土紐明瞭。	胴部ロクロナデ。自然釉。	1/10以下	良好	外面：2.5Y3/1 黒褐色 内面：2.5Y5/2 暗灰黄色	－	（4.1）	17.0?	（21.0?）	硬密。白色粒・微黒色粒含む。	9C 初		（93.5）
9	13	1	3・4・35	35トレンチ	セ 608 35 トレ 11	土師器	装飾器台	杯部ハケメ後ヘラミガキ。赤彩。	杯部ハケメ後ヘラミガキ。赤彩。	小片	普通	7.5YR5/6 明褐色	－	（2.9）	－	（10.8?）	普通。白色粒・黒色粒含む。	北陸系。中台式併行。		（20.0）
9	13	2	3・4・35	35トレンチ	セ 608 35 トレ 11	須恵器	杯・朱墨パレット	体部ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。	体部から底部ロクロナデ。朱墨付着。	小片	良好	10YR7/1 灰白色	－	（1.4）	9.0?	（11.6?）	密。白色粒含む。	永田・不入窯		（12.9）
9	13	3	3・4・35	35トレンチ	セ 608 35 トレ 11	中世陶器常滑	片口鉢Ⅱ類	胴部ヘラケズリ。	胴部使用による研磨痕。	1/10	良好	10YR5/3 にぶい黄褐色	－	（4.4）	14.6?	（19.6?）	密。白色粒・黒色粒含む。	常滑３期		（139.5）
9	13・17	4	3・4・35	35トレンチ	セ 608 35 トレ 11	土師器	杯	体部ロクロナデ。「□」墨書。	体部ロクロナデ。	小片	普通	10YR6/4 にぶい黄橙色	－	（1.5）	－	－	普通。白色粒含む。		「□」墨書	（3.0）

挿図番号	図版番号	遺物番号	トレンチ番号	遺構番号	注記	種別	器種	特徴		全体遺存量	焼成	器面色調	寸法（cm）				胎土	産地時期	備考	重量（g）
								外面	内面				口径	器高	底径	最大径				
9	13	5	3・4・35	35 トレンチ	セ 608 35 トレ 11	須恵器	甕・転用砥石	胴部平行叩き、砥石転用による研磨痕。	胴部砥石転用による研磨痕。	小片	良好	10YR5/1 褐灰色	長さ（6.9）	幅（5.9）	厚さ（1.1）	–	密。白色粒含む。	東海系		（74.5）
10	12・13	1	6	SK001	セ 608 6 トレ 7	土師器	杯	口縁から体部ロクロナデ。底部静止糸切り離し。底部円形の焼成前穿孔。	口縁から底部ロクロナデ。穿孔から口縁に向かって、油染みが放射状に 5 本延びる。灯明皿か。	完形	普通	10YR7/6 明黄褐色	10.3	3.1	5.5	10.6	普通。白色粒・黒色粒・透明粒・骨針含む。	10C 後		81.4
11	12	1	10	10 トレンチ	セ 608 10 トレ 1	土師器	高杯	脚部ヘラミガキ、赤彩。	杯部ヘラミガキ、赤彩。脚部ナデ。	1/3	普通	2.5YR3/6 暗赤褐色	–	（6.3）	–	（5.0?）	普通。白色粒・透明粒・骨針含む。	草刈 3 式		（122.1）
11	13	1	11	11 トレンチ	セ 608 11 トレ 1	土師器	装飾器台	器台部ヘラミガキ、赤彩。	器台部ヘラミガキ、赤彩。	小片	普通	7.5YR5/4 にぶい褐色	–	（1.5）	–	（12.0?）	普通。白色粒・黒色粒・透明粒含む。	中台式		（20.0）
12	13	1	16	SI010	セ 608 16 トレ 9	土師器	台付甕	胴部ヘラナデ。脚部ヘラナデ。	胴部ヘラナデ、ヘラミガキ。	小片	普通	7.5YR6/8 橙色	–	（5.0）	–	（14.0?）	普通。白色粒・黒色粒・透明粒含む。	中台式		（213.5）
12	13	2	16	SI010	セ 608 16 トレ 5・7・8	土師器	広口壺	口縁部ナデ。頸部ヘラミガキ。胴部粗いヘラミガキ。赤彩。	口縁部ナデ。頸部ヘラミガキ。胴部ナデ。	小片	普通	外面：5YR5/6 明赤褐色 内面：10YR6/4 にぶい黄橙色	11.4?	（7.4）	–	（15.8?）	普通。白色粒・黒色粒・透明粒含む。	中台式		（78.3）
13	14	1	21	21 トレンチ	セ 608 21 トレ 1	須恵器	杯	口縁から体部ロクロナデ。	口縁から体部ロクロナデ。	1/10	良好	10YR5/8 黄褐色	10.4?	（3.9）	–	10.6?	密。白色粒・黒色粒含む。	永田・不入窯		（12.0）
13	14	2	21	21 トレンチ	セ 608 21 トレ 1	中世陶器常滑	片口鉢Ⅰ類	口縁から体部ロクロナデ。	口縁から体部ロクロナデ。使用による摩滅。	小片	良好	5YR4/3 にぶい赤褐色	–	（7.8）	–	–	普通。白色粒・黒色粒・灰色粒含む。	常滑 5 ～ 6a 期		（86.1）
16	12・17	1	33	33 トレンチ	セ 608 33 トレ 1	土師器	椀	体部下端回転ヘラケズリ。底部「内」墨書。	体部から底部ロクロナデ。放射状の油煙。	1/5	普通	5YR6/6 橙色	–	（2.0）	7.6	（10.0?）	普通。白色粒・黒色粒・透明粒含む。	9C	「内」墨書	（54.4）
16	14	2	33	33 トレンチ	セ 608 33 トレ 1	土師器	杯	口縁から体部ロクロナデ。	口縁から体部ロクロナデ。	小片	普通	2.5Y4/1 黄灰色	12.0?	（3.3）	–	12.3?	普通。白色粒・黄灰色粒・透明粒含む。	10C?		（8.1）
16	12	1	36	SD001（36 トレンチ）	セ 608 36 トレ 3	土師器	器台	脚部ヘラミガキ。3 か所に円形透かし孔。赤彩。	脚部ナデ。	1/10	普通	外面：5YR5/6 明赤褐色 内面：7.5YR5/8 明褐色	–	（5.5）	–	（6.9?）	普通。白色礫・黒色粒・透明粒含む。	草刈 1 ～ 2 式		（101.6）
16	12	1	36	SK005	セ 608 36 トレ 2	土師器	小皿	口縁から体部ロクロナデ。底部右回転の回転糸切り離し。	口縁から底部ロクロナデ。	1/2 以上	普通	7.5YR6/8 橙色	9.2	2.2	4.0	9.4	普通。白色礫・黒色粒・透明粒含む。	11C 後		（55.7）
22	14	1	拡張区	SB001B	セ 608 カク張区 1 －40	土師器	杯	口縁から体部ロクロナデ。体部下端回転ヘラケズリ。	口縁から体部ロクロナデ。	小片	普通	10YR6/4 にぶい黄橙色	13.2?	（4.1）	–	13.4?	普通。白色礫・黒色粒・チャート含む。	9C 前		（17.0）
26	14	1	拡張区	SB003A	セ 608 カク張区 1 －5	土師器	杯	口縁から体部ロクロナデ。体部下端回転ヘラケズリ。	口縁から体部ロクロナデ。	小片	普通	10YR6/6 明黄褐色	15.0?	（3.7）	–	15.2?	普通。白色礫・黒色粒含む。	9C 前		（11.5）
26	14	2	拡張区	SB003A	セ 608 28 トレ 3	土師器	高杯	口縁部ナデ。体部縦方向のヘラミガキ。赤彩。	口縁部ナデ。体部縦方向のヘラミガキ。赤彩。	小片	普通	5YR4/8 赤褐色	25.0?	（3.0）	–	25.2?	普通。白色粒・黒色粒・透明粒含む。	中台～草刈式		（16.5）
26	14・17	3	拡張区	SB003A	セ 608 カク張区 1 －4	土師器	杯	底部ヘラケズリ。	底部ナデ。「□」墨書。	小片	普通	7.5YR6/6 橙色	–	（0.5）	（1.3）	（1.4）	普通。白色粒・黒色粒含む。		「□」墨書	（1.0）
29	14・17	1	拡張区	SB004	セ 608 カク張区 1 －35	土師器	杯	口縁から体部ロクロナデ。体部「□」墨書。	口縁から体部ロクロナデ。	小片	普通	7.5YR6/6 橙色	–	（1.5）	–	–	普通。白色粒・黒色粒含む。		「□」墨書	（1.0）
30	14	1	拡張区	拡張区	セ 608 23 トレ 1	土師器	杯	口縁から体部ロクロナデ。	口縁から体部ロクロナデ。	小片	普通	7.5YR6/6 橙色	14.0?	（2.3）	–	14.2?	普通。白色粒含む。			（6.0）
30	12	2	拡張区	拡張区	セ 608 22 トレ 2	土師器	小皿	口縁から体部ロクロナデ。底部右回転の回転糸切り離し。	口縁から底部ロクロナデ。	1/3 欠損	普通	7.5YR7/6 橙色	9.0?	（2.0）	（4.5）	9.1?	普通。白色粒・黒色粒・透明粒含む。	11C 前		（37.5）
30	14	3	拡張区	拡張区	セ 608 24 トレ 1	土師器	高杯	脚部ヘラミガキ。	脚部ハケメ後ナデ。	小片	普通	10YR5/4 にぶい黄褐色	–	（1.5）	20.6?	（20.6?）	普通。白色粒・透明粒含む。	草刈式		（22.0）
30	14	4	拡張区	拡張区	セ 608 28 トレ 1	土師器	甕	口縁部ナデ、頸部ハケメ。	口縁から頸部ヘラミガキ。	小片	普通	7.5YR6/8 橙色	15.4?	（3.6）	–	（15.6?）	普通。白色粒・黒色粒・透明粒含む。	中台式		（22.5）
30	14	5	拡張区	拡張区	セ 608 38 トレ 1	土師器	甕	胴部平行叩き。	胴部ナデ。	小片	普通	5YR4/6 赤褐色	–	（2.6）	–	–	普通。白色礫・黒色粒・透明粒含む。	中台式併行。畿内系。	畝き甕	（9.5）
30	14	1	遺構外	遺構外	セ 608 ゼン体 1	土師器	杯	体部ロクロナデ。体部下端回転ヘラケズリ。	体部ロクロナデ。	小片	普通	10YR4/4 褐色	–	（1.8）	6.4?	（10.4?）	普通。白色礫・黒色粒含む。	9C		（12.0）

第 10 表　軒丸瓦観察表

挿図番号	図版番号	遺物番号	トレンチ番号	遺構番号	注記	残存部位 a	b	f	g	型式	文様	段階	土分類	瓦当部 瓦笵の向き	ロクロ目	笵傷	A比（圏線）	B比（蓮子）	A比（凹線）	取付部形状	丸瓦斜めカット	瓦当裏ケズリ	瓦当裏ケズリ	充填部調整	瓦当部周縁ケズリ	裏面の特徴	丸瓦部 側面の特徴	形態	布目 縄糸	布目 経糸	色調	胎土	焼成	備考	寸法（cm） 全長	狭端幅	中央厚	端部厚	瓦当径	瓦当厚	面土厚	笵アタリ幅	枷型幅	内区（cm） 中房径	弁区径	弁幅	外区（cm） 内縁 幅	外縁 幅	外縁 高	重量（g）
8	14	6	3・4・35	3トレンチ	セ 608 3トレ−2				○	I	蓮華文	3	C1	正	無	E	−	0.625	−	丸	−	外周	粗雑	指ナデ	縦	中央指ナデ、外周ヘラケズリ。	不明	不明	−	−	10YR5/4 にぶい黄褐色	密。白色砂粒、黒色粒含む。	普通		（6.1）	−	−	−	（11.1）	4.3	1.8	1.1	3.4	5.7	−	1.0	（9.2）	1.5	0.5	（900.0）

第 11 表　軒平瓦観察表　※縄叩き目は 5 × 5cm あたり、布目は 2 × 2cm あたりの数値。　※赤色顔料付着範囲及び釘穴位置は、瓦当面からの距離を示す。

挿図番号	図版番号	遺物番号	トレンチ番号	遺構番号	注記	残存部位 a	b	c	d	e	型式	文様	段階	土分類	顎部 分類	顎面角（度）	顎面幅（cm）	瓦当部（cm） 内区 幅	内区 厚	外区 上幅	外区 下幅	脇区 左幅	脇区 右幅	平瓦部 布目 経糸	布目 緯糸	凹面の特徴	ケズリ長（cm）	縄叩き目 条	縄叩き目 節	縄叩き目 撚	彫刻叩き板 分類	凸面の特徴	ケズリ長（cm）	側面 分類	狭端面 分類	色調	胎土	焼成	備考	寸法（cm） 全長	狭端幅	上弦幅	下弦幅	孤深	瓦当厚	布幅	赤色顔料付着範囲（cm） 始点	赤色顔料付着範囲（cm） 終点	釘穴穿孔位置（cm）	重量（g）
8	14	7	3・4・35	3トレンチ	セ 608 3トレ 8					○	−	−	−	A	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	瓦当側横方向のヘラケズリ。布目痕。	（3.8）	−	−	−	−	顎部ヘラケズリ。白色顔料付着。	（3.2）	B	−	5Y4/1 灰色	密。砂質強く白色粒多く含む。表面、内部ともに還元する。	非常に良好		（6.5）	−	−	−	−	−	（4.4）	−	−	−	（286.0）
21	15	1	拡張区	SB001A	セ 608 13トレ SB001P2 2			○			I	均整唐草文	1b	C2	b1	56	1.5	（24.1）	2.5	0.9	1.0	1.0	−	11	10	瓦当側横方向のヘラケズリ。布目痕。糸切り痕。	4.5	12	8	L	−	顎部ヘラケズリ。縄叩き。白色顔料付着。	15.0	B	−	10YR4/2 灰黄褐色	密。砂質強く白色粒多く含む。	良好		（30.7）	−	（18.5）	（21.0）	4.2	5.4	23.5	−	−	−	（4,600.0）

第 12 表　丸瓦観察表　※縄叩き目は 5 × 5cm あたり、布目は 2 × 2cm あたりの数値。

挿図番号	図版番号	遺物番号	トレンチ番号	遺構番号	注記	形態	残存部位 a	b	c	d	e	土分類	布目 経糸	布目 緯糸	凹面の特徴	縄叩き目 条	縄叩き目 節	縄叩き目 撚	彫刻叩き板 分類	凸面の特徴	側面 分類	広端面 分類	狭端面 分類	側・端面の特徴	色調	胎土	焼成	備考	寸法（cm） 狭端幅	広端幅	全長	中央厚	側端部厚	布長	布幅	重量（g）
8	14	8	3・4・35	3トレンチ	セ 608 3トレ 1	不明					○	C1	−	−	布目痕。糸が引っ張られ、布の傷み激しい。	8	10	L	−	縄叩き。	−	−	−	破損により不明。	7.5YR6/6 橙色	密。白色粒含む。	良好		−	−	（10.2）	2.1	−	（8.4）	（3.8）	（176.5）
13	15	3	21	21トレンチ	セ 608 21トレ 14	不明					○	A	−	−	布目痕。糸が引っ張られ、布の傷み激しい。糸切り痕。	−	−	−	−	横方向のロクロナデ。	B	−	−	左側面ヘラケズリ。	2.5Y4/1 黄灰色	密。白色粒・黒色粒含む。	良好		−	−	（8.5）	−	2.2	（7.0）	（7.9）	（198.0）
30	16	2	遺構外	遺構外	セ 608 ゼン体 1	不明				○		F	12	13	布目痕。糸切り痕。	−	−	L	−	縄叩き後、横方向のナデ。	B	B	−	左側面凹面側に分割截面、ヘラケズリ。凸面側に破断面。広端面繊維状圧痕、凹面側幅 2.2cm 程のケズリ調整。	5YR5/8 明赤褐色	密。白色粒・黒色粒含む。	良好		−	（8.1）	（18.2）	−	2.7	（16.4）	（9.2）	（885.0）

第 13 表　平瓦観察表　※縄叩き目は 5 × 5cm あたり、布目は 2 × 2cm あたりの数値。

挿図番号	図版番号	遺物番号	トレンチ番号	遺構番号	注記	残存部位 a	b	c	d	e	土分類	布目 経糸	布目 緯糸	凹面の特徴	縄叩き目 条	縄叩き目 節	縄叩き目 撚	彫刻叩き板 分類	凸面の特徴	側面 分類	広端面 分類	狭端面 分類	側・端面の特徴	色調	胎土	焼成	備考	寸法（cm） 狭端幅	広端幅	全長	中央厚	側端部厚	布長	布幅	重量（g）
8	14	6	3・4・35	SI016	セ 608 35トレ 6		○				C1	12	10	布目痕。糸切り痕。左側面側布端痕。	−	−	L	−	縄叩き。布目痕。	D	−	B	左側面ヘラケズリ、凹凸面幅 0.5cm 程のケズリ調整。狭端面ヘラケズリ、凹面側幅 0.5cm ケズリ調整。	2.5Y5/3 黄褐色	密。白色砂粒・黒色粒・透明粒含む。	良好		（4.6）	−	（10.6）	−	1.8	（10.2）	（5.3）	（170.1）
8	14	9	3・4・35	3トレンチ	セ 608 3トレ 8					○	C1	−	−	布目痕。	−	−	−	11	格子叩き。	−	−	−	破損により不明。	2.5Y3/1 黒褐色	密。白色砂粒・黒色粒・橙色粒含む。やや砂質。	良好		−	−	（5.8）	1.8	−	（4.5）	（2.0）	（41.0）
9	14	6	3・4・35	35トレンチ	セ 608 35トレ 11		○				C1	−	−	布目痕。左側面側布端痕。	−	−	L	−	縄叩き。布目痕。	C	−	−	左側面ヘラケズリ、凸面側幅 0.5cm のケズリ調整。	7.5YR5/6 明褐色	密。白色砂粒・黒色粒・透明粒・骨針含む。	良好		（4.4）	−	（9.9）	−	2.0	（8.1）	（6.8）	（296.0）
9	14	7	3・4・35	35トレンチ	セ 608 35トレ 11	○					F	8	11	布目痕。糸切り痕。指頭痕。	−	−	L	−	縄叩き。糸切り痕。指頭痕。	C	−	A	右側面ヘラケズリ、凸面側幅 0.5cm のケズリ調整。狭端面ヘラケズリ。	7.5YR4/6 褐色	密。白色砂粒・黒色粒・含む。	良好		（8.7）	−	（11.2）	−	2.1	（10.6）	（6.8）	（333.0）
9	14	8	3・4・35	35トレンチ	セ 608 35トレ 11					○	C1	−	−	布目痕。糸切り痕。	−	−	−	43	格子叩き。	B	−	−	左側面ヘラケズリ、凹面側幅 0.5cm のケズリ調整。	5YR4/6 赤褐色	密。白色砂粒・黒色粒・透明粒・骨針含む。	良好		−	−	（10.8）	−	2.1	（7.5）	（7.3）	（222.5）

挿図番号	図版番号	遺物番号	トレンチ番号	遺構番号	注記	残存部位						土分類	布目		凹面の特徴	縄叩き目			彫刻叩き板	凸面の特徴	側面	広端面	狭端面	側・端面の特徴	色調	胎土	焼成	備考	寸法（cm）							重量（g）
						a	b	c	d	e			経糸	緯糸		条	節	撚	分類		分類	分類	分類						狭端幅	広端幅	全長	中央厚	側端部厚	布長	布幅	
10	15	1	7	7トレンチ	セ 608 7トレ 1					○	C1	–	–	布目痕。摩滅により不明瞭。	–	–	–	28	正格子叩き。	B	–	–	左側面ヘラケズリ、凹面側幅 0.5cm のヘラケズリ調整。	10YR6/6 明黄褐色	密。白色砂粒・黒色粒・橙色粒含む。やや砂質。	良好		–	–	（7.2）	–	1.8	–	–	（71.1）
11	15	1	11	SK004	セ 608 11トレ 14・15・17					○	B	17	17	布目痕。糸切り痕。模骨状の成形台圧痕。	15	–	L	–	縄叩き。布目痕。指頭痕。	–	B	–	広端面ヘラケズリ、凹面側幅 0.5cm 程のケズリ調整。	5Y2/1 黒色	密。白色砂粒・黒色粒・橙色粒含む。ザラザラした砂質。	良好		–	（6.3）	（22.9）	2.5	–	（22.5）	（10.2）	（969.0）
13	15	4	21	21トレンチ	セ 608 21トレ 1					○	E	11	14	布目痕。	–	–	–	17	斜格子叩き。	–	–	–	破損により不明。	10YR4/4 褐色	密。白色砂粒・黒色粒・橙色粒含む。	良好		–	–	（7.6）	3.0	–	（6.6）	（5.0）	（216.0）
15	15	1	30	30トレンチ	セ 608 30トレ 1					○	C3	–	–	布目痕。糸切り痕。	–	–	–	28	正格子叩き。	D	–	–	右側面ヘラケズリ、凹凸面側幅 0.5cm 程のケズリ調整。	2.5Y3/1 黒褐色	密。白色砂粒・黒色粒・透明粒含む。	良好		–	–	（7.4）	–	2.2	（6.5）	（5.8）	（108.6）
26	15	4	拡張区	SB003A	セ 608　23 トレ 5・6	○					F	14	13	布目痕。右側面側布端痕。	–	–	L	–	縄叩き。	A	–	A	右側面、狭端面ヘラケズリ。	7.5YR5/8 明褐色	密。白色砂粒・黒色粒・橙色粒含む。	良好		（9.8）	–	（14.5）	–	1.8	（14.2）	（9.2）	（400.0）
28	16	1	拡張区	SB003B	セ 608 38トレ 2					○	C1	–	–	布目痕。糸切り痕。	12	12	L	–	縄叩き。	A	–	–	右側面の凸面側にバリ状の成形台圧痕。	10YR4/2 灰黄褐色	密。白色砂粒・黒色粒・透明粒含む。	良好		–	–	（17.3）	–	2.3	（15.8）	（6.2）	（436.5）
28	16	2	拡張区	SB003B	セ 608 28トレ 6					○	C1	13	12	布目痕。糸切り痕。	–	–	L	–	縄叩き。布目痕。	–	–	A	狭端面焼けひずみ。	2.5Y4/1 黄灰色	密。白色砂粒・黒色粒・透明粒含む。	良好		（6.7）	–	（14.9）	3.2	–	（12.2）	（11.0）	（550.0）
29	16	2	拡張区	SB004	セ 608 19トレ 4					○	A	–	–	布目痕。模骨痕。	–	–	–	–	ナデ。	D	–	–	両側面ヘラケズリ調整。断面剣先状。	2.5Y5/1 黄灰色	密。白色砂粒・黒色粒・透明粒含む。	良好	桶巻づくり。大椎第 1 遺跡系。	–	–	（2.2）	–	1.7	（2.1）	（2.8）	（22.5）
29	16	3	拡張区	SB004	セ 608 19トレ 3					○	C1	–	–	布目痕。糸切り痕。模骨状の成形台圧痕。布目潰れる。	–	–	L	–	縄叩き。	–	–	–	破損により不明。	2.5Y3/1 黒褐色	密。白色砂粒・黒色粒・橙色粒含む。	良好		–	–	（8.3）	2.2	–	（7.8）	（5.1）	（174.0）
30	16	6	拡張区	拡張区	セ 608 38トレ 1					○	C1	14	11	布目痕。糸切り痕。	–	–	–	12	矢羽状叩き。	B	–	–	左側面の凸面側成形台圧痕。凹面側幅 0.5cm のケズリ調整。	2.5Y5/2 暗灰黄色	密。白色砂粒・黒色粒・透明粒・骨針含む。	良好		–	–	（8.8）	–	2.2	（8.3）	（6.9）	（164.5）
30	16	7	拡張区	拡張区	セ 608 38トレ 1					○	C1	12	11	布目痕。糸切り痕。広端面側かがり縫いによる布端痕。成形台圧痕。	8	10	L	–	縄叩き。	–	A	–	左側面ヘラケズリ。広端面ヘラケズリ。	7.5YR6/6 橙色	密。白色砂粒・黒色粒・透明粒・橙色粒含む。	良好		–	（10.1）	（16.9）	–	2.3	（11.7）	（11.5）	（743.0）

第 14 表　塼観察表

挿図番号	図版番号	遺物番号	トレンチ番号	遺構番号	注記	残存部位					形態	布目		特徴			土分類	色調	胎土	焼成	備考	寸法（cm）			重量（g）
						a	b	c	d	e		経糸	緯糸	表面	裏面	側面						縦	横	厚	
11	15	2	11	SK004	セ 608 11トレ 13				○		レンガ状	–	–	ヘラケズリ。	ヘラケズリ。	ヘラケズリ。	A	10YR6/3 にぶい黄橙色	やや粗雑。白色砂粒・黒色粒・透明粒含む。	良好		（13.5）	（11.7）	7.6	（1531.0）
30	16	8	拡張区	拡張区	セ 608 カク張区 1－2					○	レンガ状	–	–	ヘラケズリ。	破損。	破損。	C1	10YR5/4 にぶい黄褐色	やや粗雑。白色砂粒・黒色粒・透明粒含む。	普通		（11.7）	（10.4）	（5.4）	（825.0）

第 15 表　石製品観察表

挿図番号	図版番号	遺物番号	トレンチ番号	遺構番号	注記	種別	器種	特徴		全体遺存量	色調	寸法（cm）			備考	重量（g）
								表面	裏面			長さ	幅	厚さ		
16	16	2	36	SD001（36トレンチ）	セ 608 36 トレ 4	石製品	砥石	研磨痕。	研磨痕。	小片	5Y4/1 灰色	（4.2）	2.0	1.4	流紋岩	（21.5）
30	16	3	遺構外	遺構外	セ 608 ゼン体 1	石製品	剥片	打瘤。リング。フィッシャー。	打瘤。リング。フィッシャー。	小片	2.5Y3/1 黒褐色	（1.9）	（1.8）	0.7	黒曜石	（1.4）

第 16 表　鉄製品観察表

挿図番号	図版番号	遺物番号	トレンチ番号	遺構番号	注記	種別	特徴		全体遺存量	寸法（cm）			備考	重量（g）
							表面	裏面		長さ	幅	厚さ		
8	16	10	3・4・35	3トレンチ	セ 608 3 トレ 6	鉄鏃	角関。	サビぶくれ。	1/10	（3.7）	0.8	0.4		（3.6）
8	16	11	3・4・35	3トレンチ	セ 608 3 トレ 8	鉄釘	サビぶくれ。	土師器甕に癒着する。	1/2	（2.1）	1.5	0.6		（7.5）
10	16	2	6	SK001	セ 608 6 トレ 2	刀子	サビぶくれ。	サビぶくれ。	1/10	（3.6）	0.9	0.2		（5.2）
10	16	2	7	7トレンチ	セ 608 7 トレ 1	鉄釘	サビぶくれ。	ほぼ全面サビぶくれに覆われる。	1/10	（1.6）	（0.4）	（0.4）		（1.5）
13	17	5	21	21トレンチ	セ 608 21 トレ 1	鉄滓	層状に割れる。磁着しない。	層状に割れる。磁着しない。	完形	7.3	6.8	5.0		315.5
13	17	6	21	21トレンチ	セ 608 21 トレ 16	馬具遊環？	一本の円柱状鉄棒を環状に曲げ成形。	サビぶくれ。	完形	3.6	3.6	0.8		17.5
16	17	1	36	SI018	セ 608 36 トレ 5	鉄滓	多孔質。	多孔質。	完形	5.0	4.1	2.9		72.1
29	17	4	拡張区	SB004	セ 608 19 トレ 5	鉄滓	わずかに発泡する。	流動状。	1/10	（3.1）	（4.1）	（2.4）		（44.1）
30	17	9	拡張区	拡張区	セ 608 14 トレ 1	鉄釘	サビ進行による破損。	サビぶくれ。	1/10	（4.5）	（0.5）	（0.4）		（4.6）
30	17	10	拡張区	拡張区	セ 608 9 トレ 1	不明鉄製品	平坦。	平坦。	ほぼ完形	2.3	1.7	0.5		3.9

第17表　掲載外遺物集計表

種別	器種	型式・産地	点数	重量（g）	備考
			総数	総量	
SI002					
ロクロ土師器	杯		3	9.2	
土師器	甕	中台式	5	98.1	
土師器	甕	中台～草刈式	69	876.8	
土師器	小型壺	中台～草刈式	1	31.3	
土師器	壺	中台～草刈式	1	17.6	
土師器	鉢	中台～草刈式	1	18.4	
土師器	椀	中台～草刈式	1	6.9	
土師器	一括		92	220.5	
須恵器	甕	東海産	2	7.6	
石製品	礫		1	2.6	
SI003					
ロクロ土師器	杯		1	5.5	
土師器	椀	中台～草刈式	1	12.6	
土師器	甕		1	11.7	
土師器	一括		10	41.8	
縄文土器	深鉢	後期	1	10.3	
石製品	礫		1	14.0	
SI011					
土師器	小型壺	中台～草刈式	1	22.5	
SI015					
土師器	壺	中台～草刈式	6	26.1	
SI016					
ロクロ土師器	椀		1	10.5	
土師器	甕	中台～草刈式	3	18.0	
土師器	壺	中台～草刈式	3	70.5	
土師器	小型丸底壺	中台～草刈式	2	23.0	
土師器	甕		8	86.0	
土師器	一括		46	135.0	
縄文土器	深鉢	早期	1	6.0	
SI017					
土師器	壺	中台～草刈式	2	64.0	
土師器	高杯	中台～草刈式	1	8.0	
土師器	甕		5	54.5	
土師器	一括		14	47.5	
縄文土器	深鉢	早期	1	11.5	
SI018					
ロクロ土師器	杯		3	10.7	
土師器	甕	中台～草刈式	1	16.6	
土師器	甕	草刈式	12	86.1	
土師器	壺	草刈式	4	38.1	
土師器	一括		34	128.5	
須恵器	杯	永田・不入窯Ⅳ－２	1	5.5	

種別	器種	型式・産地	点数	重量（g）	備考
			総数	総量	
SI019					
土師器	高杯	中台～草刈式	1	23.9	
土師器	甕		6	82.0	
縄文土器	深鉢	早期	1	9.8	
弥生土器	壺	久ヶ原～山田橋式	1	3.7	
SI026					
ロクロ土師器	杯		1	1.5	
土師器	甕	中台～草刈式	6	61.5	
土師器	壺	中台式	1	7.0	
土師器	甕		1	13.5	
土師器	一括		4	25.0	
SB001 a2					
土師器	一括		4	12.0	
土製品	粘土塊		2	3.6	
SB001 a4					
土師器	甕		2	17.5	
SB001 c2					
縄文土器	深鉢	早期	1	8.9	
SB001 c3					
縄文土器	深鉢	早期	1	3.3	
SB003 a3					
ロクロ土師器	杯		2	6.9	
ロクロ土師器	椀	内面黒色処理	1	1.9	
土師器	甕	中台～草刈式	2	9.9	
土師器	壺	中台～草刈式	1	13.3	
土師器	甕		1	6.0	
土師器	一括		3	8.1	
SB004 a3					
土師器	高杯	中台～草刈式	2	10.4	
土師器	高杯	草刈式	1	9.7	
土師器	一括		6	20.7	
縄文土器	深鉢	早期	1	11.3	
SD001					
ロクロ土師器	杯		2	5.3	
土師器	甕	草刈式	11	90.2	
土師器	一括		15	54.5	
須恵器	甕	千葉産	1	3.8	
1トレンチ					
土師器	一括		1	2.2	
2トレンチ					
土師器	一括		1	1.8	
須恵器	瓶壺類	東海産	1	11.7	

種別	器種	型式・産地	点数	重量（g）	備考
			総数	総量	
3トレンチ					
ロクロ土師器	椀	内面黒色処理	3	17.3	
ロクロ土師器	小皿		1	5.3	
ロクロ土師器	杯		15	71.6	
土師器	杯	8C	1	3.5	
土師器	甕	中台～草刈式	3	9.6	
土師器	壺	中台～草刈式	5	55.0	
土師器	甕		5	43.5	
土師器	一括		61	188.1	
須恵器	杯	東海系	1	1.5	
須恵器	甕	東海系	3	21.0	
3トレンチ包含層					
ロクロ土師器	杯		16	48.5	
ロクロ土師器	椀	内面黒色処理	3	12.5	
ロクロ土師器	椀		3	17.0	
土師器	杯	8C	1	15.5	
土師器	甕	中台式	14	138.5	
土師器	甕	中台～草刈式	17	149.5	
土師器	甕	草刈式	1	30.8	
土師器	台付甕	中台～草刈式	1	10.0	
土師器	鉢	中台～草刈式	1	2.7	
土師器	高杯	草刈式	1	10.0	
土師器	椀	中台～草刈式	1	3.5	
土師器	甕		1	32.0	
土師器	一括		236	665.1	
須恵器	杯	東海系	1	0.5	
須恵器	杯	千葉産	1	5.0	
須恵器	甕	東海産	2	120.1	
須恵器	甕	木葉下産	1	35.0	
縄文土器	深鉢	早期	1	9.5	
石製品	礫		4	25.7	
3トレンチ包含層（上層）					
ロクロ土師器	杯		2	6.0	
ロクロ土師器	椀	内面黒色処理	2	14.5	
ロクロ土師器	椀		2	16.0	
土師器	甕	中台～草刈式	4	27.3	
土師器	甕	S字甕	1	5.0	
土師器	高杯	中台～草刈式	1	10.5	
土師器	高杯	草刈式	1	47.6	
土師器	一括		91	248.2	
須恵器	杯	永田・不入窯	1	2.0	
カワラケ	小皿		1	3.5	
弥生土器	鉢	久ヶ原～山田橋式	1	4.6	
鉄製品	鉄滓		1	4.9	
石製品	礫		1	9.3	

4 トレンチ

種別	器種	型式・産地	点数 総数	重量（g） 総量	備考
ロクロ土師器	椀	内面黒色処理	2	4.5	
土師器	杯	8C	1	6.5	
土師器	甕	草刈式	5	45.5	
土師器	壺	草刈式	6	85.7	
土師器	壺	中台～草刈式	1	34.0	
土師器	甕		1	15.5	
土師器	一括		28	118.9	

5 トレンチ

種別	器種	型式・産地	点数 総数	重量（g） 総量	備考
ロクロ土師器	杯		6	22.1	
土師器	甕		2	24.9	
土師器	一括		12	53.9	
須恵器	甕		1	10.9	
縄文土器	深鉢	早期	1	54.0	
縄文土器	深鉢	後期	8	165.0	
石製品	礫		5	95.0	

6 トレンチ

種別	器種	型式・産地	点数 総数	重量（g） 総量	備考
ロクロ土師器	杯		3	13.0	
土師器	甕	中台～草刈式	3	30.0	
土師器	壺	中台～草刈式	2	40.0	
土師器	高杯	草刈式	1	52.5	
土師器	一括		31	104.4	
須恵器	杯	東海系	1	2.5	
弥生土器	甕	山田橋式	1	3.5	

7 トレンチ

種別	器種	型式・産地	点数 総数	重量（g） 総量	備考
ロクロ土師器	杯		7	38.0	
ロクロ土師器	椀		3	32.0	
土師器	杯	8C	1	4.5	
土師器	甕	中台～草刈式	2	10.0	
土師器	高杯	中台～草刈式	1	6.5	
土師器	高杯	草刈３式	1	20.3	
土師器	甕		4	36.0	
土師器	一括		97	376.0	
須恵器	甕	東海系	2	79.5	
須恵器	甕	千葉産	2	13.0	
須恵器	瓶壺類	東海系	1	2.5	
カワラケ	小皿		1	19.0	
縄文土器	深鉢	早期	1	6.5	
縄文土器	深鉢	後期	3	50.0	
石製品	礫		2	35.0	

7 トレンチ包含層

種別	器種	型式・産地	点数 総数	重量（g） 総量	備考
ロクロ土師器	椀	内面黒色処理	1	2.5	
土師器	一括		10	38.4	
弥生土器	壺	山田橋式	1	8.5	

8 トレンチ

種別	器種	型式・産地	点数 総数	重量（g） 総量	備考
ロクロ土師器	杯		3	12.8	
土師器	一括		4	10.9	
中世陶器	瓶壺類	瀬戸美濃系	1	6.3	

9 トレンチ

種別	器種	型式・産地	点数 総数	重量（g） 総量	備考
ロクロ土師器	杯		1	4.9	
土師器	甕		2	48.1	
土師器	一括		6	9.9	

10 トレンチ

種別	器種	型式・産地	点数 総数	重量（g） 総量	備考
土師器	甕	中台式	1	16.3	
土師器	一括		1	1.5	
弥生土器	椀	山田橋式	1	7.6	

11 トレンチ

種別	器種	型式・産地	点数 総数	重量（g） 総量	備考
ロクロ土師器	杯		4	12.6	
土師器	甕	中台式	2	0.6	
土師器	壺	中台～草刈式	1	11.0	
土師器	甕		1	6.3	
土師器	一括		11	26.4	
縄文土器	深鉢	早期	1	33.8	
中世陶器	甕	常滑	1	29.1	

12 トレンチ

種別	器種	型式・産地	点数 総数	重量（g） 総量	備考
土師器	一括		4	20.4	

13 トレンチ

種別	器種	型式・産地	点数 総数	重量（g） 総量	備考
土師器	甕	中台～草刈式	2	17.0	
土師器	甕		1	8.2	

14 トレンチ

種別	器種	型式・産地	点数 総数	重量（g） 総量	備考
土師器	一括		3	11.8	
縄文土器	深鉢	早期	1	12.8	
石製品	礫		26	15.9	

15 トレンチ

種別	器種	型式・産地	点数 総数	重量（g） 総量	備考
縄文土器	深鉢	早期	1	5.0	
須恵器	瓶壺類	東海産	1	2.9	
ロクロ土師器	杯		1	1.3	
土師器	杯	8C	1	3.2	
土師器	高杯	中台～草刈式	2	21.7	
土師器	甕		2	47.3	
土師器	一括		24	113.5	

16 トレンチ

種別	器種	型式・産地	点数 総数	重量（g） 総量	備考
土師器	高杯	中台～草刈式	2	53.7	
土師器	甕	中台式	9	145.1	
土師器	甕	中台～草刈式	1	8.3	
土師器	小型壺	中台～草刈式	3	79.7	
土師器	一括		22	85.9	
須恵器	甕	千葉産	1	3.4	
石製品	礫		2	86.8	

18 トレンチ

種別	器種	型式・産地	点数 総数	重量（g） 総量	備考
土師器	甕	中台～草刈式	1	1.8	
土師器	一括		13	18.8	
石製品	礫		1	2.3	

19 トレンチ

種別	器種	型式・産地	点数 総数	重量（g） 総量	備考
ロクロ土師器	杯		1	2.0	
ロクロ土師器	小皿		1	3.3	
土師器	甕		2	32.1	
土師器	一括		3	5.7	

20 トレンチ

種別	器種	型式・産地	点数 総数	重量（g） 総量	備考
ロクロ土師器	杯		3	8.0	
土師器	甕		1	15.9	
土師器	一括		1	3.3	

21 トレンチ

種別	器種	型式・産地	点数 総数	重量（g） 総量	備考
ロクロ土師器	椀	内面黒色処理	2	11.0	
ロクロ土師器	小皿		1	4.9	
土師器	杯	8C	1	6.2	
土師器	甕	中台～草刈式	8	77.5	
土師器	甕	中台式	11	106.1	
土師器	壺	中台～草刈式	3	20.6	
土師器	小型壺	中台～草刈式	2	74.0	
土師器	高杯	草刈式	2	11.8	
土師器	甕		21	212.6	
土師器	一括		48	139.8	
須恵器	杯	永田・不入窯	1	5.8	
須恵器	瓶壺類	東海産	1	8.1	
縄文土器	深鉢	早期	1	10.4	
石製品	礫		2	186.1	

22 トレンチ

種別	器種	型式・産地	点数 総数	重量（g） 総量	備考
須恵器	杯	東海系	1	0.8	

23 トレンチ

種別	器種	型式・産地	点数 総数	重量（g） 総量	備考
土師器	一括		9	39.1	

24 トレンチ

種別	器種	型式・産地	点数 総数	重量（g） 総量	備考
土師器	甕	草刈式	5	39.7	
土師器	甕		2	45.3	
土師器	一括		21	75.9	
弥生土器	壺		1	11.6	
縄文土器	深鉢	早期	2	28.1	

25 トレンチ

種別	器種	型式・産地	点数 総数	重量（g） 総量	備考
土師器	一括		10	18.4	
須恵器	一括		2	5.7	
石製品	礫		1	9.3	

種別	器種	型式・産地	点数	重量（g）	備考
			総数	総量	
26 トレンチ					
土師器	甕		1	11.8	
土師器	一括		3	11.1	
縄文土器	深鉢	早期	1	7.1	
縄文土器	深鉢	後期	1	4.7	
28 トレンチ					
ロクロ土師器	杯		1	4.8	
ロクロ土師器	小皿		1	6.9	
土師器	杯	8C	1	5.0	
土師器	甕	中台～草刈式	2	12.0	
土師器	甕		8	59.7	
土師器	一括		16	34.7	
須恵器	甕	東海産	1	12.3	
須恵器	甕	新治産	1	6.2	
近世陶器	火鉢	瓦質土器	1	48.0	
弥生土器	椀	山田橋式	1	3.3	
石製品	礫		2	16.0	
30 トレンチ					
ロクロ土師器	杯		3	21.9	
ロクロ土師器	椀		1	18.3	
土師器	甕	中台～草刈式	2	5.9	
土師器	甕		2	25.2	
土師器	一括		3	7.7	
須恵器	杯	永田・不入窯Ⅳ-2	1	21.1	
須恵器	杯	永田・不入窯	2	5.7	
須恵器	瓶壺類	東海産	1	6.7	
石製品	礫		1	3.1	
32 トレンチ					
土師器	一括		6	35.8	
須恵器	甕	新治産	1	23.0	
須恵器	瓶壺類	東海産	1	3.0	
近世陶器	火鉢	瓦質土器	1	11.5	
鉄製品	鉄滓		1	21.2	
33 トレンチ					
ロクロ土師器	杯		3	14.0	
ロクロ土師器	椀		1	15.5	
土師器	杯	8C	1	10.0	
土師器	甕		1	11.5	
土師器	一括		10	17.3	
須恵器	甕	東海産	1	17.9	
須恵器	杯	産地不明	1	1.2	
須恵器	杯	永田・不入窯	1	5.1	
縄文土器	深鉢	早期	1	7.0	
石製品	礫		1	6.0	

種別	器種	型式・産地	点数	重量（g）	備考
			総数	総量	
34 トレンチ					
土師器	甕	中台～草刈式	6	66.5	
土師器	小型壺	中台～草刈式	1	5.5	
土師器	高杯	中台～草刈式	1	7.0	
土師器	一括		4	44.0	
石製品	礫		2	15.0	
35 トレンチ					
ロクロ土師器	杯		4	9.0	
土師器	杯	8C	2	34.5	
土師器	甕	中台式	1	9.5	
土師器	甕	中台～草刈式	6	67.0	
土師器	一括		34	61.5	
石製品	礫		1	16.5	
35 トレンチ包含層（下層）					
ロクロ土師器	椀	内面黒色処理	2	6.5	
ロクロ土師器	杯		5	25.5	
土師器	甕	中台～草刈式	18	190.0	
土師器	壺	中台～草刈式	1	24.9	
土師器	高杯	中台～草刈式	4	29.5	
土師器	小型丸底系	中台～草刈式	1	9.0	
土師器	一括		114	338.0	
須恵器	杯	永田・不入窯	1	2.0	
須恵器	甕	東海系	1	25.5	
中世陶器	甕	常滑	1	10.0	
弥生土器	甕		1	5.5	
縄文土器	深鉢	早期	1	9.5	
縄文土器	深鉢	後期	1	5.5	
石製品	砥石		1	59.0	
石製品	礫		1	50.0	
36 トレンチ					
ロクロ土師器	椀	内面黒色処理	1	10.0	
土師器	杯	8C	2	6.0	
土師器	甕	草刈式	4	26.0	
土師器	一括		16	51.2	
石製品	礫		2	16.5	
37 トレンチ					
土師器	甕		5	26.8	
須恵器	杯	永田・不入窯	1	7.3	
石製品	礫		1	20.8	

種別	器種	型式・産地	点数	重量（g）	備考
			総数	総量	
38 トレンチ					
土師器	甕	中台式	2	9.9	
土師器	甕	中台～草刈式	13	134.5	
土師器	高杯	中台～草刈式	3	25.1	
土師器	甕		4	59.7	
土師器	一括		50	250.0	
弥生土器	壺	久ヶ原～山田橋式	2	5.2	
縄文土器	深鉢	早期	2	12.2	
鉄製品	不明鉄製品		1	7.1	
土製品	粘土塊		2	58.6	
39 トレンチ					
土製品	粘土塊		4	6.5	
40 トレンチ					
土師器	一括		6	27.5	
拡張区					
ロクロ土師器	杯		1	1.8	
ロクロ土師器	小皿		1	6.1	
ロクロ土師器	足高高台土器		1	14.5	
土師器	杯	8C	3	16.9	
土師器	甕	中台～草刈式	4	53.8	
土師器	甕	草刈式	3	58.3	
土師器	椀	中台～草刈式	1	5.8	
土師器	高杯	中台～草刈式	2	35.5	
土師器	甕		5	49.1	
土師器	一括		20	100.9	
須恵器	杯	永田・不入窯	1	18.0	
須恵器	甕	千葉産	1	8.3	
弥生土器	壺	久ヶ原～山田橋式	1	3.4	
縄文土器	深鉢	早期	3	43.6	
遺構外					
ロクロ土師器	杯		1	1.5	
ロクロ土師器	杯類		2	8.5	
弥生土器	壺	久ヶ原～山田橋式	2	9.5	

第 18 表　未掲載軒平瓦出土量一覧

凡例：該当時期以外の遺構から出土した場合は、すべて遺構外扱い。計測値は mm、重量は g である。縄叩き目は 5 × 5cm あたり、布目は 2 × 2cm あたりの数値。

番号	トレンチ	遺構番号	型式	文様	段階	胎土	点数	重量（g）	顎分類	凸面ケズリ幅	凹面ケズリ幅	顎面幅	撚	条	節	経糸	緯糸	彫刻板分類	赤色顔料	白色顔料	側面調整	注記・接合関係	備考
236	3 トレンチ包含層		−	−	−	A	1	64.5	−	（38）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
237	21 トレンチ		−	−	−	B	1	207.5	−	（65）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	右−	−	

第 19 表　未掲載平瓦・丸瓦出土量一覧

凡例：縄叩き目 5 × 5cm あたり、布目は 2 × 2cm あたりの数値。重量の単位は g である。

番号	トレンチ	遺構番号	種別	調整	条	節	撚	彫刻板	経糸	緯糸	側面 A（点数）	側面 B（点数）	側面 C（点数）	側面 D（点数）	広端 A（点数）	狭端 A（点数）	広端 B（点数）	狭端 B（点数）	広端 C（点数）	狭端 C（点数）	広端 D（点数）	狭端 D（点数）	不明 A（点数）	不明 B（点数）	不明 C（点数）	不明 D（点数）	隅 a	隅 b	隅 c	隅 d	土分類	点数	重量（g）	備考
1	35 トレンチ	SI016	平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	17.5	
2	11 トレンチ	SK004	平瓦	縄叩き	−	−	L		17	15													1								C1	1	116.6	
3	11 トレンチ	SK004	平瓦	縄叩き	−	−	L		12	16				1																	E	1	123.8	
4	11 トレンチ	SK004	平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−		1																			C2	1	54.6	
5	1 トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					C1	1	6.1	
6	3 トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	116.7	
7	3 トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	41.9	
8	3 トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					C1	1	16.0	
9	3 トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	12.8	
10	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−	1																				A	1	115.1	
11	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−		1																			A	1	87.2	
12	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		15	15																					A	1	91.3	
13	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	54.7	
14	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					A	1	17.0	
15	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	99.1	
16	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		10	7																					C1	1	203.0	
17	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					C2	1	116.5	
18	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					A	1	98.0	
19	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					C2	1	157.0	
20	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					C2	1	107.0	
21	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		14	11																					A	1	142.5	
22	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					C2	1	98.9	
23	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	102.3	
24	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					C2	1	61.7	
25	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					C1	1	14.6	
26	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	35.1	
27	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					C2	1	11.3	
28	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					C2	1	153.2	
29	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	R		14	14						1											○				C2	1	127.3	
30	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					C2	1	104.1	
31	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	−		14	14																					A	1	314.0	
32	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					E	1	163.5	
33	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		9	12																					A	1	107.0	
34	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					A	1	108.0	
35	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−													1								A	1	88.0	
36	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	109.0	
37	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					A	1	69.5	
38	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					A	1	25.0	
39	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−													1								C2	1	61.0	
40	3 トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	33.0	

番号	トレンチ	遺構番号	種別	調整	条	節	撚	彫刻板	経糸	緯糸	側面A（点数）	側面B（点数）	側面C（点数）	側面D（点数）	広端A（点数）	狭端A（点数）	広端B（点数）	狭端B（点数）	広端C（点数）	狭端C（点数）	広端D（点数）	狭端D（点数）	不明A（点数）	不明B（点数）	不明C（点数）	不明D（点数）	隅a	隅b	隅c	隅d	土分類	点数	重量（g）	備考
41	3トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					E	1	52.0	
42	3トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					A	1	25.5	
43	3トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	24.5	
44	3トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					E	1	19.0	
45	3トレンチ包含層		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	11.0	
46	3トレンチ包含層		平瓦	格子叩き	−	−	−	17	−	−																					C2	1	105.7	
47	3トレンチ包含層（上層）		平瓦	縄叩き	−	−	L		12	12																					C2	1	75.3	
48	3トレンチ包含層（上層）		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	101.4	
49	3トレンチ包含層（上層）		平瓦	縄叩き	−	−	L		12	9																					C1	1	73.3	
50	3トレンチ包含層（上層）		平瓦	縄叩き	−	−	R		−	−																					A	1	46.3	
51	3トレンチ包含層（上層）		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					E	1	18.4	
52	3トレンチ包含層（上層）		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	23.6	
53	4トレンチ		平瓦	縄叩き	13	6	L		9	11																					A	1	145.7	
54	4トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		9	9																					C1	1	174.7	
55	4トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					C2	1	47.0	
56	7トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					C1	1	100.0	
57	7トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	70.7	
58	7トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	62.7	
59	7トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					A	1	39.6	
60	7トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					C2	1	55.7	
61	7トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					E	1	20.3	
62	7トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	40.1	
63	7トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					C2	1	35.1	
64	7トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	21.0	
65	8トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		13	14		1																			C2	1	176.2	
66	11トレンチ		平瓦	縄叩き	10	8	L		10	11													1								C1	1	595.0	
67	11トレンチ		平瓦	縄叩き	17	11	L		15	15																					C2	1	460.5	
68	11トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		13	12																					D	1	318.0	
69	11トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		11	12		1																			C2	1	148.2	
70	11トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	93.9	
71	11トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		13	11													1								C2	1	84.8	
72	11トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					C2	1	45.8	
73	11トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		13	15																					E	1	42.3	
74	11トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−		1																			E	1	21.6	
75	11トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					E	1	3.2	
76	11トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					D	1	2.2	
77	14トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					B	1	9.6	
78	15トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	6.5	
79	15トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		15	13																					A	1	103.8	
80	19トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−				1																	A	1	221.0	
81	21トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		14	15																					A	1	135.7	
82	21トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		16	15																					A	1	135.8	
83	21トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		13	15																					A	1	102.9	
84	21トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		13	14																					A	1	84.4	
85	21トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	50.8	
86	21トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	43.6	
87	21トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	55.1	
88	21トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−	1																				A	1	59.6	
89	21トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	R		−	−																					D	1	65.2	

番号	トレンチ	遺構番号	種別	調整	条	節	撚	彫刻板	経糸	緯糸	側面A（点数）	側面B（点数）	側面C（点数）	側面D（点数）	広端A（点数）	狭端A（点数）	広端B（点数）	狭端B（点数）	広端C（点数）	狭端C（点数）	広端D（点数）	狭端D（点数）	不明A（点数）	不明B（点数）	不明C（点数）	不明D（点数）	隅a	隅b	隅c	隅d	土分類	点数	重量（g）	備考
90	21トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−				1																	D	1	49.6	
91	21トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					C1	1	40.8	
92	21トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					A	1	29.3	
93	21トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					C1	1	24.4	
94	21トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					D	1	20.3	
95	21トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	21.1	
96	22トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		10	9													1								C1	1	149.7	
97	22トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					E	1	101.7	
98	22トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					B	1	34.6	
99	23トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		11	13																					E	1	391.0	
100	23トレンチ		平瓦	縄叩き	9	10	L		13	15																					A	1	150.7	
101	23トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−		1																			C2	1	119.6	
102	25トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					C2	1	62.2	
103	25トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					C1	1	6.6	
104	26トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					A	1	35.8	
105	26トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					C1	1	30.9	
106	28トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		16	15																					A	1	199.3	
107	28トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−	1																				C2	1	90.1	
108	28トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					E	1	47.7	
109	28トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					D	1	15.7	
110	28トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					A	1	14.6	
111	30トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		10	9																					C1	1	69.7	
112	30トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					D	1	52.6	
113	32トレンチ		平瓦	格子叩き	−	−	−	2	−	−																					C2	1	34.5	
114	32トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					C1	1	35.3	
115	32トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	27.6	
116	33トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	R		23	24		1																			A	1	153.3	
117	33トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		14	11																					A	1	80.7	
118	33トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		13	11		1																			C1	1	79.8	
119	33トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−		1																			A	1	40.8	
120	33トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					A	1	23.8	
121	33トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	−		−	−																					A	1	6.7	
122	35トレンチ		平瓦	縄叩き	9	7	L		16	13		1																			A	1	339.0	
123	35トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		14	10																					A	1	252.5	
124	35トレンチ		平瓦	縄叩き	14	11	L		16	14				1										1							C2	1	170.6	
125	35トレンチ		平瓦	縄叩き	13	10	L		−	−																					C1	1	367.0	
126	35トレンチ		平瓦	縄叩き	10	9	L		14	12																					A	1	310.5	
127	35トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		12	11																					A	1	92.8	
128	35トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		12	10																					A	1	218.5	
129	35トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		12	10																					A	1	109.3	
130	35トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	98.2	
131	35トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		18	17																					A	1	156.1	
132	35トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	118.3	
133	35トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	R		−	−																					A	1	176.3	
134	35トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	121.0	
135	35トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					C2	1	69.7	
136	35トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−		1																			C2	1	75.6	
137	35トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					A	1	70.5	
138	35トレンチ		平瓦	縄叩き	−	−	L		−	−																					C1	1	45.4	

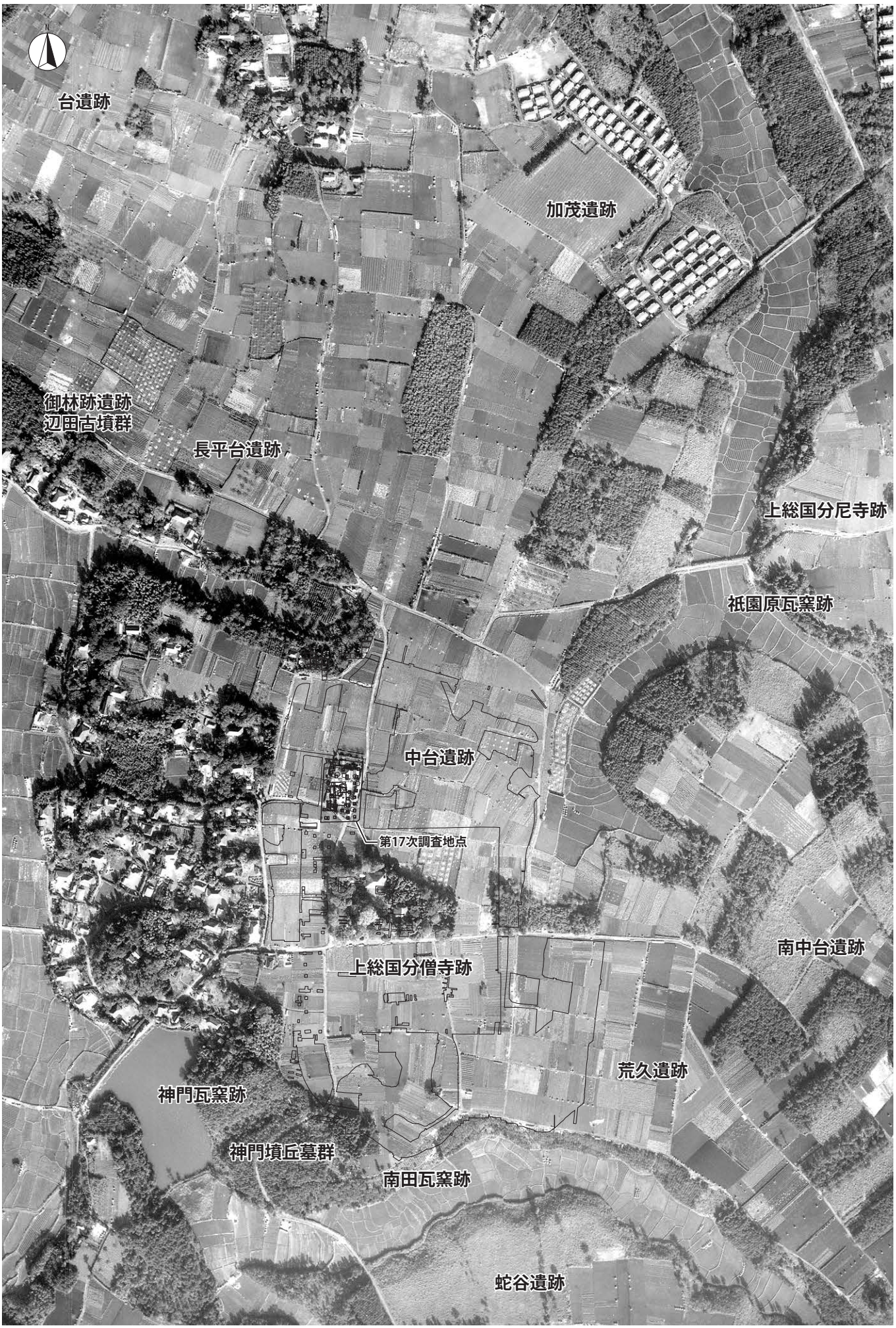
番号	トレンチ	遺構番号	種別	調整	条	節	撚	彫刻板	経糸	緯糸	側面A（点数）	側面B（点数）	側面C（点数）	側面D（点数）	広端A（点数）	狭端A（点数）	広端B（点数）	狭端B（点数）	広端C（点数）	狭端C（点数）	広端D（点数）	狭端D（点数）	不明A（点数）	不明B（点数）	不明C（点数）	不明D（点数）	隅a	隅b	隅c	隅d	土分類	点数	重量（g）	備考
139	35トレンチ		平瓦	縄叩き	－	－	L		－	－																					C2	1	13.5	
140	35トレンチ		平瓦	縄叩き	－	－	L		－	－																					B	1	20.0	
141	35トレンチ		平瓦	縄叩き	－	－	L		－	－																					A	1	10.4	
142	35トレンチ		平瓦	縄叩き	－	－	L		－	－																					A	1	113.8	
143	35トレンチ		平瓦	縄叩き	－	－	L		12	11		1																			C1	1	21.5	
144	36トレンチ		平瓦	縄叩き	－	－	L		18	15																					A	1	66.8	
145	36トレンチ		平瓦	縄叩き	－	－	L		15	15																					A	1	54.5	
146	38トレンチ		平瓦	縄叩き	16	11	L		13	16		1																			C1	1	244.0	
147	38トレンチ		平瓦	縄叩き	－	－	L		－	－																					C1	1	95.1	
148	38トレンチ		平瓦	縄叩き	－	－	R		10	9																					A	1	328.5	
149	38トレンチ		平瓦	縄叩き	16	11	L		15	15																					C1	1	194.6	
150	38トレンチ		平瓦	縄叩き	－	－	L		－	－																					A	1	111.8	
151	38トレンチ		平瓦	縄叩き	－	－	L		11	13																					A	1	78.2	
152	38トレンチ		平瓦	縄叩き	－	－	R		－	－																					C2	1	39.3	
153	38トレンチ		平瓦	縄叩き	－	－	－		－	－																					A	1	27.3	
154	38トレンチ		平瓦	縄叩き	－	－	－		－	－																					C2	1	18.7	
155	38トレンチ		平瓦	縄叩き	－	－	L		－	－																					A	1	36.8	
156	拡張区		平瓦	縄叩き	10	7	L		12	13																					E	1	296.0	
157	拡張区		平瓦	縄叩き	11	7	L		12	13																					A	1	285.0	
158	拡張区		平瓦	縄叩き	－	－	L		－	－		1																			D	1	108.1	
159	拡張区		平瓦	縄叩き	－	－	－		－	－																					C1	1	109.6	
160	拡張区		平瓦	縄叩き	－	－	L		－	－																					A	1	98.1	
161	拡張区		平瓦	縄叩き	－	－	L		－	－		1																			A	1	124.9	
162	拡張区		平瓦	縄叩き	－	－	L		－	－													1								A	1	95.6	
163	拡張区		平瓦	縄叩き	－	－	－		－	－																					E	1	64.7	
164	拡張区		平瓦	縄叩き	－	－	L		－	－																					B	1	46.1	
165	遺構外		平瓦	縄叩き	－	－	L		12	16													1								C2	1	190.6	
166	遺構外		平瓦	縄叩き	－	－	L		－	－													1								C1	1	79.9	
167	遺構外		平瓦	縄叩き	－	－	L		－	－																					C1	1	24.8	
168	35トレンチ	SI016	丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					C1	1	57.5	
169	3トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		6	11																					C2	1	54.5	
170	3トレンチ包含層		丸瓦	玉縁	－	－	－		－	－																					A	1	80.5	
171	3トレンチ包含層		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					C2	1	64.1	
172	3トレンチ包含層		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					A	1	56.5	
173	3トレンチ包含層		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					A	1	62.7	
174	3トレンチ包含層		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					B	1	100.4	
175	3トレンチ包含層		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					C1	1	54.1	
176	3トレンチ包含層		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					C2	1	39.5	
177	3トレンチ包含層		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					A	1	61.5	
178	3トレンチ包含層		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					C2	1	18.3	
179	3トレンチ包含層（上層）		丸瓦	不明	－	－	－		－	－		1						1													A	1	108.9	
180	3トレンチ包含層（上層）		丸瓦	不明	－	－	－		13	8		1																			A	1	74.7	
181	3トレンチ包含層（上層）		丸瓦	不明	－	－	－		7	10				1																	A	1	105.1	
182	3トレンチ包含層（上層）		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					C2	1	28.6	
183	3トレンチ包含層（上層）		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					C1	1	53.6	
184	3トレンチ包含層（上層）		丸瓦	不明	－	－	－		13	11																					C2	1	55.9	
185	5トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					C2	1	29.9	
186	7トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					A	1	37.8	
187	7トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		14	13		1																			C2	1	48.9	

番号	トレンチ	遺構番号	種別	調整	条	節	撚	彫刻板	経糸	緯糸	側面A（点数）	側面B（点数）	側面C（点数）	側面D（点数）	広端A（点数）	狭端A（点数）	広端B（点数）	狭端B（点数）	広端C（点数）	狭端C（点数）	広端D（点数）	狭端D（点数）	不明A（点数）	不明B（点数）	不明C（点数）	不明D（点数）	隅a	隅b	隅c	隅d	土分類	点数	重量（g）	備考
188	7トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					C2	1	43.3	
189	7トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					C1	1	33.2	
190	7トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					C1	1	21.8	
191	8トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					A	1	38.4	
192	11トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		17	18																					A	1	56.5	
193	11トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					C2	1	46.1	
194	11トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		14	15													1								A	1	63.1	
195	11トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					E	1	18.3	
196	15トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					D	1	41.1	
197	21トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		14	15	1																				C2	1	30.3	
198	21トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					A	1	120.2	
199	21トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－		1										1						○			A	1	106.7	
200	21トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					A	1	54.9	
201	21トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		14	15																					A	1	91.3	
202	21トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－		1				1											○				A	1	92.6	
203	21トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					A	1	74.6	
204	21トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					A	1	46.8	
205	21トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					A	1	60.4	
206	21トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					C2	1	22.3	
207	21トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					C1	1	28.4	
208	22トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					C2	1	44.0	
209	23トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		13	9		1																			D	1	100.3	
210	23トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		12	12																					A	1	40.7	
211	23トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					A	1	50.1	
212	23トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					E	1	28.7	
213	23トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					E	1	16.4	
214	23トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					E	1	16.2	
215	23トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					E	1	4.9	
216	26トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					A	1	51.4	
217	26トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					A	1	30.9	
218	28トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		16	15				1																	C1	1	157.4	
219	28トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		32	31					1																E	1	81.4	
220	28トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		15	16																					A	1	61.2	
221	28トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					C2	1	24.4	
222	28トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					A	1	27.5	
223	30トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					C1	1	38.6	
224	31トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					C2	1	14.3	
225	33トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					A	1	12.9	
226	35トレンチ		丸瓦	玉縁	－	－	－		13	15																					B	1	153.0	
227	35トレンチ		丸瓦	玉縁	－	－	－		13	10		1																			C1	1	128.5	
228	35トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		9	9			1					1													A	1	238.0	
229	35トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－								1													C1	1	41.7	
230	35トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		12	10																					A	1	180.1	
231	35トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		8	7																					C1	1	133.9	
232	35トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		15	18																					A	1	62.4	
233	35トレンチ		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					A	1	11.7	
234	拡張区		丸瓦	不明	－	－	－		9	10																					E	1	122.5	
235	拡張区		丸瓦	不明	－	－	－		－	－																					A	1	14.7	



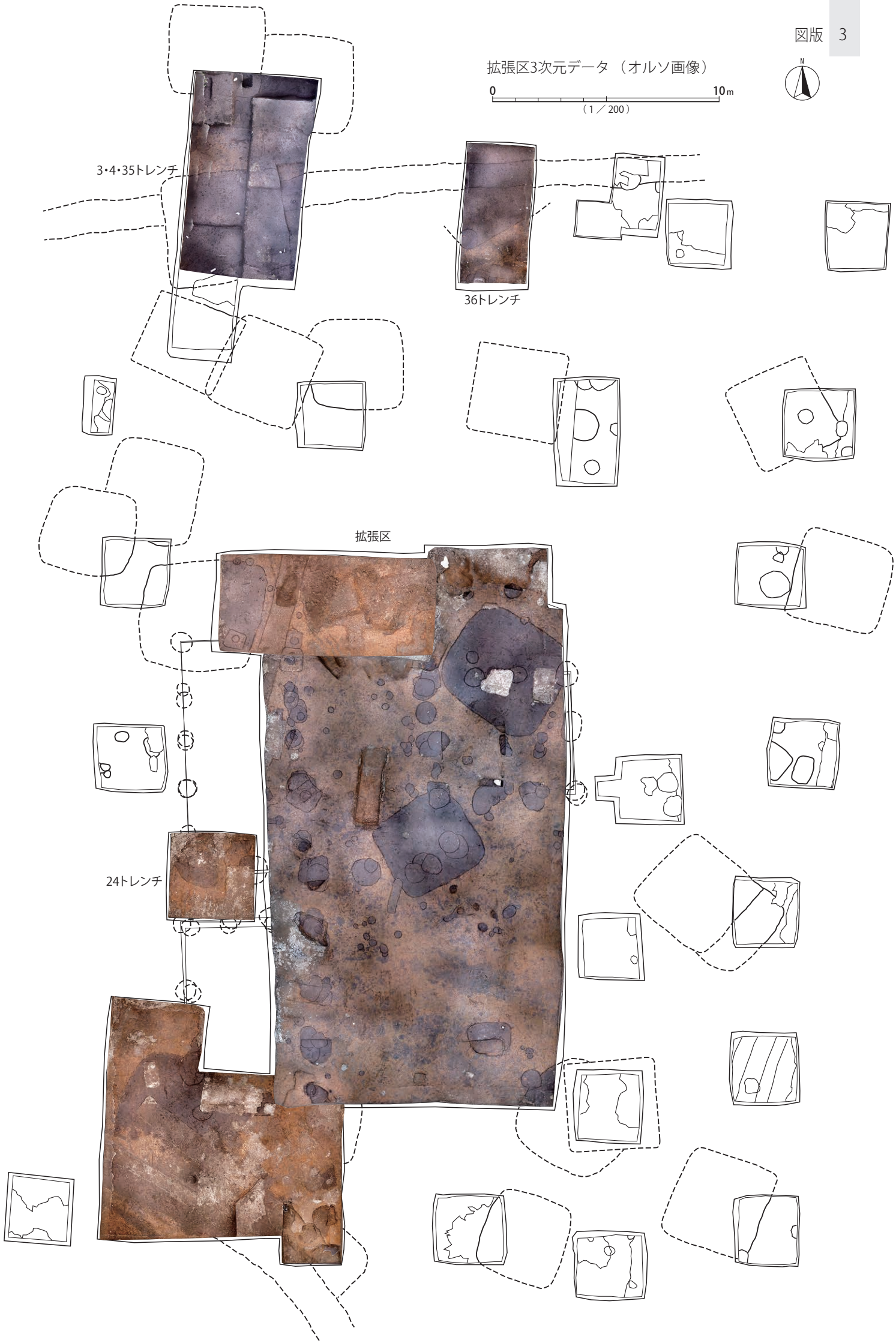
国分寺台周辺空中写真（1947年撮影）

0 500m



遺跡周辺空中写真（1961年撮影）

0 200m
（1／5,000）


拡張区3次元データ（オルソ画像）
0
10m
（1／200）
N
3・4・35トレンチ
36トレンチ
拡張区
24トレンチ



SB001A・B 東から



SB004 北から



SB001A 柱穴 c2 出土状況東から



上総国分僧寺跡軒瓦


表土掘削


調査前風景


1トレンチ北から


2トレンチ北から


3トレンチ東から


4トレンチ西から


5トレンチ南から


6トレンチ南から


SK001 出土状況西から


7 トレンチ東から


8 トレンチ東から


10 トレンチ南から


11 トレンチ南から


12 トレンチ西から


13 トレンチ南から


15 トレンチ東から


16 トレンチ東から


17 トレンチ北から


20 トレンチ北から


21 トレンチ西から


25 トレンチ南東から


26 トレンチ南から


27 トレンチ東から


29 トレンチ東から


30 トレンチ東から


31 トレンチ北から


32 トレンチ東から


33 トレンチ西から


34 トレンチ西から


36 トレンチ東から


SD001（36 トレンチ）東から


SK005 出土状況西から

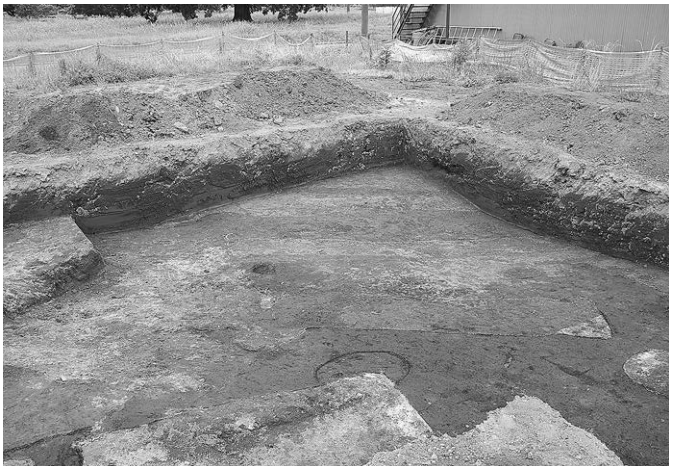

SI019 北から


SI020 北から


SI021 東から


SI023・024 北から


SI026 北から


SD002 北東から


SB001A 柱穴 c2 出土状況


SB002A・B 北東から


SB002A・B 柱穴 a1・b1 西から


SB002A・B 柱穴 c6・b6 西から


SB003A・B 南東から


SB003A・B 柱穴 a7・b7 南から


SB003A・B 柱穴 d3 西から


SB003A・B 柱穴 d7 西から


掘削作業風景


拡張区遠景


3・4・35 トレンチ SI002－1



3・4・35 トレンチ SI002－4


3・4・35 トレンチ SI016－1


3・4・35 トレンチ SI016－3


3・4・35 トレンチ SI016－4


3・4・35 トレンチ SD001（35 トレンチ）－1


3 トレンチ－2


6 トレンチ SK001－1


10 トレンチ－1


33 トレンチ－1


36 トレンチ SD001（36 トレンチ）－1


36 トレンチ SK005－1


拡張区－2

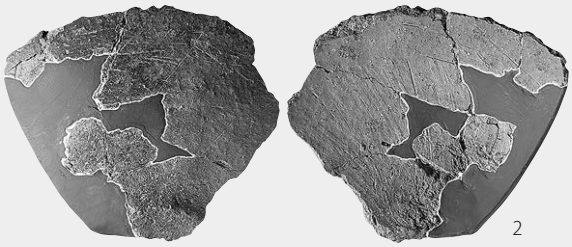
2トレンチ



1

0 10cm
（1／4）

3・4・35トレンチ
SI002



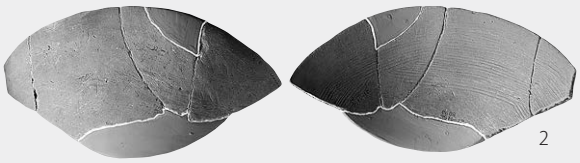
2



3

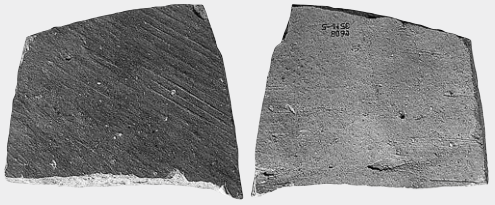
0 10cm
（1／4）

3・4・35トレンチ
SI016



2

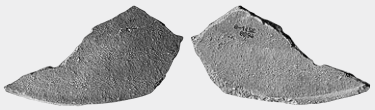
0 10cm
（1／4）



5

0 10cm
（1／3）

3・4・35トレンチ
SD001（35トレンチ）



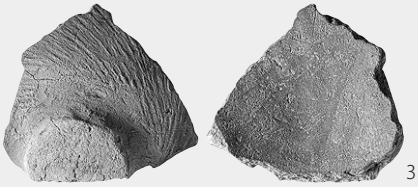
2

0 10cm
（1／4）

3トレンチ



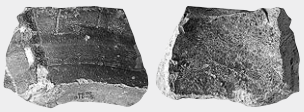
1



3



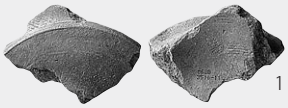
4



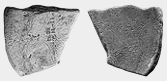
5

0 10cm
（1／4）

35トレンチ



1



2



3

0 10cm
（1／4）



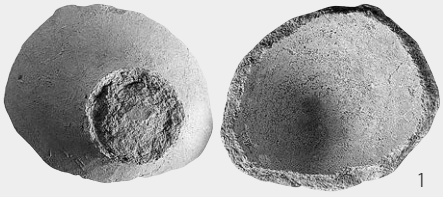
4



5（転用砥石）

0 10cm
（1／3）

16トレンチ
SI010



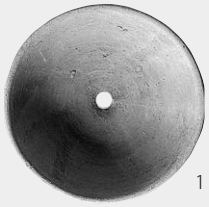
1



2

0 10cm
（1／4）

6トレンチ
SK001



1

0 10cm
（1／4）

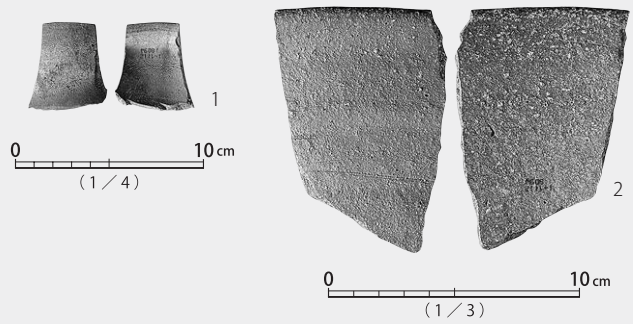
11トレンチ



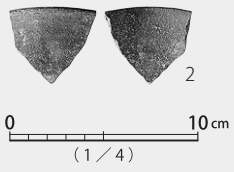
1

0 10cm
（1／4）

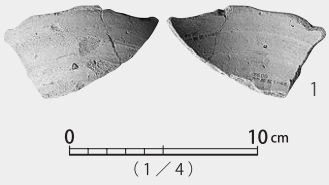
21トレンチ



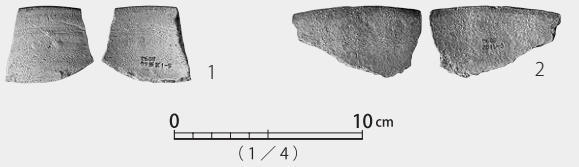
33トレンチ

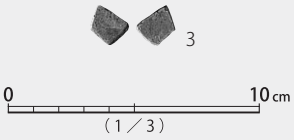


SB001B

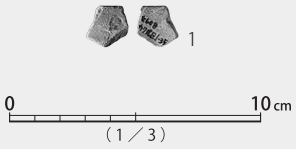


SB003A



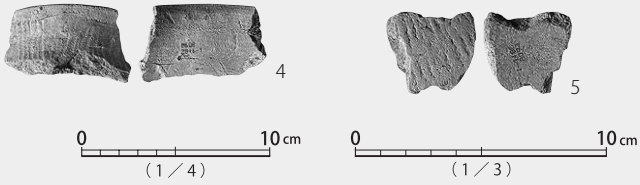


SB004



拡張区





遺構外

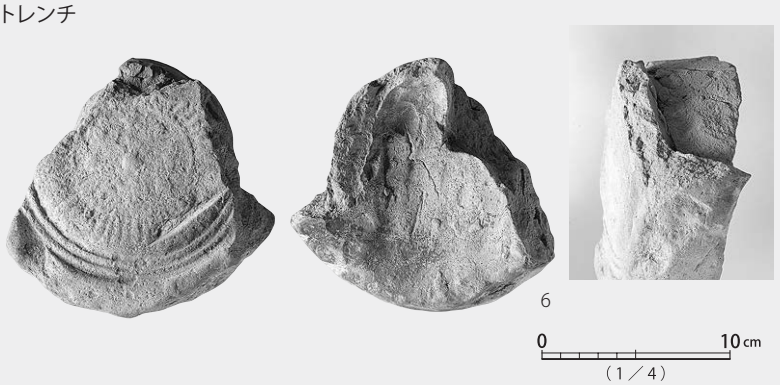


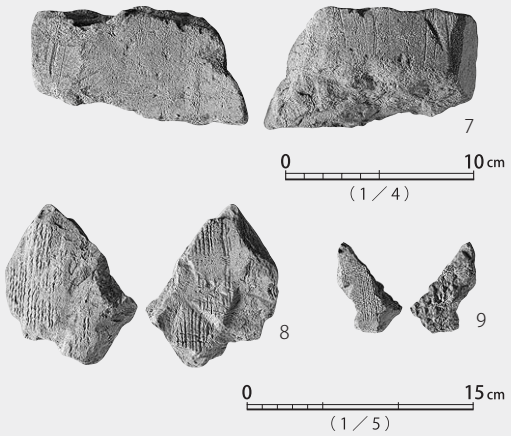
瓦

3・4・35トレンチ
SI016



3トレンチ

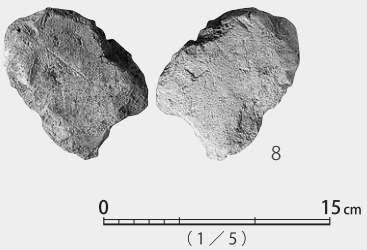




35トレンチ







瓦

7トレンチ



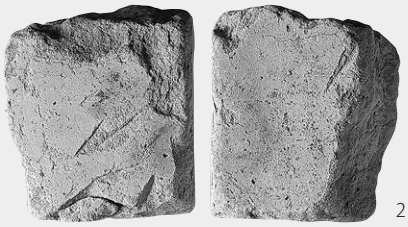
1

0 15cm
（1／5）

11トレンチ
SK004



1



2（塼）

0 15cm
（1／5）

21トレンチ



3



4

0 15cm
（1／5）

30トレンチ



1

0 15cm
（1／5）

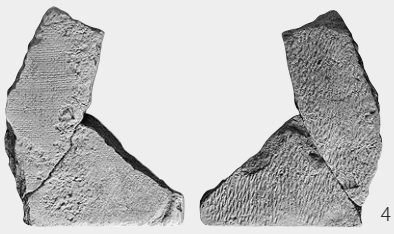
SB001A



1

0 10cm
（1／4）

SB003A

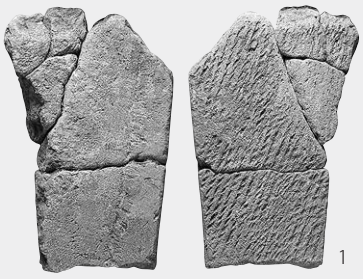


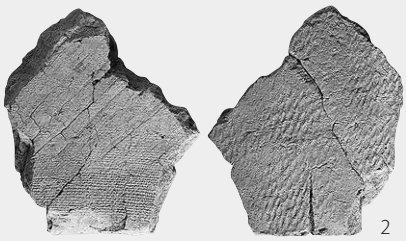
4

0 15cm
（1／5）

瓦

SB003B

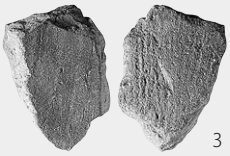

1


2

0 15cm
（1／5）

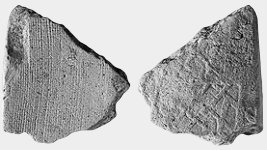
SB004


2

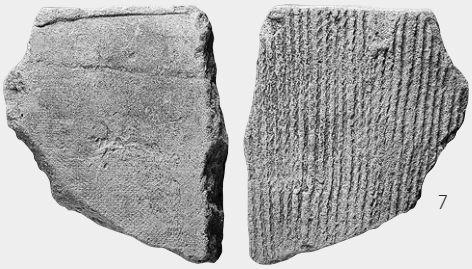

3

0 15cm
（1／5）

拡張区

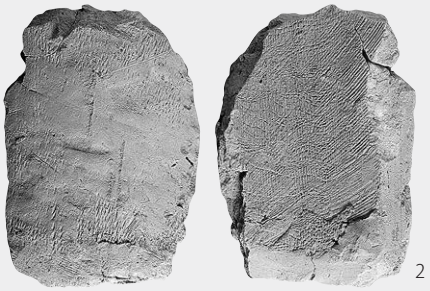

6


8（塼）


7

0 15cm
（1／5）

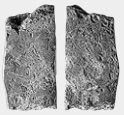
遺構外


2

0 15cm
（1／5）

石製品

36トレンチ
SD001


2

0 10cm
（1／3）

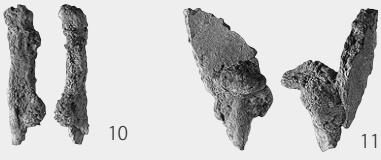
遺構外


3

0 10cm
（1／3）

鉄製品

3トレンチ


10 11

0 5cm
（1／2）

6トレンチ
SK001


2

0 5cm
（1／2）

7トレンチ


2

0 5cm
（1／2）

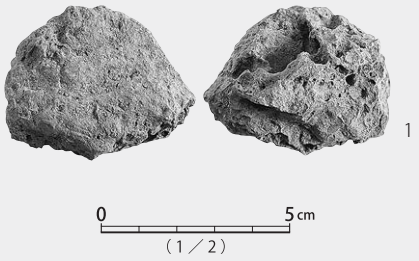
鉄製品

21トレンチ

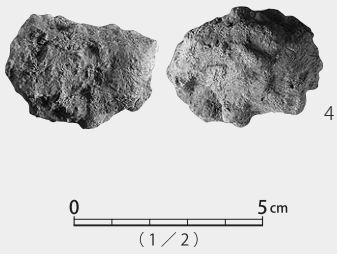


36トレンチ

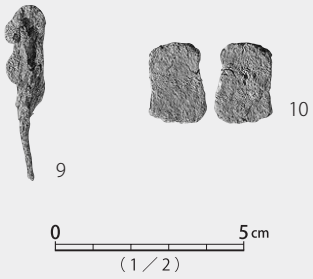
SI018



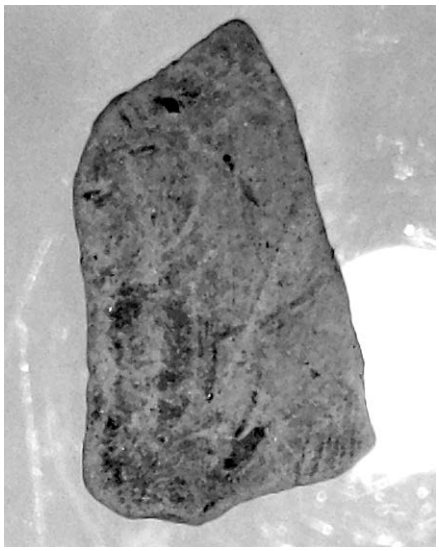
SB004



拡張区



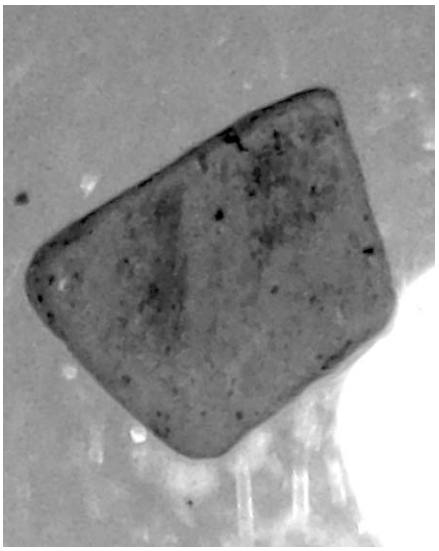
墨書土器赤外線写真



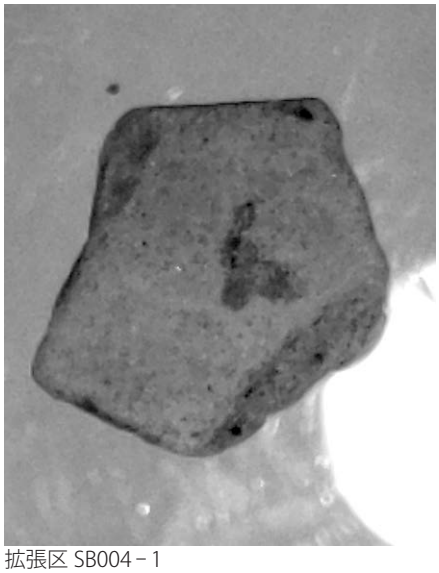
35 トレンチ－4



33 トレンチ－1

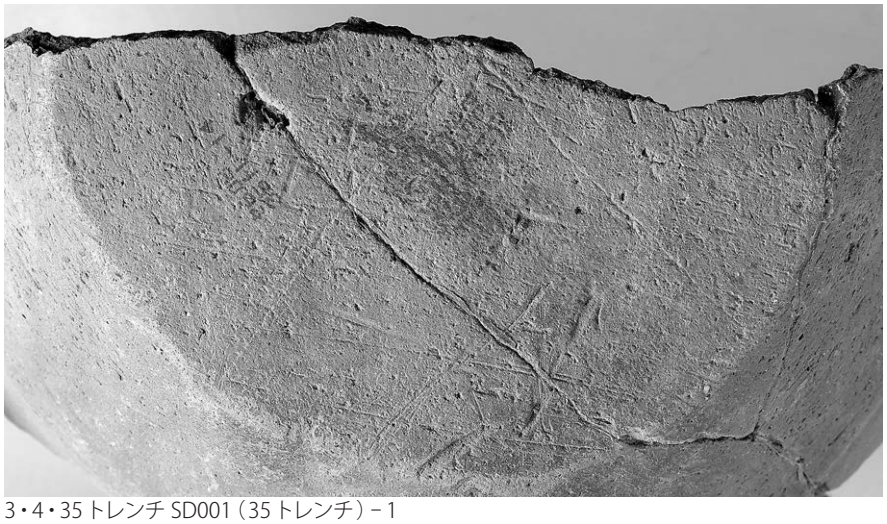


拡張区 SB003A－3



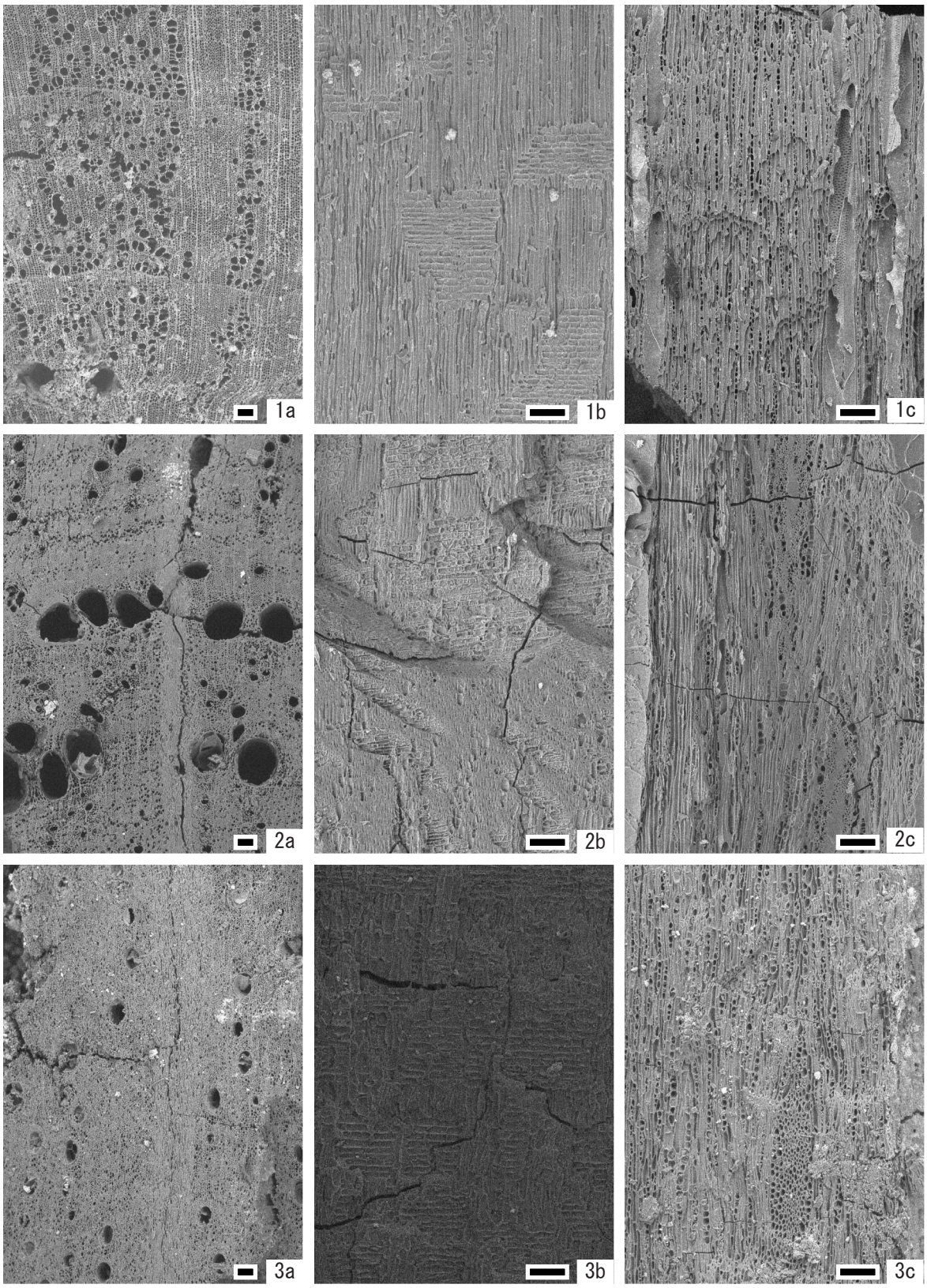
拡張区 SB004－1

線刻土器部分写真



3・4・35 トレンチ SD001（35 トレンチ）－1

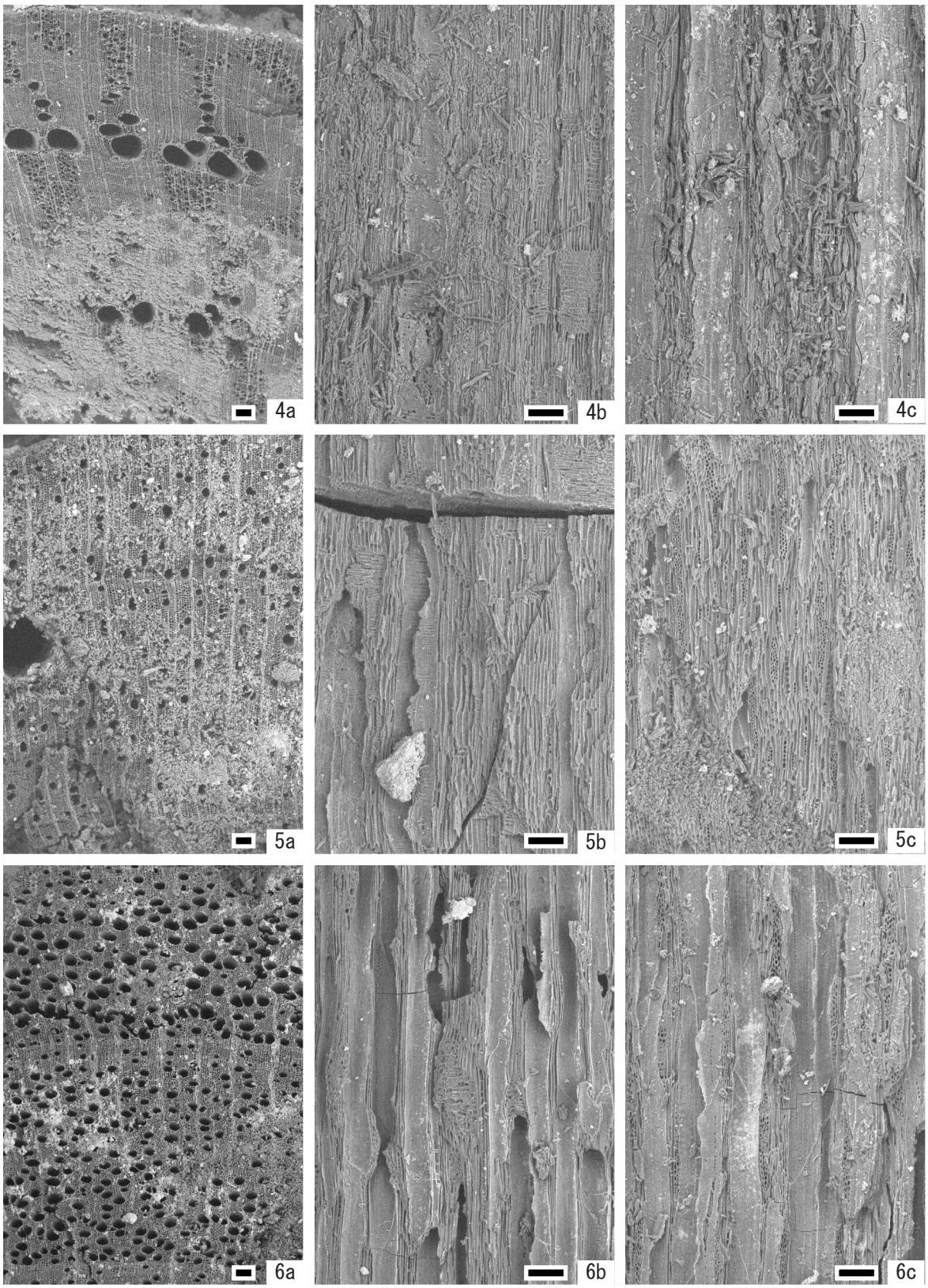
炭化材(1)



1. ハンノキ属(No. 15)
2. コナラ亜属クヌギ節(No. 13)
3. アカガシ亜属(No. 2)

a:木口　b:柾目　c:板目
スケールは100μm

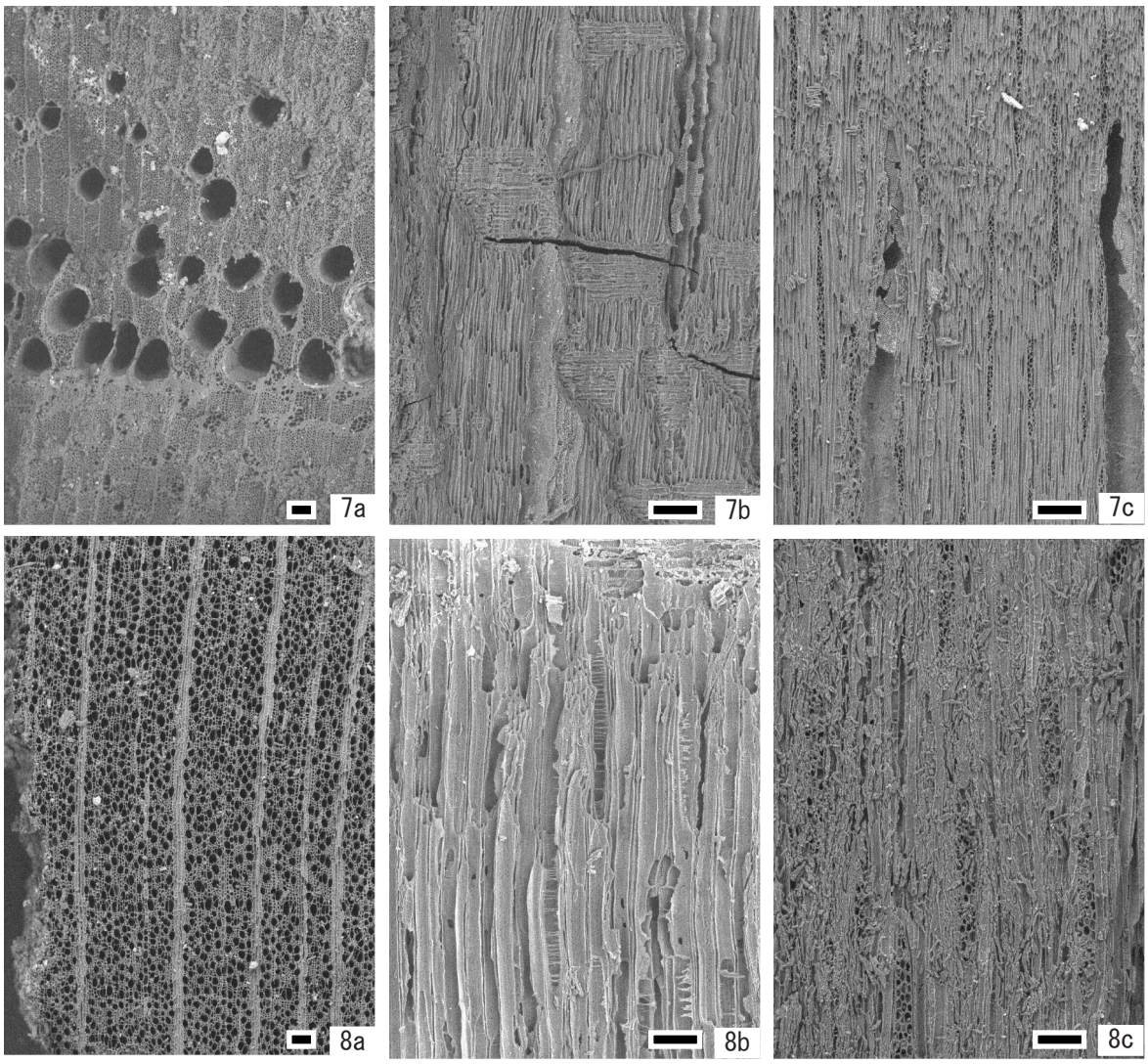
炭化材(2)



4.スダジイ(No.12)
5.モクレン属(No.19)
6.モチノキ属(No.9)

a:木口　b:柾目　c:板目
スケールは100μm

炭化材(3)



7. ムクロジ(No.4)
8. ヒサカキ(No.1)

a:木口　b:柾目 c:板目
スケールは100μm

報 告 書 抄 録

ふりがな	かずさこくぶんそうじあと さん
書　名	上総国分僧寺跡Ⅲ
副書名	
巻　次	
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書
シリーズ番号	第 68 集
編著者名	浅野健太（市原市教育委員会）、高野和弘・田中義文・東澤翔（パリノ・サーヴェイ株式会社）
編集機関	市原市教育委員会（市原市埋蔵文化財調査センター）
所在地	〒 290－0011　千葉県市原市能満 1489 番地　TEL 0436（41）9000
発行年月日	2026 年（令和 8 年）1 月 30 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
かずさこくぶんそうじあと 上総国分僧寺跡	ちばけんいちはらしそうじゃ２ちょうめ７ばんち７・８ 千葉県市原市惣社二丁目７番地７・８	12219	744	35° 29′ 51″	140° 06′ 38″	20230427 ～ 20230626	675	遺跡範囲及び内容確認
なかでいせき 中台遺跡			745					

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上総国分僧寺跡	寺院跡	奈良・平安時代	竪穴建物跡 1 棟・掘立柱建物跡 7 棟・土坑 2 基・溝 1 条	土師器、須恵器、灰釉陶器、土製品（転用砥石・朱墨パレット・瓦）、石製品（砥石）、鉄製品（鉄鏃・鉄釘・刀子・馬具？・鉄滓等）	上総国分僧寺の講師院推定地の西側で、同時期の掘立柱建物跡を検出した。上総国分僧寺の運営施設とみられる。
		中世・近世	道路 1 条	カワラケ、中世陶磁器、近世陶磁器	
中台遺跡	集落跡	弥生時代後期～古墳時代前期	竪穴建物跡 18 棟	縄文土器、弥生土器、土師器、石製品（剥片）	神門古墳群（墳丘墓群）の母村とみられる集落を検出した。
		時期不明	竪穴建物跡 7 棟・土坑 3 基		

要　約	上総国分僧寺の寺院地北辺部の講師院西側を調査した。これまで遺構が希薄であることから薗院に推定されてきたが、講師院と同時期の掘立柱建物跡を検出した。L 字に 3 棟の掘立柱建物を配置し、いずれの建物も 1 度の建て替えがなされる。その後、掘立柱建物は 1 棟のみとなる。官衙的な建物配置と位置関係から、上総国分僧寺の運営施設と考えられる。下層の中台遺跡では、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴建物を検出し、既往の調査成果で確認された集落が、今回の調査地点でも広がっていることが確認された。

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第68集

上総国分僧寺跡Ⅲ

令和8年1月30日　発行

編　　集　　市原市教育委員会
市原市埋蔵文化財調査センター
千葉県市原市能満1489
TEL 0436（41）9000

発　　行　　市原市教育委員会
千葉県市原市国分寺台中央1-1-1
TEL 0436（22）1111

印　　刷　　三陽メディア株式会社　市原営業所
千葉県市原市五井東3-47-10
TEL 0436（22）4348